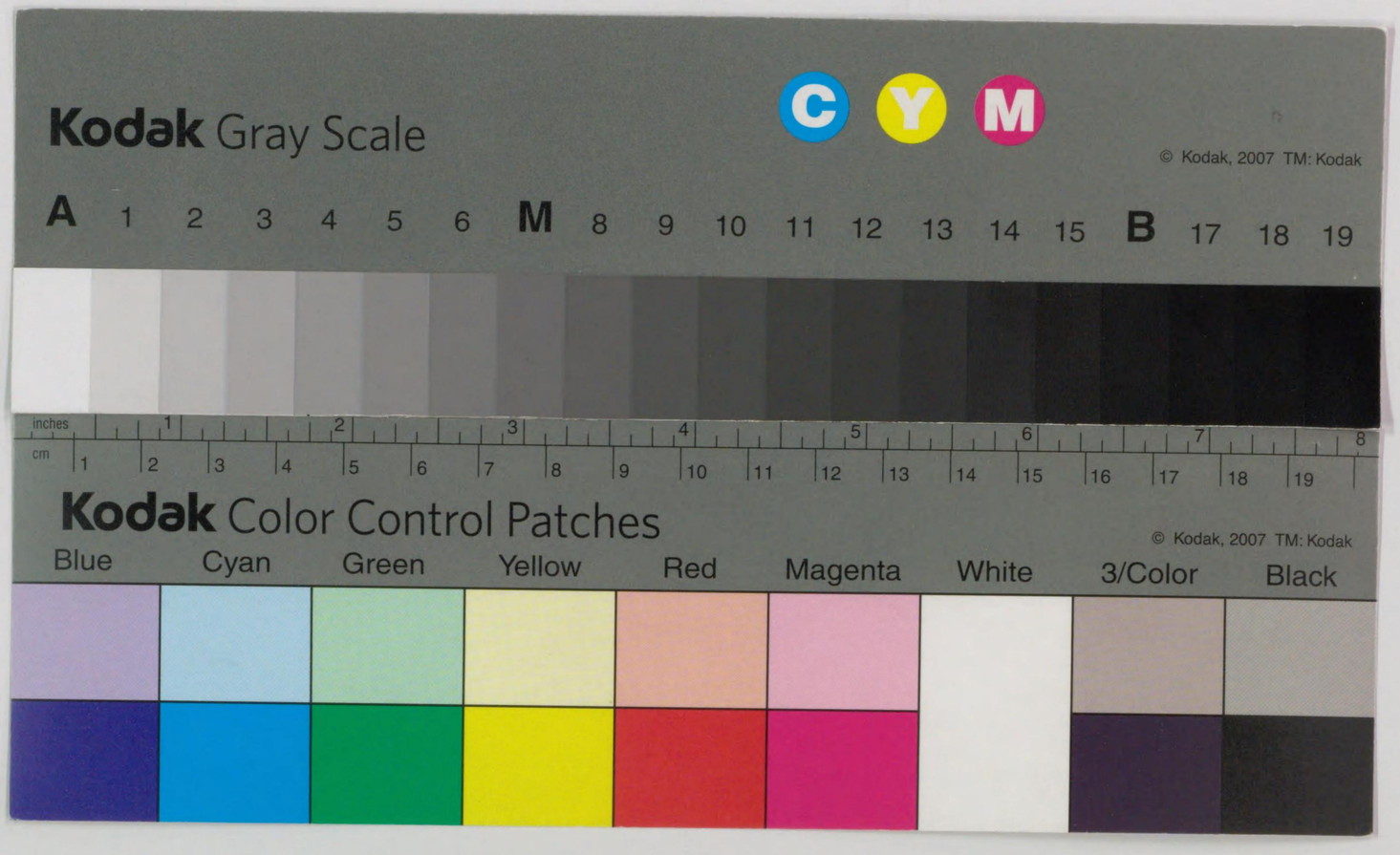


593

593-1
12005015266 26

1 529

加藤咄堂編

# 國民思想叢書 聖德篇

國民思想叢書刊行會藏版

593-1

# 凡例

（聖德篇解題）

一　我が　皇室は民族の中心であると共に統治の中心であり、民權擁護の中心であると共に又民福增進の中心である。我が國民思想は常に皇室を中心として涵養せられ育成せられ來たので、歷代の詔勅は實に國民思想の中樞を成し來つたものと見奉るべきものであり、歷代の聖德は範を國民に示したまひしものと仰ぎ奉るべきものである。本編は之を謹輯して國民思想の淵源と其の發育の經路を知らしめんとしたもので、收むる所は一端であるが、之れを推して他を忖れば　聖旨の優渥と聖恩の洪大、而して洋々たる　聖德の萬古に徹し、兆民に遍きを知るの料たるに足らむ。

一　纂輯には過誤なきを期し、一々出典を明にし、其の原文を抄錄し、且つ童蒙に便せんが爲に之れに註釋を添加した。歷代御製集は、もと之れ折りに觸れての御述懷にして其の一々を集錄せんには本篇を幾倍するも尙ほ足らざるあるを想はしむるを以て、こ

丶には其の特に民政に關するものと、國民修養の箴たるべき四五を收めて其の一般を知るの便に供したるに過ぎない。これも亦難解の字句を註して童蒙に便することとし詔勅と聖德と、而して此御製と相映發して列聖德を布き歷代國を思ひ民を思ひたまふの大御心を知るの一端とした。

一　中古政權武門に移り、親しく政治に關する詔勅を仰ぐこと少く、將軍權を弄して民は時に塗炭に苦みたることあり、しかも、之れを惠みたまひし大御心は御製の上に發露し、聖德の上に現はる。讀者通觀以て　聖恩の無量なるを感ずるあらば幸ひである。

一　蓋し皇室中心の思想は國民思想の中堅にして、人民中心の政治は歷代の範を示したまふ所、時に中間に閥族の之れを阻隔するものあれば之れを倒さんとするは國民が皇室中心の叫びたる勤王の聲であり、之れに應同した民福を增進したまひしは皇室の稜威である。日本の歷史は實に此皇室中心の思想と人民中心の政治とによつて編成せられたりといふも誣言にあらざるもので、之れを明かに徵證するものは歷代の詔勅であり聖德であり、御製である。之れを擴げば三千年の歷史ともなるべきもので、本篇に收むる所の如きは眞に九牛の一毛に過ぎない。

一　列聖の御遺誡其の帝王たるの道を說き示したまふものの今に傳はるもの二三にして止らず特に其の懇切を盡くしたるものとして古來宇多法皇の御遺誡を推す。今は其の人事に關したるものを略し、僅に一節を揭げ、花園上皇の「誡太子書」並に「後花園天皇の御消息」を載す。其他世に傳はるものとしては花園天皇の御父道欽親王が天皇に贈りたまひし「椿葉記」並に「後水尾天皇の御教訓書」の如き千載の下、拜讀して其の聖誡の優渥なるに感泣せしめらるゝもの多く、特に其の「御教訓書」に、

下の放埒は卽ち上の恥辱になり候事に候へば正道に引きかへさまほしき事に候、其の本亂れて末治まるといふことはあらじにて候へば本正しく御身を治められ候はん事第一の御事に候

と仰せられし如き帝王學の骨髓とも見奉るべきものであるが、今は僅に「聖誡三章」と題し、上に揭げたる三篇に止めた。これらの多くは九重の奧深く秘められて其の原本を見る能はず。其の洩れて民間に傳はれるものによりたるが故に傳寫の誤なきを保せず、謹んで宥恕を祈る。

一　歷代佛敎に關する詔勅少からざるも、其の大部分は「佛敎篇」に之れを纂輯したる「緇

門鴻寶」の一書を加へることにしたからこゝには之れを省いた。

一　本篇の編輯に關しては福田四郎氏專ら詔勅と聖德との二集を編し、更に佐々木文學士の手を經て高崎直承氏並に沼倉文學士の修補を煩はし、最後に予之れを撰修したるも、篇成つて尙ほ遺憾少からず、しかも上記諸氏の勞は他の諸篇に比して更に大なるものあり、こゝに記して謝意を表す。

昭和五年四月

咄堂識

# 目次


歷代詔勅集……一—二五六
歷代聖德集……二五七—三四六
歷代御製集……三四七—四五〇
聖誡三章……四五一—四六九
細別目次……四七一—四九九

# 歷代詔勅集

# 解題

皇祖皇宗、國を肇めたまひしより列聖相承けて國に臨むや家の如く、民を視ること子の如くにして今日に至る。歴代の詔勅はまことに之れ統治の洪範にして國體の精英と仰ぎ奉るべきもの、國史之れを載せ、國民之れを傳へ、炳として日星の如し、今、神代より大正天皇に至るまでの詔勅を謹輯して歴代詔勅集と名け、現代人をして拜誦し易からしめんがため訓譯を添え、別に讀譯の標頭に註釋を付して童蒙に便し、明治以後の詔勅は原漢文にあらざるを以て訓譯せざるが故に、其の標頭を汚すの不敬を想ひ、其の註解を略することとした。

歴代の詔勅、もとより之れに盡きたるにあらず、尚幾多の詔勅の傳ふべきものありといへども、今は一般國民に對する思想的影響の著るしき聖詔に止め、以て歴代の聖德を仰望せしむるの一端とす。多く正史に準據して誤なきを期したるも、時、遼遠に亘り、傳寫の際向ほ魯魚焉馬の誤なきを保せず。請ふ深く咎むるなきを望む。

帝國圖書館藏

# 歴代詔勅集

## 神勅

天孫降臨ノ神勅　（日本書紀卷第二）

葦原千五百秋之瑞穗國　是吾子孫可王之地也。宜爾皇孫就而治焉。行矣。寶祚之隆、當與天壤無窮者矣。

謹譯

葦原千五百秋ノ瑞穗國ハ、是レ吾ガ子孫ノ王タル可キ地ナリ。宜シク爾皇孫就テ治セ、サキクアレ。寶祚ノ隆エマサンコト、當ニ天壤ト窮リナカルベシ。

寶鏡ヲ天孫ニ授ケ給フ神勅　（日本書紀卷第二）

吾兒視此寶鏡、當猶視吾。

○皇孫―「スメミマ」に同じ。接頭詞。
○天照大神の意。即御孫の皇ち瓊々杵尊を申し奉る。
○行矣―さきくましませよ。皇孫降臨の意。
○平安無事を祈らせ給ふ御言葉。
○寶祚―天津

日嗣の義にて天皇の御統のことをいふ。

○吾兒云々　天照大御神、天孫に寶鏡を授けたまはんとする時、御手に寶鏡を持ちたまひかくの詔し給ふ。

○神籬―古來學者間に諸說あり。記傳には柴諸木の略なりと云ひ、類聚名物考には檜桓の意なりとある。古事類苑神祇部參照。

○乞ふ。―磐境―磐は石の即ち石屋の即ち同じ殿を建設すと齋殿を設石を起しするためのの意である。

○齋庭―天神を祭る潔齋の處を云ふ。この處即ち齋場の起れ原で今日の大嘗會には悠紀主基の齋場を選定することこれによる。

可下與同レ床共レ殿、以爲齋鏡上

謹譯

吾ガ兒コノ寶鏡ヲ視マサンコト、マサニ吾ヲ視ルガ如クスベシ。トモニ床ヲ同ジクシ、殿ヲ共ニシ以テ齋鏡ト爲スベシ。

## 天孫奉齋ノ神勅　（日本書紀卷第二）

高皇産靈命因　勅曰

吾則起二樹天津神籬及天津磐境一、當爲二吾孫一奉レ齋矣。汝天兒屋命、太玉命、宜持二天津神籬一、降二於葦原中國一、亦爲二吾孫一奉レ齋焉。

惟爾　二神亦同侍二殿內一、善爲二防護一。以二吾高天原所御齋庭之穗一亦當レ御二於吾兒一。

謹譯

吾ハ則チ、天津神籬及ビ天津磐境ヲ起シ樹テテ、當ニ吾孫ノ爲ニ、齋ヒ奉ラン。汝天兒屋命、太玉命宜シク、天津神籬ヲタモチテ、葦原中國ニ天降リテ、亦、吾孫ノ爲ニ齋ヒ奉レ。

惟ハクハ。爾二神亦同ジク、殿內ニ侍ヒテ防ギ護ルコトヲナセ。吾高天原ニ聞食ス齋庭ノ稻穗ヲ以テ、亦吾兒ニマカセマツルベシ。

## 神武天皇

### 東征ノ大御言　（日本書紀卷第三）

昔我天神高皇産靈尊、大日孁尊。擧二此豐葦原瑞穗國一、而授二我天祖彥火瓊々杵尊一。於是彥火瓊々杵尊闢二天關一、披二雲路一、駈二仙蹕一以戾止。是時運屬二鴻荒一、時鍾二草昧一。故蒙以養正。治二此西偏一、皇祖皇考。乃神乃聖。積レ慶重レ暉、多歷二年一所。（中略）而遼邈之地、猶未レ霑二於王澤一、遂使下邑有レ君村有レ長、各自分レ疆、用相凌躒上。抑又聞二

○駈仙蹕―今日の天皇又は貴顯の出入し給ふ時、蹕をかけて先拂ひを警めの掛聲を警ミサキハラヒと云ふ。即ち警蹕とも いふ。

○戾止―天孫降臨せるを云ふ。

於鹽土老翁一曰。東有二美地一、青山四周。其中亦有乘二天磐船一飛降者。余謂、彼地必當足以恢二弘天業一光宅天下。蓋六合之中心乎。厥飛降者、謂是饒速日歟。何不二就而都之一乎。

○皇祖皇考―日本通釋に云ふ。瓊々杵尊。火々出見尊。葺不合尊なりと。

○遼瀛之地云々―天孫降臨以來烈聖相次ぎ經國大業を以て成し遂げつるところ、猶未だ高天原を中心とする日向の國一圓の恩澤に浴せざるものの威烈は遠く大和の津々浦々までも及んでなかつたもの、狀態を以て下は述べたものである。

○鹽土老翁―通釋に「住吉大神の現人神を云ふ」なりと。

○天磐船―古來異說あるが此名詞では單に神々の天降りに乘り給ふ堅固な乘物である。

## 謹譯

昔我天神高皇產靈尊、大日孁尊、コノ豐葦原瑞穗ノ國ヲ擧テ、我カ天祖彥火瓊々杵尊ニ授ケタマヘリ。ココニ彥火瓊々杵尊天關ヲ闢キ、雲路ヲ披ケ、仙蹕シテイタリマシヌ。是時ハ運、鴻荒ニアヒ、時草昧ニアタレリ。故ニ蒙ヲ以テ正ヲ養ヒ、コノ西ノ偏ヲ治ス。皇祖皇考、乃チ神乃チ聖ニシテ、慶ヲ積ミ暉ヲ重ネテ、多ク年所ノ歷タリ。〔中略〕而ルニ遼邈ノ地、猶未ダ王澤ニ霑ハズ。遂ニ邑ニ君アリ、村ニ長アリテ、各自疆ヲ分チ用ヒテ相凌躒ロハシム。ハタマタ聞クニ、鹽土老翁ノ曰ク、東ニ美地有リト。青山四ニ周リ、其ノ中ニ亦天ノ磐船ニ乘リテ飛ビ降レル者アリト。餘謂フニ彼地ハ、必ズ以テ天業ヲ恢弘シ、天下ニ光宅トスルニ足ルベシト。蓋シ六合ノ中心カ。厥ノ飛ビ降レル者ハ、謂フニ是饒速日ナランカ。何ゾ就テ都セザランヤ。

○於茲六年―甲寅年より起算して己未年の六年の謂なり。

○大壯（ミアラカ）―大壯を「ミ」と云ふは、元來大人と同身、神等を以て意味を字で「ミ」と訓ませるのである。

○即位建國ノ大詔（日本書紀卷第三）

自二我東征一於レ茲六年矣。賴二以皇天之威一、凶徒就戮。雖二邊土未レ清餘妖尚梗一、而中洲之地無二復風塵一。誠宜二恢二廓皇都一、規二摹大壯一、而今運屬二此屯蒙一、民心朴素。巢棲穴住習俗惟常。夫大人立レ制、義必隨レ時。苟有レ利レ民何妨二聖造一。且當二披拂山林一、經二營宮室一、而恭臨二寶位一、以鎭二元元一。上則答二乾靈授レ國之德一、下則弘二皇孫養レ正之心一。然後兼二六合一、以開レ都、掩二八紘一、而爲レ宇不二亦可一乎。觀二夫畝傍山東南橿原地一者、蓋國之奧區乎。可レ治レ之。

## 謹譯

我レ東征シテヨリ、茲ニ六年ナリ。以テ皇天ノ威ニ賴リ、兇徒戮ニ就キヌ。邊土未ダ淸マラズ、餘妖尚梗タリト雖モ、而モ中州〔大和〕ノ地、マタ風塵ナシ。



たと解して充分である。

○甲寅年より起算して己未年の謂なり。

○大壯（ミアラカ）―大壯を「ミ」と云ふは、元來大人と同身、神等を以て意味を字で「ミ」と訓ませるのである。

○即位建國ノ大詔（日本書紀卷第三）

自二我東征一於レ茲六年矣。賴二以皇天之威一、凶徒就戮。雖二邊土未レ清餘妖尚梗一、而中洲之地無二復風塵一。誠宜二恢二廓皇都一、規二摹大壯一、而今運屬二此屯蒙一、民心朴素。巢棲穴住習俗惟常。夫大人立レ制、義必隨レ時。苟有レ利レ民何妨二聖造一。且當二披拂山林一、經二營宮室一、而恭臨二寶位一、以鎭二元元一。上則答二乾靈授レ國之德一、下則弘二皇孫養レ正之心一。然後兼二六合一、以開レ都、掩二八紘一、而爲レ宇不二亦可一乎。觀二夫畝傍山東南橿原地一者、蓋國之奧區乎。可レ治レ之。

## 謹譯

我レ東征シテヨリ、茲ニ六年ナリ。以テ皇天ノ威ニ賴リ、兇徒戮ニ就キヌ。邊土未ダ淸マラズ、餘妖尚梗タリト雖モ、而モ中州〔大和〕ノ地、マタ風塵ナシ。

誠ニ宜シク、皇都ヲ恢廓シ、大壯ヲ規摹スベシ。而シテ、今ノ運此レ屯蒙ニ屬シ、民ノ心朴素ニシテ、巣棲穴住ノ習俗惟レ常ナリ。夫レ大人ノ制ヲ立ツルハ、義必ズ時ニ隨フ。苟クモ、民ニ利アラバ、何ゾ聖造タルヲ妨ゲン。且當ニ、山林ヲ披キ拂ヒ、宮室ヲ經營シ、恭テ寶位ニ臨ミ、以テ元元ヲ鎮ムベシ。上ハ則チ乾靈國ヲ授クルノ德ニ答ヘ、下ハ則チ皇孫ノ正ヲ養フ心ヲ弘メン。然シテ後、六合ヲ兼ネテ以テ都ヲ開キ、八紘ヲ掩ヒテ宇ト爲スコト、亦可カラズヤ。夫ノ畝傍山ノ東南橿原ノ地ヲ觀レバ、蓋シ國ノ墺區カ、之ニ治ス可シ。

## 天神ヲ祀ルノ詔　（日本書紀卷第三　四年春二月）

我皇祖之靈也、自レ天降鑒光助朕躬。今諸虜已平、海内無事、可下以郊祀天神、用申大孝上者也。

謹譯

國の大御財に當るゆへに元の文字を用ひたるものなり。

○乾靈―乾坤と熟字し乾は天を表す。

○降鑒―神靈は現身隱身に對しての義。故に天神のことに云ふ。

○同じ。

○降臨―降臨して人間が昇降をみそなはせられるの意。

○郊祀―支那では冬至と夏至の日に天子親ら郊外に出御して天地の祭りをなすとかの祭りを文字をもて云ふ。

○宸極―帝王の居所を云ふ。故に天津日嗣に當てたのである。

○司牧―司と牧と云ふも牧と意云ふも人を統理すること云ふ。

○玄功―玄は即ち天子の故に天子ノ功ハ玄ノ意である。

我ガ皇祖ノ靈、天ヨリ降リ鑒リテ朕躬ヲ光シ助ケタマヘリ。今諸ノ虜已ニ平ゲ海内無事ナリ、以テ天神ヲ郊祀シテ大孝ヲ申ブベキモノナリ。

## 崇神天皇

群卿百僚ニ下シ給ヘル詔　（日本書紀卷第五　四年十月）

惟我皇祖諸天皇等、光臨宸極者、豈爲一身乎。蓋所以司牧人神經綸天下。故能世闡玄功、時流至德。今朕奉承大運、愛育黎元。何當聿遵皇祖之祖、永保無窮之祚。其群卿百僚、竭爾忠貞、共安天下、不亦可乎。

惟フニ、我ガ皇祖諸天皇宸極ニ光臨シ給フコトハ、豈一身ノ爲ナランヤ。蓋シ、人ト神ヲ司牧シテ、天下ヲ經綸スル所以ナリ。故ニ能ク世々玄功ヲ闡キ時ニ至德ヲ流ケリ。

今朕大運ヲ奉承シ、黎元ヲ愛育ス、如何ニシテ當ニ皇祖ノ跡ニ聿遵シ、永ク無窮ノ祚ヲ保ツベキ。其レ群卿百僚、爾ノ忠貞ヲ竭シテ、共ニ天下ヲ安ンゼムコト、亦可ラズヤ。

○黎元―黎民。黎庶等と云ふに同じく人民を云ふ。即ち我國の「オホムダカラ」に當るかから此の字をあてた。○聿遵―聿は述なり。後漢の光武帝記に「太宗謙終始能之義。景帝敦道」と遵事とある。○群卿百僚―群卿百官等と云ふに同じ。群僚百官等と云ふに同じ。熟役人を云ふ。即ち此處では臣連、伴造、國造を指す。

## 神祇山宗祭ノ詔（日本書紀卷第五 七年庚寅二月）

昔我皇祖大啓ニ鴻基ヲ、其後聖業逾高、王風轉盛。不レ意、今當ニ朕世ニ數有ニ災害ヲ、恐朝無ニ善政ヲ、取ニ咎神祇ニ耶。盡命ニ神龜ニ以極ニ致レ災之所由ヲ也。

○鴻基―鴻業。土臺。○此處―此の處。○創建―創業。○成―成功。○仰―仰ぎ。○完―完ふ。○天―天皇。○給―給ふ。○嗣―嗣ぎ。○定―定め。○津―津。○日―日。○命―指す。○大業―大業。○神龜―龜卜。○甲―甲。○吉凶―吉凶。○風―風。○判―判斷。○燒―燒いて。○支那―支那。○古代―古代。我が國には布斗麻邇の法と云つて神意を決するまで事を決するまでと云ふ。古信時代は隨分古いつまり時代から行はれた。○ひそ―ひそ。○ふら―ふら。○行者―行者。○神祇官―神祇官。○屬して―屬して。○神祇―神祇。○天神―天神。○禮―禮。○敬―敬。○祇―祇。○表―表。○對―對。○意―意。○遠荒人―遠荒人。○文―文。○化―化。○發揚―發揚。○地―地。○流―流。○都―都。○雖―雖。○田―田。○舍―舍。○意―意。○住―住。○正朔―正朔。○人―人。○々―々。○みへ―みへ。○支―支。○とのこと―とのこと。○國―國。○發―發。○布―布。○天下―天下。○皆―皆。○國―國。○法―法。○邊―邊。○民―民。○せ―せ。○ねば―ねば。○國―國。○なら―なら。○ぬ―ぬ。○令―令。○亦―亦。○詔―詔。○如―如。○さか―さか。○しも―しも。○とれば―とれば。○元―元。○來―來。○正―正。○月朔―月朔。○日朔―日朔。○のし―のし。○をそ―をそ。○とは―とは。○正―正。○月―月。○のも―のも。○辱―辱。

## 教化ヲ四方ニ布クノ詔（日本書紀卷第五 十年七月）

導レ民之本、在ニ於教化一也。今既禮ニ神祇、災害皆耗。然遠荒人等、猶不レ受ニ正朔一。是未レ習ニ王化一耳。其選ニ群卿一遣ニ于四方一、令レ知ニ朕意一。

### 謹譯

民ヲ導クノ本ハ教化ニ在リ。今既ニ神祇ヲ禮シ、災害皆耗キヌ。然レドモ遠荒ノ人等猶正朔ヲ受ケズ。是レ未ダ王化ニ習ハザルノミ。其レ群卿ヲ選ビテ四方ニ遣ハシ、朕ガ意ヲ知ラシメヨ。

## 四道將軍ニ下シ給ヘル詔（日本書紀卷第五 十年十月）

今叛悉伏レ誅、畿內無事。唯海外荒俗騷動未レ止。其四道將軍等今急發之。

### 謹譯

今返ケル者悉ク誅ニ伏シ、畿內事ナシ。タダ海外ノ荒俗騷動未ダ止マズ

云ふのであるが、それを天皇の詔にあてたのである。

○四道將軍―一、大彦命（孝元天皇の皇子）を北陸へ　二、武淳河別命（大彦命の子）を東海へ　三、吉備津彦（孝靈天皇の皇子）を西道へ　四、丹波道主（開化天皇の皇孫）を丹波へ。

其レ四道將軍等、今急ニ發之セヨ。

## 人民ヲ校シ調役ヲ課スルノ詔（日本書紀卷第五十二年春三月）

○校人民課調役―四道將軍の派遣によつて皇化漸くで遠の地まで及んだ地の統一新殖を計る爲に此初めて人民を校べ、男女には手末の調を課せられ弓弭の調を給ふたのである。

朕初承ニ天位ヲ、獲レ保ニ宗廟ヲ、明有レ所レ蔽、德不レ能レ綏。是以陰陽謬錯、寒暑失レ序。疫疾多起百姓蒙レ災。然今解レ罪改レ過、敦禮ニ神祇ヲ、亦垂レ教而綏ニ荒俗ヲ、舉レ兵以討ニ不服ヲ。是ヲ以官無ニ廢事ヲ、下無ニ逸民ヲ。教化流行衆庶樂レ業。異俗重レ譯來、海外既歸化。宜レ當ニ此時ニ、更校ニ人民ヲ、令レ知長幼之次第及課役之先後ヲ焉。

### 謹譯

朕初メテ天位ヲ承ケテ、宗廟ヲ保ツコトヲ獲レドモ、明モ蔽ル所アリ、德モ綏ンズルコト能ハズ。是ヲ以テ陰陽謬リ錯ヒテ、寒暑序ヲ失ヒ、疫病多ニ起リテ、百姓災ヲ蒙ク。然ルニ今罪ヲ解ヒ過ヲ改メ、敦ク神祇ヲ禮ヒ、亦教ヲ垂レテ荒俗ヲ綏ンジ、兵ヲ擧ゲテ以テ不服ヲ討ツ。是ヲ以テ官ニ廢事ナク、下ニ逸民ナシ。教化流キ行ハレテ、衆庶業ヲ樂ム。異俗譯ヲ重ネテ來リ、海外既ニ歸化セリ。宜シク此ノ時ニ當リテ、更ニ人民ヲ校ヘテ、長幼ノ次第及ビ課役ノ先後ヲ知ラシムベシ。

## 造船ノ詔（日本書紀卷第五十七年七月）

船者天下之要用也。今海邊之民、由レ無レ船、以甚苦ニ步運ヲ。其令ニ諸國ニ俾レ造ニ船舶ヲ。

### 謹譯

船ハ天下ノ要用ナリ。今海邊ノ民、船ナキニ由リ、甚ダ步運ニ苦シム。其レ諸國ニ令シテ船舶ヲ造ラシメヨ。

## 池溝ヲ開鑿ノ詔（日本書紀卷第五六十二年乙酉七月）

農天下之大本也。民所ニ恃以生ル也。今河內狹山埴田水少。是以、其國百姓怠ニ於農事ヲ。其多開ニ池溝ヲ、以寬ニ民業ヲ

○農を奈利波比と訓してゐるのは昔は佃、即五穀がなる業を奈利、から云つたのである。

○河内狹山（河内國丹比郡狹山郷）

○埴田―通證に云ふ。今作二半田一。爲二村名一とあり。

○池溝―「ウナ」は海邊、海原のうなと同じ、手は道なり。通釋に水の流れる方向を示す。即ち灌漑に供する水溝地の事を云ふ。

○謙損―御身を謙退し、奢侈を禁じ、欲を捨て給ひし意也。

○沖退―物靜に坐します形容。

○綢繆機衡―萬機を丁寧に治め給ふを云ふ。

○止殉―殉死することを止めよの御心也通證云。今按再見二孝德紀一。近世寛文中亦有二此禁一。

## 垂仁天皇

### 神祇ヲ祭祀スルノ詔（日本書紀卷第六二十五年丙辰二月）

我先皇御間城入彥五十瓊殖天皇、惟叡作レ聖。欽明聰達、深執二謙損一、志懷二沖退一、綢二繆機衡一。禮二祭神祇一。剋レ己勤レ躬、日慎二一日一。是以人民富足、天下太平也。今當二朕世一。祭二祀神祇一、豈得レ有レ怠乎。

**謹譯**

我ガ先皇御間城入彥五十瓊殖天皇ハ、惟叡ニ聖タリ。欽明聰達、深ク謙損ヲ執リテ、志沖退ヲ懷キ機衡ヲ綢繆シ神祇ヲ禮祭シ己ニ剋チ躬ヲ勤メテ、日一日ヨリ愼シミタマフ。是ヲ以テ、人民富ミ足テ、天下太平ナリ。今朕ガ世ニ當リテ、神祇ヲ祭祀スルコト、豈ニ怠ルコト有ルヲ得ンヤ。

### 殉死ヲ禁止スルノ詔（日本書紀卷第六二十八年十月五日）

夫以二生所一レ愛、令レ殉二亡者一、是甚傷矣。其雖二古風一、非レ良何從。自レ今以後、議之止レ殉。

**謹譯**

夫レ生クルトキ愛シ所ヲ以テ、亡者ニ殉シムルハ、是レ甚ダ傷マシキワザナリ。其レ古ノ風ト雖モ、良キニ非ザレバ何ゾ從ハン。今ヨリ以後議シテ殉ヲ止メヨ。

## 景行天皇

日本武尊ヲシテ東夷ヲ征討セシムルノ詔（日本書紀卷第七四十年庚戌六月）

朕聞、其東夷也、識性暴強、凌犯爲レ宗。村之無レ長、邑之勿レ首。各貪二封堺一、並相盜略。亦山有二邪神一、郊有二姦鬼一、遮レ衢塞レ徑、多令レ苦レ人。其東夷之中、蝦夷是尤強焉、男女交居、父子無レ別、冬則宿レ穴、夏則住レ樔。衣レ毛飲レ血、昆弟相疑、登レ山如二飛禽一、行レ草如二走獸一。承レ恩則忘、見レ怨必報。是以弦藏二頭髻一、刀佩二衣中一。或聚二黨類一而犯二邊界一、或伺二農桑一、以略二人民一。擊則隱レ草、追則入レ山、故往古來、未レ染二王化一。今朕察二汝爲レ人也、身體長大、容姿端正、力能扛レ鼎、猛如二雷電一、所レ向無レ前、所レ攻必勝。即知レ之、形則我子、實則神人。是寔天愍二朕不叡一、且國不レ平、令レ經二綸天業一、不レ絶二宗廟一乎。亦是天下、則汝天下也。是位則汝位也。願深謀遠慮、探レ姦伺レ變、示レ之以レ威、懷レ之以レ德、不レ煩二兵甲一、自令二臣隷一、



○村邑―大村や小村の意。○首―大人の意。○髻「タブサ」―神功紀に「儲弦藏二手髮中一」とあり。○王化―御思向なり。○臣隷―參順なり。

### 謹譯

朕聞クカノ東夷ハ識性强暴ニシテ凌犯ヲ宗トス、村ニ長ナク、邑ニ首ナシ。各卦界ヲ貪リテ、並ニ相盜略ス。亦山ニ邪神アリ、郊ニ姦鬼アリテ、衢ヲ遮リ徑ヲ塞ギテ、多ク人ヲ苦マシム。其ノ東夷ノ中蝦夷最モ强シ、男女交リ居テ、父子別ナシ。冬ハ則チ穴ニ宿リ、夏ハ則チ樔ニ住ム。毛ヲ衣血ヲ飲ンデ昆弟相疑ヒ。山ニ登ルコト飛禽ノ如ク、草ヲ行クコト走獸ノ如シ。恩ヲ承ケテハ則チ忘レ、怨ヲ見テハ必ズ報ユ。是ヲ以テ、弦ヲ頭髻ニ藏メ、刀ヲ衣中ニ佩ケリ。或ハ黨類ヲ聚メテ邊界ヲ犯シ、或ハ農桑ヲ伺ヒ以テ人民ヲ略ス。擊テバ則チ草ニ隱レ、追ヘバ則チ山ニ入ル、往古ヨリ未ダ王化ニ染ハズ。今朕、汝ノ人トナリヲ察スルニ、身體長大、容姿端正ニシテ、力能ク鼎ヲ扛グ猛キコト雷電ノ如ク、向フ所前ナク、攻ムル所必ズ勝ツ。則チ知ル形ハ我ガ

子ニシテ、實ハ則チ神人ナリ。是寔ニ天　朕ガ不叡ニシテ且ツ國ノ平カナラザルコトヲ愍ミ、天業ヲ經綸シテ、宗廟ヲ絶タザラシムカ。亦是ノ天下ハ、則チ汝ノ天下ナリ、此ノ位ハ則チ汝ノ位ナリ。願ハクハ深ク謀リ遠ク慮リテ、姦ヲ探リ、變ヲ伺ヒテ、之ニ示スニ威ヲ以テシ、之ヲ懷クルニ德ヲ以テシ、兵甲ヲ煩サズシテ、自ラ臣隷セシメヨ。

○總角―揚卷とも書く、小兒の髮のゆひかた。髻を左右兩方に分ちて結びて、其狀角の如く見ゆる故かく云ふ。

## 小碓王ヲ悼ミ給フ詔（日本書紀卷第七　四十年庚戌）

我子小碓王、昔熊襲叛之日、未ル及ニ總角一、久煩ニ征伐一。既而恒在ニ左右一、補ニ朕不及一。然東夷騷動、勿ニ使ル討者一、忍ル愛以入ニ賊境一、一日之無ル不ル顧。是以朝夕進退佇ニ待還日一。何禍兮、何罪兮、不意之間、倏ニ亡我子一。自ル今以後、與ニ誰人一之經ニ綸鴻業一耶。

謹譯

我ガ子小碓ノ王（日本武尊）昔、熊襲ノ叛キシ日、未ダ總角ニモ及バズシテ、久シク征伐ニシテ煩フ。既ニシテ恒ニ、左右ニ在リテ、朕ガ及バザルヲ補ヒヌ。然ルニ、東夷騷動シテ討タシムル者無ク、愛ヲ忍ビ以テ、賊境ニ入ラシム一日モ顧ミザルコト無シ。是ヲ以テ朝夕進退シテ還ラン日ヲ佇待セシニ、何ノ禍ゾ、何ノ罪ゾ、不意ノ間ニ、我ガ子ヲ倏亡セリ。今ヨリ以後、誰人ト共ニ鴻業ヲ經綸セン。

○倏亡―倏忽の間に逝かれた意。

## 成務天皇

### 內治統制ノ爲ニ國郡ニ首長ヲ任ズルノ詔（日本書紀卷第七　四年甲戌春二月）

我先皇大足彦天皇、聰明神武、膺ル籙受ル圖。治ル天順ル人、撥ル賊反ル正、德侔ニ覆燾一、道協ニ造化一。是以普天率土莫ル不ニ王臣一。稟氣懷靈、何非得處。今朕嗣踐ニ寶祚一、夙夜兢惕、然黎元蠢爾、不ル悛ニ野心一。是國郡無ニ君長一、縣邑無ニ首渠一者焉。

○膺籙受圖云々―文選張衡東京の賦に「膺籙受圖、順天行誅」とあり。即ち膺は當、籙は籙、即ち天子の御位。圖は河圖、易經「繫辭」に河出レ圖、洛出レ書とある、これ伏羲氏世をおさめる聖代に黄河から龍馬の脊に記されたる圖が出たことに起因する語。即ち聖代の意。

○覆燾―おほふこと。孟子離婁に「仁覆二天下一」。中庸に「如二天地之無一不二覆燾一」とある。同義。○幹了者―幹了は慧なり、了は強なり。即ち民の明直なる者の意。

自今以後、國郡立レ長、縣邑置レ首、即取二當國之幹了者一、任二其國郡之首長一、是爲二中區之蕃屏一也

謹譯

我ガ先皇大足彦天皇、聰明神武、籙ニ膺リ圖ヲ受ケタマヘリ。天ヲ始メ人ニ順ツテ、賊ヲ撥ヒ正シキニ反リ、德、覆燾ニ侔シク、道、造化ニ協ヘリ。是ヲ以テ普天率土王臣ニアラザルハナシ。稟氣懷靈、何カ處ヲ得ルニ非ザラム今朕嗣ギテ寶祚ヲ踐ミ、夙夜兢惕ス。然モ黎元蠢爾ニシテ野心ヲ悛メズ。是レ國郡ニ君長ナク、縣邑ニ首渠ナケレバナリ。今ヨリ以後、國郡ニ長ヲ立テ縣邑ニ首ヲ置キ、即チ當ノ國ノ幹了者ヲ取リテ、其ノ國郡ノ首長ニ任ジテ、是ヲ中區ノ諸屏ト爲サム。

# 神功皇后

## 西征ノ詔（日本書紀卷第九攝政前紀九年）

夫興レ師動レ衆、國之大事。安危成敗、必在二於斯一。今有レ所二征伐一、以レ事付二群臣一。若事不レ成者、罪在二於群臣一、是甚傷焉。吾婦女之、加以不肖。然暫假二男貌一、强起二雄略一、上蒙二神祇之靈一、下藉二群臣之助一、振二兵甲一而度二嶮浪一、整二艫船一以求二財土一。若事就者、群臣共有レ功、於レ事不レ就者、吾獨有レ罪。既有二此意一、其共議レ之。

謹譯

夫レ師ヲ興シ衆ヲ動カスハ、國ノ大事ナリ。安危成敗必ズ斯ニ在リ。今征伐スル所アラムニ、事ヲ以テ群臣ニ付シ。若シ事成ズンバ、罪群臣ニ在ラン、是甚ダ傷マシ。吾婦女ニシテ加フルニ不肖ヲ以テス、然レドモ暫ク男貌ヲ假

○罪在於群臣―皇后は婦人にて、自身御軍事にたずさはらなければ、責任群臣にあること云々。○振兵甲―軍隊を遣しての意。

テ、弱チニ雄略ヲ起シ、上ハ神祇ノ靈ヲ蒙リ、下ハ群臣ノ助ニ藉リ、兵甲ヲ振シテ嶮浪ヲ度リ、艫船ヲ整テ以テ財ノ土ヲ求メン。若シ事ナラバ群臣共ニ功シ有ラン、事就ラズバ吾獨リ罪有ラン。既ニ此ノ意有リ、其レ共ニ之ヲ議ヘヨ。

○三軍―襄公十一年の春秋に「正月作三軍、萬二千五百人」と注あり。又論語に「子行三軍―則誰與」とある。

○金鼓無節旌旗亂―無節亂軍になれる樣を指す。

## 三軍ニ下シ給ヘル詔　其一（日本書紀卷第九）

金鼓無レ節、旌旗錯亂則士卒不レ整。貪レ財多欲懷レ私內顧、必爲レ敵所虜。其敵少而勿輕、敵强而無屈、則姧暴勿聽、自服勿殺。遂戰勝者必有レ賞、背走者自有レ罪。

謹譯　其一

金鼓節ナク、旌旗錯亂スレバ、則チ士卒整ハズ。財ヲ貪リテ多欲ミ、私ヲ懷キ內ニ顧ミレバ、必ズ敵ノ爲ニ虜トセラレン。其ノ敵少クトモ輕コト勿レ、敵强クトモ屈スルコトナカレ、則チ姧暴ヲ聽スコト勿レ、自ラ服スルヲバ殺スコト勿レ。遂ニ戰勝タバ。必ズ賞有ラン。背キ走ラバ自ラ罪アラン。

○勿輕（或は聽、殺等）―動詞に添へて其の動作を禁止する副詞即ち「輕んずるなかれ」、「殺するなかれ」と云ふなり。

## 三軍ニ下シ給ヘル詔　其二（日本書紀卷第九）

初承ニ神敎、將レ授ニ金銀之國。又號ニ令三軍ニ曰、勿ニ殺自服。今既獲ニ財國。亦人自降服。殺レ之不祥。

謹譯　其二

初メ神ノ敎ヲ承ケ、將ニ金銀ノ國ヲ授ケムトス。又三軍ニ號令シテ曰ク。自ラ服スルヲ殺ス勿レ。今既ニ財ノ國ヲ獲タリ。亦人々自ラ降服セリ。之ヲ殺スハ不祥ナリ。

○初承神敎―或人の曰く、新羅王を誅せんと欲すの言に、皇后の仰せに、初承神敎とある。

○不祥―善くないこと。わるいこと。

# 仁德天皇

## 慈仁ノ詔　其一（日本書紀卷第十　四年春二月）

朕登ニ高臺ニ以遠望之、烟氣不レ起ニ於域中。以爲百姓既貧而、家無ニ炊者。朕聞、古聖王之世、人々誦ニ詠レ德之音、家々有ニ康哉之歌。今

朕臨二億兆一、於茲三年、頌音不レ聆、炊烟轉疎。即知五穀不レ登、百姓窮乏也。封畿之内、尚有二不レ給者一、況乎畿外諸國耶。

○高臺―此處に高殿とあれど記には―天皇高山に登りまして、四方の國見したまひて詔りたまはくと云ふ。

謹　譯　其ノ一

朕、高臺ニ登リテ遠ク望ムニ、烟氣域中ニ起タズ。以爲ニ百姓既ニ貧クテ、家ニ炊者ナキカ。朕、聞ク、古ノ聖王ノ世ニハ、人々詠德ノ音ヲ誦テ、家々ニ康哉ノ歌有リト。今、朕億兆ニ臨ミテ、茲ニ三年ニナリヌレドモ頌音聆エズ、炊烟轉疎ナリ、即チ五穀ノ登ラズ、百姓ノ窮乏ヲ知リヌ。封畿ノ内ニ尚給ザル有リ、況ンヤ畿外ノ諸國ヲヤ。

○康哉之歌―康は樂也、豐也、安也、經書に股肱良哉、庶事康哉とあり。即ち泰平をほむる歌の意。

慈仁ノ詔　其ノ一　（日本書紀卷第十　四年三月）

自レ今之後、至二于三載一、悉除二課役一、息二百姓之苦一。

謹　譯　其ノ二

今ヨリ以後、三載ニ至ルマデニ、悉ク課役ヲ除イテ、百姓ノ苦ヲ息ハシメヨ。

○自今の後―四年三月以后の意。

○課役―義解に課は調及副物、田租の類は役、雜徭及雜徭の類なりとある。

慈仁ノ詔　其ノ三　（日本書紀卷第十二　七年春四月一日）

七年夏四月辛未朔、天皇居二臺上一而遠望之煙氣多起。是日、語二皇后一曰、朕既富矣、豈有レ愁乎。皇后對諮、何謂レ富焉。天皇曰、烟氣滿レ國、百姓自富歟。皇后且言、宮垣壞而不レ得レ修、殿屋破之衣被露曝、何謂レ富乎。天皇曰、其天之立レ君、是爲二百姓一、然則君以二百姓一爲レ本。是以古聖王者、一人飢寒顧之責レ身。今百姓貧之、則朕貧也。百姓富之、則朕富也。則朕富也。未之有二百姓富之君貧一矣。

謹　譯　其ノ三

七年夏四月辛未朔、天皇臺ノ上ニ居マシテ、遠ク望ムニ、烟氣多ニ起ツ、朕既ニ富メリ。豈、愁有ランヤト。

○烟氣多起―烟氣の國中に滿ちてゐるのを見て歡び給ふこと。

舒明天皇が香具山から望國をなされたと國中に烟の立てるを御覽なされ「うまし國ぞあきつ島」と御歡び給ふた御製が萬葉卷一にある。

皇后對ヘテ諮ヲサク。何ヲカ富メリト宣フカ。

天皇宣ハク。烟氣國ニ滿テリ、百姓自ラ富メルカ。

皇后且タ言サク。宮垣壞レテ修ルコトヲ得ズ。殿屋破レテ衣被露ニ曝レタリ何ゾ富メリトノタマフヤ。

天皇宣ハク。其レ天ノ君ヲ立ルコトハ、是レ百姓ノ爲メナリ。然レバ則チ君ハ百姓ヲ以テ本ト爲ス。是ヲ以テ古ノ聖王ハ、一人モ飢ヱ寒ユレバ顧ミテ身ヲ責ム。今百姓ノ貧シキハ、則チ朕ガ貧也。百姓富ミナバ、則チ朕ガ富ナリ。未ダ百姓富ミテ君ノ貧キコト有ラジト。

## 民ノ害ヲ除クノ詔（日本書紀卷第十一年夏四月七日）

今朕視ニ是國一者、郊澤曠遠ニ而田圃少乏。且河水横逝。以流末不レ駛。聊逢ニ霖雨、海潮逆上而巷里乘レ船。道路亦涅。故群臣共視之、決ニ横源一而通レ海、塞ニ逆流一以全ニ田宅一。

謹譯

今朕是ノ國ヲ視レバ、郊澤曠遠ニシテ、田圃少乏ナリ。且河水横ニ逝レテ、流末駛カラズ。聊カ霖雨ニ逢ヘバ、海潮逆上シテ、巷里船ニ乘ル。道路亦涅アリ。故ニ群臣共ニ視テ横源ヲ決シテ海ニ通ジ、逆流ヲ塞ギテ以テ田宅ヲ全クセシメヨ。

## 允恭天皇

### 氏姓ヲ正定セヨノ詔　其ノ一（日本書紀卷第十三四年乙卯秋九月九日）

上古之治、人民得レ所、姓名勿錯。今朕踐祚、於茲四年矣。上下相爭、百姓不レ安。或誤失ニ己姓一、或故認ニ高氏一、其不レ至ニ於治一者蓋由レ是也。朕雖ニ不賢一豈非レ正ニ其錯一乎。群臣議定奏レ之。

謹譯　其ノ一

上古ノ治ハ、人民所ヲ得、姓名錯ハザルニアリ。今朕踐祚シテヨリ四年ナリ上下相ヒ爭ヒテ、百姓不安、或ハ誤リテ己ガ姓ヲ失ヒ、或ハコトサラニ高キ



○視是國―紀―標注に云ふ―是國は難波以東を指す」と。

○流末不駛―駛は快と同とあり即ち川水が停滯しての意。

○霖雨―和名抄に霖は三日雨以上の雨なりと。和名奈加阿女と注あり

○涅―泥土の略。

○決横源―通釋に「ほしきまゝにながるる義なり」とあるまゝにまれば源にしまゝながれいるを探究せよの意ならむ。

○定氏姓之詔―當時社會は氏族階級の念強く、門閥は立身出世の最大要件であつた。それが爲に自己の姓を僞はる者出で

氏ヲ云フ。其ノ治ムルニ至ラザルコトハ、蓋シ是レニ由ルナリ。朕不賢ナリト雖モ豈其ノ錯ヲ正スニアラズヤ。群臣議定シテ之ヲ奏セヨ。

## 氏姓ヲ正定セヨノ詔　其ノ二（日本書紀卷第十三　四年乙卯秋九月廿八日）

群卿百寮、及諸國造等皆各言。或帝皇之裔或異之天降。然三才顯分以來多歷萬歲是以一氏蕃息更爲萬姓難知其實。故諸氏姓人等沐浴齋戒各爲盟神探湯。

**謹譯**　其ノ二

群卿百寮及ビ諸國ノ造等皆各々ニ言ス。

或ハ帝皇ノ裔、或ハ異クシテ天降レリト云フ。然レドモ三才顯分シテヨリ以來、多ク萬歲ヲ歷タリ。是ヲ以テ一氏蕃息シテ更ニ萬姓ヲ爲シテ、其ノ實ヲ知リ難シ。故ニ諸氏姓ノ人等沐浴齋戒シテ、各盟神探湯ヲ爲セヨ。

姓氏が紛亂した。それを正さんとして詔をくだされた。

○姓名―「カバネ」とは官職と爵位とを兼ねた身分を表はす稱號である。例へば中臣連と云へば中臣は名で連は姓である。

○帝皇之裔―皇胤を云ふ。

○異之天降―異之天降は別である。

○三才顯分以來―天地開闢以來、即ち人の意を云ふ。

○盟神探湯―「盟神探湯」は神祇に請ひ、探湯」とあり。

○新羅自居西土云々―天皇は新羅を親征し給はんとして宗像の大神が御中に御戒つて御小弓、蘇我韓子、大伴談紀麁鹿久等四將を遣はされの時の勅である。

○西羅―新羅―地名。

○神功記に拔草羅城とある所なり。

○竄跡―跡をくらますこと

# 雄略天皇

## 新羅國征討ノ詔（日本書紀卷第十四　九年春二月）

新羅自レ居二西土一、累葉稱レ臣、朝聘無レ違、貢職允濟。逮二乎朕之王天下一、投二身對馬之外一、竄二跡匝羅之表一、阻二高麗之貢一、呑二百濟之城一。況復朝聘既闕、貢職莫レ修。狼子野心、飽二飛飢一、附以二汝四卿一、拜爲二大將一。宜以二王師一薄伐、天罰襲行。

**謹譯**

新羅西土ニ居リショリ、葉ヲ累ネテ臣ト稱シ、朝聘違フコトナク、貢職允ニ濟レリ。朕天下ニ王タルニ逮ビテ、身ヲ對馬ノ外ニ投キテ、跡ヲ匝羅ノ表ニ竄シ、高麗ノ貢ヲ阻ギ、百濟ノ城ヲ呑ム、況ヤ復タ朝聘既ニ闕キテ、貢職修ムルコトナシ。狼子ノ野心、飽キテハ飛リ飢テハ附ク。汝、四卿ヲ以テ、拜シテ大將トナス。宜ク王師ヲ以テ薄伐チテ、天罰ヲ襲ミ行へ。

## 遺詔（日本書紀巻第十四　二十三年己未八月七日）

方今區宇一家、烟火萬里、百姓艾安、四夷賓服。此又天意、欲寧區夏。所以小心勵己、日慎一日、蓋爲百姓故也。臣連、伴造、每日朝參、國司郡司隨時朝集、何不馨竭心府、誠勅慇懃。義乃君臣、情兼父子。庶藉臣連智力、内外歡心、欲令普天之下永保安樂。不謂、遘疾彌留、至於大漸、此乃人生常分、何足言及。但朝野衣冠、未得鮮麗、敎化政刑、猶未盡善。興言念此、唯以留恨。今年踰若干、不復稱天筋力精神、一時勞竭。如此之事、本非爲身、止欲安養百姓、所以致此。人生子孫誰不屬念。既爲天下、事須割情。今星川王、心懷悖惡、行闕友于。古人有言、知臣莫若君、知子莫若父。縱使星川得志、共治家國、必當戮辱遍於臣連、酷毒流於民庶。夫惡子孫、已爲百姓所憚、好子孫足堪負荷大業。此雖朕家事、理不容隱。大連等民部廣大、充盈於國、皇太子地居上嗣、仁孝聞、以其行業、堪成朕志。以此共治天下、朕雖瞑目、何所復恨。

○方今云々―方今以下十八字及小心以下十二字隋書高祖紀の文なり　○區宇―區は土地の境界線なり、宇は夏の夏なり、夏は華夏なり、即ち中華の國を指す。　○通證云、宇古奈波流。外から入朝して朝班に與かる者は朝集使と云ふと云ふ。これをあり。　○馨竭―馨も

### 謹譯

方今區宇一家、烟火萬里ニシテ、百姓艾安、四夷賓服セリ。此又天意、區夏ヲ寧ニセント欲スルナリ。心己ヲ勵マシ、日一日ヨリ慎ム所以ハ、蓋シ百姓ノ爲ノ故ナリ。臣、連、伴造日毎ニ朝參シ、國司群司、時ニ隨ヒテ朝集セバ、何ゾ心府ヲ馨竭シ、誠勅スルコト、慇懃ナラザランヤ。義ハ乃チ君臣ニシテ、情ハ父子ヲ兼ヌ。庶ハクハ臣、連ノ智力ト、内外ノ歡心トニ藉リテ普天ノ下、永ク安樂ヲ保タシメント欲ス。謂ハザリキ、疾ニ遘ヒ彌留シテ、大漸ニ至ラントハ、此レハ乃チ人生ノ常分ナリ、言及スルニ足ラン、但朝野ノ衣冠未ダ鮮麗ナルコトヲ得ズ、敎化政刑猶未ダ善ヲ盡サズ、言ヲ興ゲテ此

ヲ念フニ、唯以テ恨ヲ留ム。今年若干ヲ踰エヌ。復天ト稱セラレズ。筋力精神、一時ニ勞竭ス。此ノ如キ事、本ヨリ身ノ爲ニ非ズ。タダ百姓ヲ安養セント欲シテ、此ヲ致ス所以ナリ。人生子孫ニ誰カ念ヲ屬セザラン。既ニ天下ノ爲ニハ、事須ラク情ヲ割クベシ、今星川王心ニ悖惡ヲ懷キ、行友于ヲ闕ケリ古人イヘルコトアリ、臣ヲ知ルハ君ニ若クハ莫ク、子ヲ知ルコトハ父ニ若クハ莫シト。縱使星川ヲシテ志ヲ得テ、共ニ家國ヲ治メシメバ、必ズ當ニ戮辱臣、連ニ遍ク、酷毒民庶ニ流スベシ。夫レ惡シキ子孫ハ已ニ百姓ノ爲ニ憚ラレ、好キ子孫ハ大業ヲ負荷スルニ堪フルニ足レリ。此レ朕ガ家ノ事ト雖モ、理隱スベカラズ。大連等民部廣大ニシテ、國ニ充盈セリ。皇太子ノ地ハ上嗣ニアタレリ、仁孝著レ聞ユ、以フニ其ノ行業、朕ガ志ヲ成スニ堪ヘタリ。此ヲ以テ天下ヲ治メバ、朕ガ瞑目スト雖モ、何ゾ復タ恨ムル所アラン。

竭も盡なり。即ち盡してのの意。○心府―府は藏衆の處、即ち心臟と云ふに同じ。○大漸―疾甚と同じ。○又書―劇也。經に「疾大漸惟幾」とあり。○朝野衣冠、未得鮮麗―朝野の衣冠の制度が未だ立派に定められなかつたことを遺憾とするの意、されば御解にも「按天皇蓋意在レ改二肥色一。制未二全備一」とあり。○星川王―吉備稚姬の産みたまふ天皇の第二皇子。○友于―書經に「惟孝友二于兄弟一」とある故事による。



# 繼體天皇

## 立后ノ詔（日本書紀卷第十七　元年三月一日）

神祇不レ可レ乏レ主。宇宙不レ可レ無レ君。天生二黎庶一、樹以二元首一、使レ司二助養一、令レ全二性命一。大連憂二朕無レ息、披二誠款一、以二國家一世世盡レ忠、豈唯朕日歟。宜レ備二禮儀一、奉レ迎二手白香皇女一。

### 謹譯

神祇ニハ主乏シカルベカラズ。宇宙ニハ君ナカルベカラズ。天黎庶ヲ生ジテ樹ツルニ元首ヲ以テシ、助ケ養フコトヲ司ラシメ、性命ヲ全ウセシム。大連朕ガ息ナキヲ憂ヒ、誠款ヲ披キ、國家ヲ以テ世世忠ヲ盡ス。豈朕ガ日ノミナランヤ。宜シク禮儀ヲ備ヘテ手白香皇女ヲ迎ヘ奉ルベシ。

## 農桑ヲ勸ムルノ詔（日本書紀卷第十七　元年丁亥三月五日）

○黎庶―衆なり。黎民、庶民と云ふも同じ。○元首―書經に「元首朋也、股肱良哉」とあり。即ち元首は君なり、股肱は臣なり。○息―生長繁殖する義から轉じて小兒の意となる。即ち子息、息女など云ふ。○朕日―朕が世の意。

朕聞。士有ニ當年而不レ耕者一、則天下或受ニ其飢一矣。女有ニ當レ年而不レ績者一、天下或受ニ其寒一矣。故帝王躬耕而勸ニ農業一、后妃親蠶而勉ニ桑序一。況厥百寮曁ニ于萬族一、廢ニ棄農績一而至ニ殷富一者乎。有司普告ニ天下一、令レ識ニ朕懷一。

謹譯

朕聞ク、士當年ニシテ耕サザルモノアレバ、則チ天下其ノ飢ヲ受ク。女當年ニシテ績マザルモノアレバ、天下其ノ寒ヲ受クト。故ニ帝王躬ラ耕シテ農業ヲ勸メ、后妃親ラ蠶ヒテ桑ノ序ヲ勉メタマフ。況ヤ厥ノ百寮ヨリ萬族ニ曁ルマデ農績ヲ廢棄シテ、殷富ニ至ランヤ。有司普ク天下ニ告ゲテ、朕ガ懷ヲ識ラシメヨ。

○士當年以下三十一字は准南子齊俗訓の文を少し更へたもの。

## 廉節ノ士ヲ擧ゲシメ給フ詔（日本書紀卷第十七二十四年庚戌二月一日）

自ニ磐余彦之帝（神武）水間城之王（崇神）、皆賴ニ博物之臣一、明哲之佐一。故道臣陳レ謨、而神日本以盛。大彦申レ略而膽瓊殖用隆。及ニ乎繼體之君一、欲レ立ニ中興之功一者、曷嘗不レ賴ニ賢哲之謨謀一乎。爰降、小泊瀨天皇之王ニ天下一、幸承ニ前聖一、隆平日久、俗漸薇而不レ寤。政浸衰而不レ改。但須ニ其人一、各以レ類進。有ニ大略一者、不レ問ニ其所レ短。有ニ高才一者不レ非ニ其所レ失。故獲ニ奉宗廟一不レ危ニ社稷一。由レ是觀レ之、豈非ニ明佐一。朕承ニ帝業一、於レ今二十四年。天下清泰。內外無レ虞。土壤膏腴、穀稼有レ實。竊恐ニ元元由レ斯生レ俗、藉レ此成レ驕。故令下人擧ニ廉節一、宣ニ揚大道一、流中通鴻化上。故能官之事、自レ古爲レ難。爰曁ニ朕身一、豈不レ愼歟。

謹譯

磐余彦ノ帝（神武）、水間城ノ王（崇神）ヨリ、皆博物ノ臣、明哲ノ佐ニ賴リタマフ。故ニ道臣謨ヲ陳ベテ、神日本以テ盛ニ、大彦略ヲ申ベテ、膽瓊殖用テ隆ナリキ。繼體ノ君ニ及ビテ、中興ノ功ヲ立テント欲スル者、曷ゾ嘗テ賢哲ノ謨謀

○道臣―大伴氏の祖。○神日本―神武天皇。○大彦―阿倍氏の祖。○膽瓊殖―崇神天皇。○小泊瀨―武烈天皇。

○各以類進―適材を適所に用ゐること。○大略者不問其所短―大人物に對しては短所をそのまゝ責めないと云ふ。

ニ賴ラザランヤ。爰ニ降リテ小泊瀬天皇ノ天下ニ王タルヤ、幸ニ前聖ニ承ケテ、隆平日久シク、俗漸ク蔽ハレテ寤メズ。政浸衰ヘテ改メズ。但其人ヲ用フルコト、各類ヲ以テ進ム、大略アル者ハ、其ノ短キ所ヲ問ハズ、高才アル者ハ其ノ失フ所ヲ非ラズ。故ニ宗廟ヲ奉ジテ、社稷ヲ危クセザルヲ獲タリ。是ニ由リテ之ヲ觀レバ、豈明佐ニ非ズヤ　朕帝業ヲ承ケテヨリ、今ニ二十四年、天下清泰ニシテ、內外虞無ク、土壤膏腹ニシテ、穀稼實レルアリ。竊ニ恐ル、元々斯ニ由リテ俗ヲ生ジ、此ニ藉リテ、驕ヲ成サンコトヲ。故ニ人ヲシテ廉節ヲ擧ゲシメ、大道ヲ宣揚シ、鴻化ヲ流通セン。能官ノ事ハ、古ヨリ難シト爲ス。爰ニ朕ガ身ニ曁ビテ、豈愼マザランヤ。

○元元―漢書文帝紀に天下元元の民とあり。○能官の事―官を授けること（除目）を云ふ。

## 安閑天皇

### 大河內味張ガ郡司ヲ罷ムルノ詔（日本書紀卷第十八元年甲寅十二月）

普天之下、莫レ匪ニ王封。率土之上、莫レ匪ニ王域。故先天皇、建ニ顯號、垂ニ鴻名。廣大配ニ乎乾坤、光華象ニ乎日月。長駕遠撫、橫ニ逸乎都外、瑩ニ鏡區域、充ニ塞乎無垠。上冠ニ九垓、下旁ニ八表。制レ禮以告ニ成功、作レ樂以彰ニ治定。福應允臻、祥慶符ニ合於往歲。矣。今汝味張、率土幽微百姓、忽爾奉レ惜ニ王地、輕ニ背使乎。宣ニ旨味張、自レ今以後、勿ニ預郡司。

○率土の上云々―詩經の小雅北山の語。○異本に上下を改めたるものあり。○長駕―云々―行幸に遠人を懷ケ遠ケたまふを云ふ。○九垓―九天と八方中央なり。○八表―四方南子午卯酉なり。垓の字を通下に補ひよつて下の證に代へり。○四方四隅を云ふ。

### 謹譯

普天ノ下ノ王封ニ匪ザルハナシ。率土ノ上、王ノ域ニ匪ザルハナシ。故レ先ノ天皇、顯號ヲ建テ、鴻名ヲ垂ル。廣大ノ乾坤ニ配ビ、光華日月ニ象レリ。長駕遠ク撫デ、都ノ外ニ橫逸シ、區ノ域ヲ瑩鏡シ、無垠ニ充塞セリ。上ハ九垓ニ冠ラシメ、下ハ八表ニ旁ク。禮ヲ制メテ以テ、成功ヲ告ゲ、樂ヲ作テ以テ治定ヲ彰ハス。福應ヘ允ニ臻テ。祥慶往キノ歲ニ符合リ。今汝味張、率土ノ幽微ノ百姓ナリ。忽爾ニ王地ヲ惜ミ奉リ、使ヲ輕ジ背ケル、旨ヲ味張ニ宣ブ。今ヨリ以後ハ、郡司ニ預ルコト勿ラシメヨ。

○大酺。タイホ―酺は歡樂なり。酒の飲酒なり。即ち民一人の上に酒食を賜ふ事。○黔首―前出。○黎民―黎は黔首、黎民は前出の黔首と同義、黎は黒一色なり。黎民にはをかつぶり平巾で制あつたる故。

## 大酺ノ詔（日本書紀卷第十八二年春正月五日）

閒者連年登穀、接レ境無レ虞。元元蒼生樂二於稼穡一、業業黔首免二於飢饉一。仁風暢二乎宇宙一、美聲塞二乎乾坤一。內外清通、國家殷富。朕甚欣焉。可二大酺一五日、爲二天下之歡一。

謹譯

閒者連年登穀、境ヲ接ヘテ虞ナシ。元々蒼生稼穡ヲ樂ミ、業業黔首飢饉ヲ免ル。仁風宇宙ニ暢ビ、美聲乾坤ニ塞ル。內外清通シテ、國家殷富ナリ。朕甚ダ欣ブ。大ニ酺スルコト五日、天下ノ歡ヲナスベシ。

## 宣化天皇

民命ノ非常ノ爲メニ穀稼ヲ收藏セヨノ詔（日本書紀卷第十八元年丙辰五月）

食者天下之本也。黃金萬貫不レ可レ療レ飢。白玉千箱何能救レ冷。夫筑紫國者、遐邇之所二朝屆一、去來之所二關門一。是以海表之國、候二海水一以來賓、望二天雲一而奉レ貢。自二胎中之帝一、洎二于朕身一、收二藏穀稼一、蓄二積儲粮一、遙設二凶年一、厚饗二良客一、安レ國之方、更無レ過レ此。故朕遣二阿蘇仍君一、加二運河內國茨田郡屯倉之穀一。蘇我大臣稻目宿禰。宜下遣二尾張連一、運中尾張國屯倉之穀上。物部大連麁鹿火、宜下遣二新家連一、運中新家屯倉之穀上。阿倍臣、宜下遣二伊賀臣一、運中伊賀國屯倉之穀上。修二造官家那津之口一。又其筑紫肥豐、三國屯倉、散在二縣隔一、運輸遙阻。儻如須要、難二以備レ卒。亦宜下課二諸郡一分移、聚二建那津之口一、以備二非常一、永爲中民命上。早下二郡縣一令レ知二朕心一。

○筑紫之國―通證に「此專指二太宰府一。又見二天武紀十二」とあり。○遐邇―遠近に同じ。

謹譯

食ハ天下ノ本ナリ。黃金萬貫アリトモ、飢ヲ療スベカラズ。白玉千箱アリトモ、何ゾ能ク冷ヲ救ハン。夫ノ筑紫ノ國ハ、遐邇ノ朝屆スル所、去來ノ關門

タル所ナリ。是ヲ以テ、海表ノ國、海水ヲ候ヒテ以テ來賓シ、天雲ヲ望ミテ奉貢ス。胎中ノ帝ヨリ、朕ノ身ニ泊ブマデ、穀稼ヲ收藏シ、儲粮ヲ蓄積シ、遙ニ凶年ニ設ケ、厚ク良客ヲ饗ス、國ヲ安ンズルノ方ハ、更ニコレニ過グルコトナシ。故ニ、朕阿蘇仍君ヲ遣ハシテ、河內國茨田郡ノ屯倉ノ穀ヲ加ヘ運バシム。蘇我大臣稻目ノ宿彌ハ、宜シク尾張ノ連ヲ遣ハシテ、尾張國ノ屯倉ノ穀ヲ運バシムベシ。物部大連麁鹿火ハ、宜シク新家ノ連ヲ遣ハシテ、新家ノ屯倉ノ穀ヲ運バシムベシ。阿倍ノ臣ハ、宜シク伊賀臣ヲ遣ハシテ、伊賀國ノ屯倉ノ穀ヲ運バシムベシ。官家ヲ那津ノ口ニ修造セヨ。又其ノ筑紫、肥、豊、三國ノ屯倉ハ、散ジテ、懸隔ニアリテ、運輸遙ニ阻レリ。儻如、須要アルモ、以テ卒ニ備ヘ難シ。亦宜シク諸郡ニ課シテ分移シ、那津ノ口ニ聚メ建テ、以テ非常ニ備ヘ、永ク民命ト爲スベシ。早ク郡縣ニ下シテ、朕ガ心ヲ知ラシメヨ。

○朝廷―諸侯臣下の朝廷へ參り物品を献上すること。○海水―海上に船を浮べて參候する意。○設―通釋に云ふ「義倉の設なり」と。○屯倉―一說に官食の義なりとも云ふ。即ち上代皇室の御料地の一なる屯田あるなり。○官家―屯倉に置いた倉。○屯田司―官家の地を掌る官舍。又屯倉の家とも書く。○那津の口―筑前の國の地名。

# 推古天皇

## 鞍作鳥ヲ賞スルノ詔

（日本書紀卷第二十二　十四年五月五日）

朕欲興隆內典、方將建佛刹、肇求舍利、時、汝祖父司馬達等、便獻舍利。又於國無僧尼、於是汝父多須那、爲橘豐日天皇出家、恭敬佛法。又汝姨嶋女、初出家爲諸尼導者、以修行釋教。今朕爲造丈六佛、以求好佛像、汝之所獻佛本則合朕心。又造佛像既訖、不得入堂。諸工人不能計。以將破堂戶。然汝不破戶而得入。此皆汝之功也。即賜大仁位、因以給近江國坂田郡水田二十町焉。

### 謹譯

朕レ內典ヲ興隆セント欲シ、方ニ佛刹ヲ建ントスルトキ、肇メテ舍利ヲ求メ

○鞍作鳥―鳥師と云ふ。人司天の梁馬達の歸化の孫。皇太子大臣共に發願し等始めて丈六の佛像銅繡を造立し、元興寺置の金堂に安置した。佛師の鳥の際の功勞を賞された。

○舍利佛舍利ハ釋迦ノ骨ヲ云フ。○司馬達等ハ百濟ノ人ニシテ、大和ノ國ニ來リ、蘇我大臣稲目ノ命ニ從ヒ、佛法ヲ崇ビ、自ラ出家シテ、善信尼ト稱シ、後ニ百濟ニ渡リテ、戒律ヲ受ケ、歸朝シテ、難波ニ草庵ヲ結ビ、日夜佛ヲ拜シ、十六年ノ春三月ニ、大野丘ノ北ニ塔ヲ立テ、舍利ヲ納ム。○推古天皇ハ欽明天皇ノ第三女ニシテ、在位三十六年ノ間、聖徳太子ノ輔佐ニ依リテ、政治ヲ改メ、文物ヲ興シ、國威ヲ海外ニ振ヒ、日本ノ國運ヲ開キ、大和朝廷ノ基礎ヲ定メタル、一代ノ英主ナリ。○給一階ノ中位ハ、冠位十二階ノ第二階ニ當リ、青色ノ服ヲ該當セシメタルナリ。

タルニ、汝ノ祖父司馬達等、便チ舍利ヲ獻マツレリ。又國ニ僧尼無シ、於是汝ノ父多須那、橘豐日天皇(用明天皇)ノ爲メニ出家シテ、佛法ヲ恭敬セリ。又汝ノ姨嶋女、初メテ出家シテ諸尼ノ導者ト爲リテ、以テ釋教ヲ修行セリ。今朕レ丈六ノ佛ヲ造ラン爲メニ、好キ佛像ヲ求メタルニ、汝ノ獻ズル佛、本ヨリ朕ガ心ニ合ヘリ。

又佛像ヲ造ルコト既ニ訖リテ、堂ニ入レルコトヲ得ズ、諸工人計スル能ズシテ、將ニ堂ノ戸ヲ破ラントス。然ルニ汝戸ヲ破ラズシテ、入レルコトヲ得タリ。此レ皆汝ノ功ナリ。

卽チ大仁位ヲ賜フ。因テ以テ近江ノ國ノ坂田郡ノ水田二十町ヲ給ス。

## 神祇ヲ祭祀スルノ詔　(日本書紀卷第二十二　十五年二月九日)

朕聞之、曩者、我皇祖天皇等宰世也、跼天蹐地、敦禮神祇、周祠山川、幽通乾坤。是以陰陽開和、造化共調。今當朕世、祭祀神祇、豈有怠乎。故群臣爲竭心宜拜神祇。

○跼天蹐地ハ、おそれて身のおきどころなきを云フ。○山川ハ書經舜典ノ名山大川ノ意ナレドモ、こゝハ山神川神ノ意ナリ。神祇ハ代紀ニ生ニ山川草木ニトアルヲ考フベシ。

### 謹譯

朕聞ク、曩者、我ガ皇祖天皇等ノ、世ヲ宰スルヤ、天ニ跼リ地ニ蹐シテ、敦ク神祇ヲ禮シ、周ク山川ヲ祠リ、幽ニ乾坤ニ通ズ。是ヲ以テ陰陽開ケ和ギ、造化共ニ調ヘリト。今朕ガ世ニ當リ、神祇ヲ祭祀スルコト、豈ニ怠ルベケンヤ。故ニ群臣爲ニ心ヲ竭シ、宜シク神祇ヲ拜スベシ。

## 遺詔　(日本書紀卷第二十二　三十六年戊子春三月)

其ノ一

(壬子天皇病甚不可諱、則召田村王謂之曰)

昇天位而經綸鴻基、馭萬機、以亭育黎元、本非輙言、恒之所重、故汝愼以察之。不可輙言。

其ノ二

（即日召二山背大兄王一教之曰）

汝肝稚、若雖二心望一而勿二誼言一、必待二群言一、以宜レ従。

其ノ三

（癸丑天皇崩、時年七十五歳。即殯二於南庭一。（中略）天皇遺二詔於群臣一曰。）

比年五穀不登、百姓大飢。其爲レ朕興レ陵、以勿二厚葬一、便宜レ葬二竹田皇子之墓陵一。

## 謹譯

遺詔一

（六日天皇病ヒ甚ダアヤウシ、則チ田村王ヲ召シテ謂ッテ曰ク）

天位ニ昇リテ、鴻基ヲ經綸シ、萬機ヲ馭シテ、以テ黎元ヲ亭育スルコトハ、本ヨリ輒ク言フベキモノニ非ズ。恒ニ重ズル所ナリ。故ニ汝愼ンデ以テコレヲ察セヨ。輒言スベカラズ。

○田村王―舒明天皇なり。

其ノ二

（ソノ日山背大兄王ヲ召シテ教ヘテ曰ク）

汝肝稚シ、若シ心ニ望ムコトアリト雖モ、誼シク言フナカレ。必ズ群臣等ノ言ヲ待テ以テ宜シク從フベシ。

○山背大兄王―聖徳太子の御子。

其ノ三

（七日天皇崩ズ。時ニ年七十五歳、卽チ南庭ニ殯ス。（中略）天皇、群臣ニ遺詔シテ曰ク）

比年五穀登ラズシテ、百姓大イニ飢ス。其レ朕ガ爲メニ陵ヲ興シテ、以テ厚ク葬ムルコトナカレ。便ニ宜シク竹田皇子ノ墓ニ葬ムルベシ。

○竹田皇子―敏達帝の皇子御母は推古女帝なり。

# 孝德天皇

## 改新ノ詔

（日本書紀卷第二十五 孝德天皇即位元年六月十九日）

天覆地載、帝道唯一而、末代澆薄、君臣失序。皇天假手於我、誅殄暴逆。今共瀝心血而、自今以後、君無二二政、臣無貳朝。若貳此盟、天災地妖、鬼誅人伐、皎如日月也。改天豐財重日足姫天皇四年、爲大化元年。

○澆薄―澆は薄なり、即ち人情のうすいことを云ふ。
○心血―北史齊紀に「前持二心血一、遠以示レ王一」とあり、即ち赤心赤誠を盡すの意。

### 謹譯

天覆ヒ地載セテ、帝ノ道唯一ナリ。末ノ代薄ラギテ、君臣ノ序ヲ失ヘリ。皇天我ニ手ヲ假リテ、暴逆ヲ誅殄セリ。今共ニ心血ヲ瀝ミテ、今ヨリ以後ハ、君ニ二政ナク、臣ニハ朝ニ二心ナキコトヲ。若シ此盟ニソムカバ、天災シ地妖シ、鬼誅シ人伐チテ皎ナルコト日月ノ如キナリ。天豐財重日足姫ノ天皇四年ヲ改メテ、大化元年トナス。



## 國司ヲ諭スノ詔

（日本書紀卷第二十五 大化元年八月）

隨二天神之所奉寄一、方今始將レ修二萬國一。凡國家所有公民、大小所領人衆、汝等之レ任、皆作二戸籍一、及校二田畝一。其園池水陸之利、與二百姓一俱。又國司等在レ國不レ得レ判レ罪。不レ得下取二他貨賂一令上致二民於貧苦一。上レ京之時、不レ得二多從一百姓於己一、唯得レ使レ從二國造郡領一。但以二公事一往來之時、得レ騎二部內之馬一。得レ飡二部內之飯一。介以上奉レ法、必須二褒賞一。違レ法當降二爵位一。判官以下、取二他貨賂一、二倍徵之、遂以二輕重一科レ罪。其長官從者九人、次官從者七人、主典從者五人、若違レ限外將者、主與二所從之人一、並當科レ罪。若有二求レ名之人一、元非二國造伴造縣稻置一、而輙詐訴言、自二我祖時一、領二此官家一、治二是郡縣一、汝等國司、不レ得二隨レ詐便牒一於朝一。審得二實狀一、而後可レ申。又於閑曠之所一、起二

造兵庫、收聚國郡刀甲弓矢。邊國近與蝦蛾接境處者、可盡數集其兵、而猶假授本主。其於倭國六縣、被遣使者、宜造戸籍、并校田畝。謂レ檢二覈墾田頃、畝及民戸口年紀一。汝等國司、可二明聽退一。

○所奉寄―本書體篇上國記二九四頁事注依を乞ふ。奉と天津神へ傳けて受れ給ふ。所以なり。○任亦義なり。○任と寄同葉に曰ふ。○介已上―和名抄に「國曰二少介一、郡曰二主政一、皆萬豆利古止比止」とあり。○判官―同和名抄に「國曰二掾一、郡曰二主典一、文人佐官とあり。○稻置―屯倉の長官を云ふ。○倭國六縣―大和の國の六郡の意なり。○校田畝―これは公民に口分田及賜田を班ち授け玉ふはじめなり。

謹譯

天神ノ奉寄スル所ニ隨ヒテ、始メテ萬國ヲ修メントス。凡ソ國家ノ所有ユル公民ト、大小所領ノ人衆、汝等任ニ之キテ、皆戸藉ヲ造リ、田畝ヲ校セヨ。其ノ園地水陸ノ利ハ、百姓ト之ヲ俱ニセヨ。又國司等、國ニ在リテ、罪ヲ判スルコトヲ得ズ。他ノ貨賂ヲ取リテ以テ民ヲ貧苦ニ致サシムルコトヲ得ズ。上京ノ時ハ、多ク百姓ヲ己ニ從フルコトヲ得ズ。唯國造、郡領ヲ從ハシムルコトヲ得。但シ公事ヲ以テ往來ノ時ハ、部内ノ馬ニ騎ルコトヲ得。部内ノ飯ヲ喰フコトヲ得。介已上、法ヲ奉ゼバ、必ズ須ラク褒賞スベシ。法ニ違ハバ當ニ爵位ヲ降スベシ。判官以下、他ノ貨賄ヲ取ラバ、二倍シテ之ヲ徵シ、遂ニ輕重ヲ以テ罪ヲ科セン。其ノ長官ノ從者ハ九人、次官ノ從者ハ七人、主典ノ從者ハ五人、若シ限ニ違ヒテ外ニ將ヰタラム者ハ、主ト所從ノ人ト並ニ當ニ罪ヲ科スベシ。若シ名ヲ求ムルノ人有テ、元ヨリ國造、伴造、縣ノ稻置ニ非ズシテ、輒ク詐リ訴ヘテ言ク、我ガ祖ノ時ヨリ、此ノ官家ヲ領シテ此ノ郡縣ヲ治ムト、汝等國司詐ニ隨ヒテ便チ朝ニ牒スルコトヲ得ズ。審ニ實狀ヲ得テ後ニ申スベシ。又閑曠ノ所ニ於テ、兵庫ヲ造リ、其ノ國郡ノ刀甲弓矢ヲ收聚セヨ。邊國ノ近ク蝦夷ト境ヲ接スル處ノ者ハ悉ク其ノ兵ヲ數ヘ集メテ猶本主ニ假授ス可シ。其ノ倭國六縣ニ於テ使者ヲ遣サレテ、宜シク戸籍ヲ造リ、并セテ田畝ヲ校スベシ。汝等國司明ラカニ聽キテ退ク可シ。

## 鐘匱ヲ朝ニ設ケテ民ニ憂訴ノ道ヲ開キ給フ詔

（日本書紀卷第二十五　大化元年八月）

若-憂-訴-之-人有二伴造一者、其伴造先勘當而奏。有二尊長者一、其尊長先勘-當而奏。若其伴-造尊-長不レ審-所レ訴。收レ牒納レ匱、以二其罪一罪レ之。其收レ牒者、昧-旦執レ牒奏二於内裏一。朕題二年月一便示二羣卿一。或

懈怠不レ理、或阿黨有レ曲、訴者可二以撞一鐘。由レ是懸レ鐘置二匱於朝一、天下之民咸知二朕意一。

○勘當―勘合の字音、即ち熟考しての意。○賈―概に同じ、和名抄に比郝とあり。○昧旦―夜の明け方、まだほのぐらみときき。○牒―左傳に「受牒而退」とあり、即官文書を云ふ。然るに此處の牒は訴訟文書の意。○阿黨―俗に云ふ、贔負、片幸をするやから云ふ、即ち阿曲朋黨の輩なり。

## 謹譯

若シ憂ヘ訴フ人伴ノ造ニ有バ、其レ伴ノ造ハ先ヅ勘當テ奏セ。尊長者ナラバ、其ノ尊長ハ先ヅ勘當テ奏セ。若シ其ノ伴ノ造、尊長訴フル所ヲ審ニセズシテ牒ヲ收メテ、匱ニ納レバ、其ノ罪ヲ以テ之ヲ罪セン。其ノ牒ヲ收ムル者ハ、昧旦牒ヲ執リテ、内裏ニ奏セヨ。朕年月ヲ題シ、便チ羣卿ニ示サム。或ハ懈怠シテ理ズ、或ハ阿黨シテ曲有ラバ、訴者ハ鐘ヲ撞クベシ、是ニ由テ鐘ヲ懸ケテ匱ヲ朝ニ置ク。天下ノ民咸ク朕ガ意ヲ知レ。

## 民力ヲ涵養セヨノ詔　（日本書紀巻第二十五　大化元年九月十九日）

自レ古以來、毎二天皇時一、置二標代民一、垂二名於後一。其臣連等、伴造國造各置二己民一、恣二情駈使一。又割二國縣山海林野池田一以爲二己財一、爭

○置標代民云々―代民とは御名代の意。本書第一巻國體篇上卷。○古事記下卷（四〇八頁）。○七―（四〇八参照）。この御名代の風は孝天皇大化二年正月詔して廢す。○紀―書第十五巻。○大化二年正月の條下参照を乞ふ。○頃―田百歩が一頃に當つてる。○收斂―租税を取りたてる事。

戰不レ已。或者兼二并數萬頃田一、或者全無二容レ針少地一。及進調賦一時、其臣連伴造等、先自收斂、然後分進、修二治宮殿、築二造園陵一、各率二己民一隨レ事而作。〔易曰。損レ上益レ下。節以二制度一。不二傷レ財害レ民一〕方今百姓猶乏。而有レ勢者、分二割水陸一、以爲二私地一、賣二與百姓一、年々索二其價一。從レ今以後不レ得レ賣レ地、勿二妄作一主兼二并劣弱一。

## 謹譯

古ヨリ以降、天皇ノ時毎ニ、代ノ民ヲ置標シテ、名ヲ後ニ垂ル。其ノ臣連等伴造國造、各己ガ民ヲ置キ、情ヲ恣ニシテ駈使ス、又國縣ノ山海林野池田ヲ割キテ以テ己ガ財ト爲シ、爭ヒ戰フコト已マズ。或ハ數萬頃ノ田ヲ兼ネ并セ或ハ全ク針ヲ容ルヽノ少地モナシ。調賦ヲ進ムル時ニ及ビ、其ノ臣連伴造等先ヅ自ラ收斂シテ、然シテ後ニ分チ進メ、宮殿ヲ修治シ、園陵ヲ築造スルニ各己ガ民ヲ率キテ、事ニ隨ッテ作ル。〔易ニ曰ク、上ヲ損シテ下ヲ益スト。節スルニ制度ヲ以テシテ、財ヲ傷リ、民ヲ害セザレ。〕今百姓猶ホ乏シ。而ルニ勢

アル者水陸ヲ分割シテ、以テ私地ト爲シ、百姓ニ賣リ與ヘテ、年々其ノ價ヲ索ム。今ヨリ以後、地ヲ賣ルヲ得ジ、妄ニ主トナリテ劣弱ヲ兼ネ幷スルコト勿レ。

## 直言ヲ百姓ニ求ムルノ詔

（日本書紀卷第二十五　大化二年二月）

朕聞。明哲之御レ民者懸二鐘於門一而觀二百姓之憂一、作二屋於衢一而聽二路行之謗一、雖二芻蕘之說一親問爲レ師。由レ是、朕前下レ詔曰古之治二天下一、朝有二進レ善之旌一、誹謗之木。所以通二治道一而來二諫者一也、皆所二以廣詢一于下一也。所以懸レ鐘設レ匱、拜二收レ表人一、使二憂諫人一納二表于匱一、詔二收レ表人一毎レ日奏請。朕得二奏請一、仍又示二羣卿一、便使勘當。庶無二留滯一、如群卿等或懈怠不レ懃、或阿黨比周、朕復不二肯聽一諫憂訴之人一當可レ撞レ鐘、詔已如レ此。既而有レ民明直心懷二國土之風一、切諫陳疏納二於設匱一。故今顯二示集在黎民一。其表稱、緣レ奉二國政一到二於京一民、官官留使二於雜役一云々。朕猶以レ之傷惻、民豈復思レ至レ此。然遷レ都未レ久、還似二于賓一。由レ是不レ得レ不レ使、而強役レ之。每レ念二於斯一、未二嘗安寢一、朕觀二此表一、嘉歎難レ休。故隨二所レ諫之言一、罷二處々之雜役一。昔詔曰、諫者題レ名、而不レ隨二詔命一者、自非レ求レ利而將レ助レ國。不レ言二題不一。諫二朕廢忘一。

○芻蕘之說―注に曰く芻は草なり、蕘は薪なりと、即ち芻人樵夫の說なり。卑賤極くしされば階級の者のこと云ふ。

### 謹譯

朕聞ク。明哲ノ民ヲ御スルハ、鐘ヲ門ニ懸ケテ、百姓ノ憂ヲ觀、屋ヲ衢ニ作リテ、路行ノ謗ヲ聞キ、芻蕘ノ說ト雖、親ラ問ヒテ師ト爲スト。是ニ由リテ朕前ニ詔ヲ下シテ曰ハク、古ノ天下ヲ治ムルヤ朝ニ進善ノ旌、誹謗ノ木アリ。治道ヲ通ジ、諫者ヲ來ス所以ナリ。皆廣ク下ニ詢フ所以ナリト。「管子曰ハク黃帝明堂ノ議ヲ立ツルハ、上賢ニ觀ルナリ。堯衢室ノ問アルハ、下民ニ聽クナリ。舜告善ノ旌アリテ、主蔽ハレズ、禹、建鼓ヲ朝ニ立テテ、訕望ニ備フ。湯、總術ノ廷アリ。以テ民ノ非ヲ觀ル。武王靈臺ノ囿アリテ、賢者進ム、此

○通釋―古の天下に治天下以來諫者に至るまで「前漢文帝紀の文なりと云ふ。淮南子曰「堯は敢諫の鼓を置き、舜は誹謗の木を立つる」とあり。

○比周―論語爲政篇に「君子周而不レ比、小人比而不レ周」とあるが、後世は只小人の場合の意、即ち阿黨親密なることのみ用ひられたり。

○到於京民―通釋に曰ふ―國役の爲めに京に赴けると。

○民豈復―通釋に曰ふ―民豈復一と、良しと、亦豈の意に見るべし。

○似于賓―紀卷第十五大化元年十二月乙未條に都を難波の長柄豐碕に遷せることを見ゆ、賓とのそれゆへ如きものだの意。

古ノ聖帝、明王ノ有チテ、失フコト勿ク、得テ亡フコト勿キ所以ナリ」。故ニ鐘ヲ懸ケ、匱ヲ設ケ、表ヲ收ムル人ヲ拜シ、憂諫ノ人ヲシテ、表ヲ匱ニ納レシメ、表ヲ收ムル人ニ詔シテ、每旦奏請セシム。朕奏請ヲ得、仍テ又群卿ニ示シテ、便チ勘當セシメム。希クハ留滯スルコト無ラン。如シ群卿等、或ハ懈怠シテ勤ナラズ、或ハ阿黨比周シ、朕復肯テ諫ヲ聽カズバ、憂訴ノ人、當ニ鐘ヲ撞クベシ。詔已ニ此ノ如シ。既ニシテ、民ノ明直ニシテ、心ニ國土ヲ懷フノ風アラバ、切諫ノ陳疏ヲ設匱ニ納レヨ。故ニ今集在ノ黎民ニ顯示ス。其ノ表ニ稱ハク、國ノ政ニ奉ズルニ緣リテ、京ニ到レル民ヲバ官ニ留メテ、雜役ニ使フ云々ト。朕猶之ヲ以テ傷惻ス。民豈復此ニ至ルヲ思ハンヤ。然ルニ遷都未ダ久シカラズ。還リテ賓ニ似タリ。是ニ由リテ使ハザルコトヲ得ズシテ、强テ之ヲ役ス。斯ヲ念フ每ニ、未ダ嘗テ寢ヲ安ンゼズ。朕此ノ表ヲ觀テ、嘉歎休ミ難シ。故ニ諫ル所ノ言ニ隨ヒ、處々ノ雜役ヲ罷ム。昔、詔シテ曰ク、諫者ハ名ヲ題セヨト、而ルニ詔命ニ隨ハザルモノハ、自ラ利ヲ求ムルニ非ズシテ、將ニ國ヲ助ケントスレバナリ。題スルト不トヲ言ハズ。朕ノ癡忘ヲ諫メヨ。

## 惟神ノ道ヲ誥ゲ給フ詔

（日本書紀卷第二十五　大化三年四月廿九日）

惟神（惟神者。謂下隨二神道一亦自有中神道上）我御子應レ治レ故寄。是以、與二天地之初一、君臨之國也。自二始治一國皇祖之時一、天下大同都無二彼此一者也。既而頃者、始二於神名天一皇名々一、或別爲二臣連一之氏一、或別爲造、等之色。由レ是、率二土一民心固執二彼此一、深生二我汝一、各守二名々一。又拙弱臣、連、伴造、國造、以レ彼爲レ姓、神名王名、逐二自心之所一歸、妄付二前々處々一。（前々猶レ謂二人々一也）爰以神名王名爲二人賂物一之故、入二他奴婢一穢二汚清名一。遂即民心不レ整、國政難レ治。是故、今者隨在天神、屬可二治平一之運一、使レ悟二斯等一而治レ國治レ民、是先是後。今日明日、次而續詔。然素賴二天皇聖化一、而習二舊俗一之民、未レ詔之間、必當レ難レ待、故始二於皇子一、群臣

及諸百姓。將賜庸調。

謹譯

惟神モ我ガ子治サムト、事寄シタマヒキ。是ヲ以テ天地ノ始メヨリ君臨シタマフ國ナリ。始治國皇祖(神武)ノ時ヨリ、天下大同ニシテ、都ベテ、彼此ナシ。既ニシテ頃者神ノ名(神武)天皇ノ名名(猶別)ヨリ始メテ、或ハ別レテ臣連ノ氏ト爲リ、或ハ別レテ造等ノ色ト爲レリ。是ニヨリテ、率土ノ民ノ心固ク彼此ヲ執リ、深ク我汝ヲ生ジ各名々ヲ守ル。又拙弱ノ臣、連、伴造、國造ハ、彼ノ姓タル神ノ名ヲ以テ、自心ノ歸スル所ニ逐ヒ、妄リニ前々(猶人々ト云フガ如シ)處々ニ付スカク神ノ名、王ノ名ヲ以テ人ノ賂物ト爲スガ故ニ他ノ奴婢ニ入レテ、清名ヲ穢汚シ、遂ニ民心整ハズ國政治マリ難シ。是ノ故ニ今隨在天神治平スベキ運ニ屬ヒテ、斯等ヲ悟ラシメテ國ヲ治メ民ヲ治ムルコト、是ヲ先ニシ、是ヲ後ニス、今日明日次ギテ續詔セン。然レドモ、素ヨリ天皇ノ聖化ニ賴リテ舊俗ニ習ヘル民、未ダ詔セザル間ニ、必ズ當ニ待チ難カルベシ。故ニ皇子ヨリ始

○始治國—神武天紀下—天神紀—御肇崇駅—國造等色—造通書—亦同氏—隨氏—色氏—異氏—故云ふ。

○妄付前々處々云々—前々通釋は前々に社能幾麁と云ふに同じくも其員を云ふなり。

○出身—宮仕のこと。○大舍人—義解に供奉之人とあり。○其才能—適材を適所に用ふること、即ち材を登用せよの意。○考選—品定を云ふ、品は位階の上下、それを定むるなり。



メテ群臣及ビ諸ノ百姓ニ將ニ庸調ヲ賜ハントス。

## 天武天皇

人材ヲ登用セヨノ詔 (日本書紀卷第二十九 二年五月)

夫初出身者、先令仕大舍人、然後選簡其才能、以宛當職。又婦女者、無問有夫無夫及長幼、欲進仕者聽矣。其考選准官人之例。

謹譯

夫レ初メテ出身セントスル者ヲバ、先ヅ大舍人(おほとねり)ニ仕ハシメテ、然ル後ニ其才能ヲ選簡シテ、以テ當職ニ宛テヨ。又婦女ヲバ、有夫無夫及ビ長幼ヲ問フコトナク、進仕セント欲スル者ヲバ聽セヨ。其考選ハ官人ノ例ニ准ゼヨ。

大分ノ君惠尺ヲ賞スルノ詔 (日本書紀卷第二十九 四年六月三日)

汝惠尺也、背ㇾ私伺ㇾ公、不ㇾ惜ニ身命一、以ニ遂雄之心一勞ニ干大役一、恒欲ニ慈愛一。故爾雖ニ既死一、子孫厚賞。仍騰ニ外小紫位一。

○遂雄―通釋に不詳とあり。通雄の義かとの云つてある。○大役―通釋に初中天皇に從ひまつりしにて勞きたりとあり。○小紫位―孝徳天皇大化五年制定の十九階中の小紫位を云ふ。

謹　譯

汝惠尺ヤ私ニ背キ公ニ伺ヒ、身命ヲ惜マズ、遂雄ノ心ヲ以テ大役ニ勞シ、恒ニ慈愛ヲ欲ス。故ニ爾既ニ死スト雖モ、子孫ヲバ厚ク賞セン。仍テ外ノ小紫位ニ騰ゲタマフ。

國利民福ノ術ヲ求メ給フ詔　（日本書紀卷第二十九　九年十一月七日）

若有ㇾ利ニ國家一、寛ニ百姓一之術者。詣ㇾ闕親申。則詞體合ニ於理一、立爲ニ法則一。

謹　譯

若シ國家ヲ利シ、百姓ヲ寛ニスル術アル者ハ、闕ニ詣リテ親シク申セ。則チ詞體理ニ合ハバ、立ドコロニ法則ト爲サン。

○闕―宮城、朝廷、こゝでは天皇のこと。○詞體―云ふ所が道理に合つてゐるならば。

律令制定ノ詔　（日本書紀卷第二十九　十年二月二十五日）

朕今更欲ㇾ定ニ律令一、改中法式上。故俱修ニ是事一。然頓就ㇾ是務ニ公事一有ㇾ闕、分ㇾ人應ㇾ行。

謹　譯

朕今更ニ律令ヲ定メ、法式ヲ改メント欲ス。故ニ俱ニ是事ヲ修メヨ。然レドモ、ニハカニ是ヲナサバ、公事ヲ務メバ闕ルコト有リ、人ヲ分テ行フベシ。

休祥ヲ享クルノ詔　（日本書紀卷第二十九　十二年正月七日）

明神御ニ大八州一、日本根子天皇勅令者、諸國司國造郡司、及百姓等諸可ㇾ聽矣。

朕初登ニ鴻祚一、以來、天瑞非ニ一二一、多至ㇾ之。傳聞其天瑞、行ㇾ政之理、協ニ于天道一、則應ㇾ之。是今當ニ于朕世一、毎年重至、一則以懼、一則以

○津令―朕今更にとあるは既に天智天皇の元年藤原鎌足をして制定せしめた近江令を改定せしめんとの御意なり。

嘉、是以親王諸王及群卿百寮、竝天下黎民共相歡也　乃小建以上、給ㇾ祿各有ㇾ差、因以大辟罪以下、皆赦ㇾ之。亦百姓課役並免焉。

○明神―筑紫太宰丹比眞人等ニ足ノ雀島等ヲ献ズ、この瑞祥を得ての詔なり。明神は現御神（アキツミカミ）現人神（アラヒトガミ）の意なり、即ち天皇は御人にませど実は神のこと世に暫くの身なし坐せる御現れば御なかる申萬葉集に者西座者吾皇之明津神などあ乞参る、丸を乞ふ。

## 謹譯

明神トシテ大八洲ヲ御ス、日本根子天皇ノ勅令ハ、諸國司國造郡司及ビ百姓等諸聽クベシ。

朕初メテ鴻祚ニ登リテヨリ以來、天瑞一二ニアラズ、多ク之ヲ至セリ。傳ヘ聞ク、ソレ天瑞ハ政ヲ行フノ理、天道ニ協ヘバ則チ之ニ應ズト。是ニ今朕ノ世ニ當リテ毎年重ネテ至ル。一ハ則チ以テ懼レ、一ハ則チ以テ嘉ブ。是ヲ以テ親王諸王及ビ群卿百寮竝ニ天下ノ黎民共ニ相歡ブナリ。仍チ小建以上ニ祿ヲ給スル各差アリ。因ッテ大辟罪以下皆之ヲ赦ス。亦百姓ノ課役並ビニ免ズ

## 軍備擴張ノ詔

（日本書紀卷第二十九　十三年四月五日）

凡政要者軍事也、是以文武官諸人務習ㇾ用ㇾ兵及乘ㇾ馬。則馬兵并當身裝束之物、務具儲足。其有ㇾ馬者爲ㇾ騎士、無ㇾ馬者爲ㇾ步卒。並當ニ試練ㇾ、以勿ㇾ障ニ於聚會。若忤ニ詔旨ㇾ、有ㇾ便ニ馬兵ㇾ、亦裝束有ㇾ闕者、親王以下逮ニ于諸臣、並罪ㇾ之。大山位以下者可ㇾ罪罪ㇾ之、可ㇾ杖ㇾ之。其務習以能得ㇾ業者若雖ニ死罪ㇾ、則減ニ二等ㇾ。唯恃ニ己才ㇾ以故犯者、不ㇾ在ニ赦例ㇾ。

○要は云々―舊讃に「ぬまめ」とは讃めどそれは要害にこそ様にこむそのがいこしよもとしよむはがよしよいのがとあるい」とる。○大山位―孝大皇天化定身立九位上中下の位に別あり。天皇給ふ大十階云ふ、中の七種の大山位を

## 謹譯

凡ソ政ノ要ハ軍事ナリ。是ヲ以テ文武官ノ諸人、務メテ兵ヲ用ヒ、及ビ馬ニ乘ルコトヲ習ヘ。則チ馬兵並ニ當身ノ裝束ノ物、務メテ具ニ儲足セヨ。其馬アルモノヲ騎士トナシ、馬ナキモノヲ步卒トナス。並ニ試練シテ、以テ聚會ニ障ルコト勿レ。若シ詔旨ニ忤ヒテ、馬兵ニ便ナラザルモノアリ、亦裝束闕ルモノアラバ、親王以下諸臣ニ至ルマデ並ニ之ヲ罰セヨ。大山位以下罰スベキハ之ヲ罰シ、ウツベキハ之ヲウテヨ。其努メ習ヒテ、以テ能ク業ヲ得ル者ハ死罪タリトモ二等ヲ減ゼヨ。唯己ガ才ヲ恃ミ、以テ故ラニ犯ス者ハ赦例ニ

アラズ。

## 文武天皇

### 孝順ヲ表旌スルノ詔（續日本紀卷第二　大寶二年十月二十一日）

上自曾祖、下至玄孫、奕世孝順者、舉戸給復、表旌門閭、以爲義家焉。

○奕世―代々。○累代。○復―復は除なり、即ち租稅徭役を免除すること。○表旌―善行を表旌して人に知らせる、即ち表彰と云ふに同じ。

**謹譯**

上曾祖ヨリ下玄孫ニ至ルマデ、奕世孝順ナル者ニハ戸ヲ舉ゲテ復ヲ給ヒ、門閭ニ表旌シテ、以テ義家ト爲セヨ。

### 災ヲ穰ヒ民苦ヲ救フノ詔（續日本紀卷第三　慶雲二年四月）

朕以菲薄之躬、託于王公之上、不能下德感上天仁及黎庶。遂令陰陽錯謬、水旱失時、年穀不登、民多菜色。每念於此、惻怛於心、宜令五大寺讀金光明經、爲救民苦、天下諸國勿收今年舉稅之利、並減庸半。

○菲薄―德の薄い身。○錯謬―あやまりての意。○菜色―人民が飢え疲れた樣を中々見つけるからの意。○惻怛―いたみかなしむ。

**謹譯**

朕菲薄ノ躬ヲ以テ王公ノ上ニ託シ、德上天ニ感ジ、仁黎庶ニ及ブコト能ハズ遂ニ陰陽ヲシテ錯謬シ、水旱時ヲ失ヒ、年穀登ラズ、民ヲシテ菜色多カラシム。此ヲ念フ每ニ心ニ惻怛ス、宜シク五大寺ヲシテ金光明經ヲ讀ミ、民ノ苦ヲ救ハンガ爲ニ天下ノ諸國ニ今年舉稅ノ利ヲ收ムルコトナク、並ニ庸ノ半ヲ減ゼシムベシ。

### 禮ヲ重ズルノ詔（續日本紀卷第三　慶雲三年三月）

夫禮者、天地經義、人倫鎔範也、道德仁義、因禮乃弘、敎訓正俗、待禮而成。比者、諸司容儀多違禮義。加之男女无別、晝夜相會、又如聞、京城內外多有穢第、良由所司不存檢察。自今以後、兩省

○鎔範―模範。○同じ。○職第―厚本あり。○職臭―臭は即ち臭の字なれど前の文の關係上職の云ふ。○上職―職とは俗に臭の如し。○厚本―本は即ち臭の字なれど前の文の關係上職の云ふ。

五府、並遣二官人及衛士一、嚴加二捉搦一、隨レ事科決。若不レ合レ與レ罪者、錄レ狀上聞。

謹譯

夫レ禮ハ天地ノ經義、人倫ノ鎔範ナリ。道德仁義ハ禮ニ因リテ乃チ弘リ、教訓正俗ハ禮ヲ待チテ而シテ成ル。比者諸司ノ容儀多ク禮義ニ違フ。シカノミナラズ、男女別ナク晝夜相會ス。又聞クガ如クンバ京城ノ內外多ク穢第アリ。良ニ所司ノ檢察ヲ存セザルニ由ル。今ヨリ以後、兩省五府官吏衛士ヲ遣シテ嚴シク捉搦ヲ加ヘ、事ニ從ヒテ科決セヨ。若シ罪ヲ與フベカラザル者ハ狀ヲ錄シテ上聞セヨ。

○兩省―式部省と彈正臺と。○役人―京城の內外の非違を指す。○警備―共に清風俗を司る。○所司―官吏。○五府―左右衛門府、左右衛士府。○衛士―衛士なり。○衛士府―衛士府に屬す。○每年―每年各國軍團より交替して上京し禁闕を守る者なり。○捉搦―搦め捕へること。○科決―おきてに決すること。

## 元明天皇

### 禮節ヲ振肅スルノ詔（續日本紀卷第四慶雲四年十二月廿七日）

凡爲レ政之道、以レ禮爲レ先。无レ禮言亂、言亂失レ旨。往年有レ詔、停二跪伏之禮一。今聞。內外廳前、皆不二嚴肅一。進退无レ禮、陳答失レ度。斯則所在官司不レ恪二其次一、自忘二禮節一所レ致也。宜下自今以後、嚴加二糺彈一、革二其弊俗一、使レ靡二淳風一。

○其次―各自の地位を自重せず。○淳風―淳朴な風。

謹譯

凡ソ政ヲ爲スノ道ハ禮ヲ以テ先ト爲ス。禮ナケレバ言亂ル。言亂レバ旨ヲ失フ。往年詔アリテ跪伏ノ禮ヲ停ム。今聞ク、內外ノ廳前皆嚴肅ナラズ、進退禮ナク、陳答度ヲ失フト。斯レ卽チ所在ノ官司其次ヲ恪マズ、自ラ禮節ヲ忘ルルノ致ス所ナリ。宜ク自今以後嚴ニ糺彈ヲ加ヘ、其弊俗ヲ革メ、淳風ニ靡カシムベシ。

### 即位ノ詔（續日本紀卷第四慶雲四年七月十七日）

現神八洲御宇倭根子天皇詔旨勅命、親王、諸王、諸臣、百官人等天下公民衆聞宣。關母威岐藤原宮御宇倭根子天皇丁酉八月爾、此

食國天下之業乎日並知皇太子之嫡子、今御宇豆留天皇爾授賜而、並坐而、此天下乎治賜比諧賜岐。是者關母威岐近江大津宮御宇大倭根子天皇乃與天地共長、與日月共遠不改常典止立賜比敷賜羽留法乎受被賜坐而行賜事止衆被賜而。恐美仕奉利豆羅久止詔命乎衆聞宣。如是仕奉侍爾。去年十一月爾、威加母我王朕子天皇乃詔豆羅久。朕御身勞坐故暇間得而御病欲治。此乃天豆日嗣之位者大命爾坐世大坐而治可賜止讓賜命乎受被坐賜而。答曰豆羅久、朕者不堪止辭白而受不坐在間爾。遍多久日重而讓賜倍婆。勞美威美、今年六月十五日爾詔命者受賜止白奈賀羅、此重位爾繼坐事乎奈母、天地心乎勞美重美畏坐左久止、詔命衆聞宣。故、是以親王始而。王、臣、百官人等乃淨明心以而。彌務爾彌結爾阿奈奈比奉輔佐奉牟事爾依而志、此食國天下之政事者平長將在止奈母、所念坐。又、天地之共長遠不改常典止立賜羽留食國法母、傾事無久、

○藤原の宮云々｜持統天皇を申し奉る。○日並皇太子｜天武帝の子草壁皇子を申し奉る。御母は持統天皇。○今天下の武天皇云々｜文武天皇の宮｜大津の宮を申し奉る。天智天皇。○去年。｜慶雲二年。○我が王朕が｜文武天皇を申し奉る。我が王は親しみの御詞

動事无久渡將去止奈母所念行左久止、詔命衆聞宣。又遠皇御世乎始而天皇御世御世、天豆日嗣止高御座爾坐而、此食國天下乎撫賜比慈賜事者辭立不在、人祖乃意能賀弱兒乎養治事乃如久治賜比慈賜來業止奈母、隨神所念行須。是以先豆先豆天下公民之上乎慈賜久、（以下略）

## 謹譯

現ツ御神ト八洲シロシメス倭根子天皇ガ詔旨ラマト勅リタマフ命ヲ親王タチ諸臣タチ百官ノ人等天ノ下ノ公民モロモロ聞シメサヘ、ト宣ル。

關マクモ威キ藤原ノ宮ニアメノシタシロシメシシ倭根子天皇ノ丁酉ノ八月ニコノ食國天ノ下ノ業ヲ日並知ノ皇太子ノ嫡子、今アメノシタシロシメシツル天皇ニ授タ賜ヒテ、並ビ坐シテ、コノ天ノ下ヲ治メ賜ヒ諧ヘ賜マヒキ。コハ關ケマクモ威キ近江ノ大津ノ宮ニアメノシタシロシメシシ大倭根子天皇ノ天地ト與ニ長ク、月日ト與ニ遠ク改ルマジキ常ノ典ト立テ賜ヒ敷キ賜ハル法ヲ受ケ賜ハリ坐シテ行ヒ賜フコトトモロモロ受ケ賜ハリテ、恐ミ仕ヘ奉ツリク

ラク、ト詔リタマフ命ヲモロモロ聞シメサヘ、ト宣ル。

カク仕ヘ奉リ侍ルニ、去年ノ十一月ニ、威キカモ我ガ王朕ガ子天皇ノ詔リタマヒツラク、朕御身勞シク坐スガ故ニ、暇閑得テ御病治メタマハムトス。コノ天ツ日嗣ノ位ハ大命ニ坐セ大坐シマシテ治メ賜フベシト讓リ賜フ命ヲ受ケ賜リマシテ、答ヘ曰シツラク、朕ハ堪ヘジト辭ビ白シテ受ケマサズアル間ニ、タビマネク日重ネテ讓リ賜ヘバ、勞シミ威ミ、今年ノ六月ノ十五日ニ詔命ハ受ケ賜フト白シナガラ、コノ重位ニ繼ギマスコトヲナモ、天地ノ心ヲ勞シミ重シミ畏ミ坐サク、ト詔リタマフ命ヲモロモロ聞シメサヘ、ト宣ル。

カレ、ココヲモテ親王タチヲ始メテ、王タチ、臣タチ、百ノ官ノ人等ノ淨キ明キ心ヲモチテ、彌務メニ彌結リニアナナヒ奉リ輔ケ奉ラムコトニ依リテシコノ食國天ノ下ノ政事ハ平ラケク長クアラムトナモ念ホシマス。マタ、天地ノ共長ク遠ク改ルマジキ常ノ典ト立テ賜ハル食國ノ法モ、傾クコト無ク、動クコトナク渡リ去カムトナモ念ホシメサク、ト詔リタマフ命ヲモロモロ聞シメサヘ、ト宣ル。遠皇祖ノ御世ヲ始メテ、天皇ガ御世、天ツ日嗣ト高御座ニ坐シテ、コノ食國天ノ下ヲ撫デ賜ヒ慈ミ賜フコトハ辭立ツニアラズ、人ノ祖ノオノガ弱兒ヲ養ヒ治スコトノ如ク治メ賜ヒ慈ミ賜ヒ來ル業トナモ、神ナガラ念ホシメス。

ココヲモテ、マヅ天ノ下ノ公民ノ上ヲ慈ミ賜ハク。〔以下大赦ノ詔略〕

## 改元ノ宣命

（續日本書紀卷四　和銅元年正月十一日）

現神御宇倭根子天皇詔旨勅命乎、親王諸王諸臣百官人等天下公民衆聞宣。

高天原與利天降坐志天皇御世乎始而、中今爾至麻弖、天皇御世御世、天豆日嗣高御座爾坐而治賜慈賜來食國天下之業止奈母、隨神所念行佐久止詔命乎衆聞宣。

如是治賜慈賜來留天豆日嗣之業、今皇朕御世爾當而坐者 天地之心乎勞彌重彌辱彌恐彌坐爾聞看食國中乃東方武藏國爾、自然作成和

銅出在止奏而獻焉。此物者天坐神地坐祇乃相于豆奈比奉福波倍奉事爾依而、顯久出多留寶爾在羅之止奈母、神隨所念行須。是以天地之神乃顯奉瑞寶爾依而。御世年號改賜換賜波久止詔命乎衆聞宣。

故改慶雲五年而和銅元年爲而、御世年號止定賜。是以天下爾慶命詔久、冠位上可賜人人治賜。〔大赦天下、自和銅元年正月十一日昧爽以前大辟罪已下、罪无輕重、已發覺未發覺、繫囚見徒、咸赦除之。其犯八虐、故殺人、謀殺人已殺、賊盜常赦所不免者、不在赦限。亡命山澤、挾藏軍器、百日不首、復罪如初。高年百姓、百歲以上、賜粉三斛、九十以上二斛、八十以上一斛。孝子順孫、義夫節婦、表其門閭、優復三年。鰥寡惸獨不能自存者、賜粉　斛。賜百官人等祿各有差。諸國之郡司加位一階。其正六位上以上、不在進限。〕免武藏國今年庸。當郡調詔天皇命乎衆聞宣。

〇元明天皇―和銅元年正月十一日の詔「春正月乙巳。武藏國秩父郡獻和銅。詔曰」とあり。

## 謹譯

現ツ御神ト天ノシタシロシメス倭根子天皇ガ詔旨ラマト勅リタマウ命ヲ親王タチ、諸王タチ、百官ノ人等、天下ノ公民モロモロ聞シメサヘ、ト宣ル。

高天ノ原ヨリ天降リ坐シシ、天皇ガ御世ヲ始メテ。中今ニ至ルマデニ、天皇ガ御世御世、天ツ日嗣高御座ニ坐シテ治メ賜ヒ慈ミ賜ヒ來ル食國天ノ下ノ業トナモ、神ナガラ念ホシメサク、ト詔リタマフ命ヲモロモロ聞シメサヘ、ト宣ル。

カク治メ賜ヒ慈ミ賜ヒ來ル天ツ日嗣ノ業ト、今皇朕ガ御世ニ當リテ坐セバ、天地ノ心ヲ勞シミ、重シミ、辱ミ、恐ミ坐スニ、聞シ看ス食國ノ中ノ東ノ方武藏ノ國ニ、自然ニ作成レル和銅出デタリ、ト奏シテ獻レリ。コノ物ハ天ニ坐ス神、地ニ坐ス祇ノ相ウヅナヒ奉リ福ハヘ奉ルコトニ依リテ、顯シク出デタル寶ニアルラシトナモ、神ナガラ念ホシメス。ココヲモテ天地ノ神ノ顯シ奉レル瑞ノ寶ニ依リテ、御世ノ年號改メ賜ヒ換ヘ賜ハク、ト詔リタマウ命ヲモロモロ聞シメサヘ、ト宣ル。

カレ慶雲五年ヲ改メテ和銅元年トシテ、御世ノ年號ト定メ賜フ。ココヲモテ天ノ下ニ慶ビノ命詔リタマハク、冠位上ゲ賜フベキ人々治メ賜フ。〔天下ニ大赦シ、和銅元年正月十一日ノ昧爽ヨリ以前ノ大辟罪已下、罪輕重トナク、已發未發覺、繫囚見徒、咸ク之ヲ赦除ス。ソノ八虐ヲ犯ス、人ヲ故殺シ、人ヲ謀殺シテ已ニ殺ス、賊盜ノ常赦ニ免レザル所ハ赦ノ限リニアラズ。山澤ニ亡命シ、軍器ヲ挾藏シテ、百日首サザルハ、罪ニ復スコト初ノ如クナラム。高年ノ百姓百歳以上ハ粍三斛ヲ賜ヒ、九十以上ハ二斛、八十以上ハ一斛。孝子順孫、義夫、節婦ハソノ門閭ニ表シ、優復三年。鰥寡惸獨、自存スル能ハザル者ニハ粍一斛ヲ賜フ。百ノ官人等ニ祿ヲ賜フ。各差アリ。諸國ノ國郡ノ司ハ一階ヲ加フ、ソノ正六位以上ハ進ム限リニアラズ。〕武藏ノ國ノ今年ノ庸、當郡ノ調免シタマフ、ト詔リタマフ天皇ガ命ヲモロモロ聞シメサヘ、ト宣ル。

○斛―ますめ斗の十倍、一石に同じ。

## 遷都ノ詔（續日本紀卷第四 和銅元年二月）

朕祇奉上玄、君臨宇内、以菲薄之德、處紫宮之尊。常以爲、作之者勞、居之者逸、遷都之事、必未遑也。而王公大臣咸言、往古已降、至于近代、揆日瞻星、起宮室之基、卜世相土、建帝室之邑、定永鼎之基、固無窮之業、斯在。衆議難忍、詞情深切、然則京師者、百官之府、四海所歸。唯朕一人、豈獨逸猶。苟利於物、其可遠乎。昔殷王五遷、受中興之號、周后三定、致太平之號、安以遷其久安宅。方今平城之地、四禽叶圖三山作鎮、龜筮並從。宜建都邑。宜其營構資、須隨事條奏。亦待秋收後、令造路橋。子來之義勿致勞擾。制度之宜令後不加。

○遷都の詔―文武天皇は慶雲四年王臣に遷都を議せしめ給ふ。なほ御遺詔の程ながらの布告せられたる。

### 謹譯

朕祇ミテ上玄ニウケ、宇内ニ君臨シ、菲薄ノ德ヲ以テ紫宮ノ尊キニ居ル。常ニ思ヘラク之ヲ爲ス者ハ勞シ、之ニ居ル者ハ逸ス、遷都ノ事ハ必ズ未ダ遑アラザルナリト。而ルニ王公大臣咸言フ、往古ヨリ以降近代ニ至ルマデ、日ヲ

揆リ星ヲ瞻テ宮室ノ基ヲ起シ、世ヲトシ土ヲ相シテ帝室ノ邑ヲ建ツ、永鼎ノ基ヲ定メ、無窮ノ業ヲ固クスルコト斯ニ在ラント。衆議忍ビ難ク、詞情深切ナリ。然レバ則チ京師ハ百官ノ府ニシテ、四海ノ歸スル所ナリ。唯朕一人豈獨リ逸猶センヤ。苟モ物ニ利アラバソレ遠ザクベケンヤ。昔殷王五度遷リテ中興ノ號ヲ受ケ、周后三度定メテ太平ノ號ヲ致セリ。安ジテ以テ其久安ノ宅ヲ遷サン。方今平城ノ地ハ四禽圖ニ叶ヒ、三山鎮ヲ作ス、龜筮並ニ從フ。宜ク都邑ヲ建ツベシ。宜ク其營構スベキノ資ハ須ク事條ニ隨ヒテ奏スベシ。亦秋收ヲ待チテ後路橋ヲ造ラシメヨ。子來ノ義、勞擾ヲ致スコト勿レ。制度ノ宜シキ後ヲシテ加ヘザラシメヨ。

## 膏雨ヲ賀スルノ詔（續日本紀卷第五 和銅四年六月）

去年霖雨麥穗既傷。今憂亢旱稻苗殆損。憐此蒼生、仰彼雲漢。今見膏雨有勝衆瑞。宜黎元同悅。共賀天心。

謹譯

去年霖雨シテ麥穗既ニ傷ハレ、今夏亢旱シテ稻苗殆ド損ズ。コノ蒼生ヲ憐ミテ、カノ雲漢ヲ仰グ。今膏雨ヲ見ル。衆瑞ニ勝ルコトアリ。宜ク黎元ト同ジク悅ビ、共ニ天心ヲ賀スベシ。

## 民ヲ恤ムノ詔（續日本紀卷第五 和銅四年十一月）

諸國大稅三年之間、借貸給之。勿收其利。又賜畿內百姓年八十以上、及孤獨不能自存者衣服食物。又出擧私稻者自今以後不得過半利。餘者如令。

謹譯

諸國ノ大稅三年ノ間借貸シテ之ヲ給セヨ。其利ヲ收ムル勿レ。又畿內ノ百姓ノ年八十以上及ビ孤獨ノ自ラ存スル能ハザル者ニハ衣服食物ヲ賜フ。又私稻ヲ出擧セル者ハ今ヨリ以後半利ヲ過グルヲ得ザレ。餘ハ令ノ如クセヨ。

## 役民ヲ賑恤スルノ詔（續日本紀卷第五 和銅五年四月）

諸國役民還レ鄕之日、食糧絶乏、多饉二道路一、轉塡二溝壑一。其類不レ少。國司等宜下勤加二撫養一、量賑恤上。如有二死者一、且加埋葬。錄二其姓名一報二本屬一也。

○賑恤―貧民を賑しめぐむこと。

謹譯

諸國ノ役民鄕ニ還ルノ日、食糧絶乏シ、多ク道路ニ饉エ、溝壑ニ轉塡ス。其類少カラズ。國司等宜シク勤メテ撫養ヲ加ヘ、量リテ賑恤スベシ。如シ死者アラバ且ツ加タ埋葬シ、其ノ姓名ヲ錄シテ本屬ニ報ゼヨ。

朝集使ヲ諭スノ勅　（續日本紀卷第六　靈龜元年五月）

天下百姓、多背二本貫一、流宿二他鄕一、規レ避二課役一。其浮浪逗留、經二三月一以上一者、卽云斷輸二調庸一、隨二當國法一。又撫二導百姓一、勸二課農桑一、心存二字育一、能救二飢寒一、實是國郡之善政也。若有下身在二公庭一、心顧二私門一、妨二奪農業一、侵中蜂萬民上、實是國家之大蠹也。宜下其勸二催產業一、資產豐足者爲二上等一、雖レ加二催勸一、衣食短乏者爲二中等一、田疇荒廢、百姓飢寒、因致二死亡一者中下等上。十人以上、則解二見任一。又四民之徒、各有二其業一。今失レ職流散、此亦國郡司、敎導無レ方。甚無レ謂也。有レ如二此類一、必加二顯戮一。自レ今以後、遣二巡察使一、分二行天下一、觀二省風俗一、宜下勸二敦德政一、庶中彼周行上。始レ今諸國百姓、往來過所、用二當國印一焉。

○本貫―本籍
○撫育―養育
○字育等云ふにくくは同じくくみ育てること
○蜂―蜂は蟹の一種がざみを云ふ、卽ち侵害する意。
○大蠹―木食ひ虫なり轉じて此處では國家内に巢を作る國賊の意に用ひ、故におほいなるさまたげと訓ず。
○顯戮―戮は行ふこと。死罪を顯は其死體を衆にさらし示すこと最も重き罪なり。

謹譯

天下ノ百姓多ク本貫ニ背キ、他鄕ニ流宿シ、課役ヲ避ルヲ規ル。其浮浪逗留スルコト三月以上ヲ經ル者ハ卽チココニ斷ジテ調庸ヲ輸スコト、當國ノ法ニ隨ヘ。又百姓ヲ撫導シ、農桑ヲ勸課シ、心字育ニ存シテ能ク飢寒ヲ救フハ實ニ是國郡ノ善政ナリ。若シ身公庭ニ在リテ心私門ヲ顧ミ、農業ヲ妨奪シ萬民ヲ侵蜂スルコトアラバ實ニ是國家ノ大蠹ナリ。宜シク其產業ヲ勸メ催シ、資產豐ニ足ル者ハ上等ト爲シ、催勸ヲ加フト雖モ衣食短乏ナル者ハ中等トナシ田疇荒廢シ、百姓飢寒シテ、因テ死亡ヲ至ス者ハ下等ト爲スベシ。十人以上

ハ則チ見任ヲ解ケ。又四民ノ徒各其業アリ。今職ヲ失ヒテ流散スルハ、此亦國郡司教導方ナク、甚ダ謂レナキナリ。此ノ如キ類アラバ必ズ顯戮ヲ加ヘヨ。今ヨリ以後巡察使ヲ遣シ、天下ニ分行シ、風俗ヲ觀省セシメ、宜ク敦德ノ政ヲ勤メ、彼ノ周行ヲ庶フベシ。今ヨリ始メテ諸國ノ百姓往來シテ過ル所ニハ當國ノ印ヲ用ヒヨ。

## 元正天皇

### 麥禾ヲ兼ネ種ウルノ詔（續日本紀卷第七 靈龜元年十一月）

國家隆泰、要在富民。富民之本、務從貨食。故男勤耕耘、女脩紝織、家有衣食之饒、人生廉恥之心。刑錯之化爰興、大平風可致。凡厥吏民豈不勗歟。今諸國百姓未盡產術、唯趣水澤之種、不知陸田之利。或遭澇旱、更無餘穀。秋稼若罷、多致饑饉。此乃非唯百姓懈、固由國司不存教導。宜令百姓兼種麥禾、男夫一人二段。凡粟之爲物、支久不敗。於諸穀中、最是精好。宜以此狀遍告天下、盡力耕種、莫失時候。自餘雜穀任力課之。若有百姓輸粟轉稻者聽之。

○貨食―貨財と食物を殖すとのあるとの意。○紝織―機を織ること。○刑錯―天下太平の爲刑律が不用になるとの意。十八史略に「刑錯四十餘年不用」とあること。○澇旱―澇は淹なり、即ち久しくひでりするに遭へばの意。

### 謹譯

國家ノ隆泰ハ要ハ民ヲ富マスニ在リ。民ヲ富マスノ本ハ務メテ貨食ニ從フ。故ニ男ハ耕耘ヲ力メ、女ハ紝織ヲ脩ムレバ家ニ衣食ノ饒リ有リテ、人廉恥ノ心ヲ生ズ。刑錯ノ化爰ニ興リ、大平ノ風致スベシ。凡ソ厥ノ吏民豈勗メザランヤ。今諸國ノ百姓未ダ產術ヲ盡サズ、唯水澤ノ種ヲ趣シテ陸田ノ利ヲ知ラズ。或ハ澇旱ニ遭ハバ更ニ餘穀無カラン。秋稼若シ罷マバ多ク饑饉ヲ致サン。此乃チ唯百姓ノミ懈ルニアラズ、固ヨリ國司ノ教導ヲ存セザルニ由ル。宜シク百姓ヲシテ麥禾ヲ兼種シ、男一人毎ニ二段ナラシムベシ。凡ソ粟ノ物タル久シキヲ支ヘテ敗レズ、諸穀ノ中ニ於テ最モ是精好ナリ。宜ク此狀ヲ以テ遍

ク天下ニ告ゲ、力ヲ盡シテ耕種シ、時候ヲ失フ莫カラシム可シ。自餘ノ雜穀ハ力ニ任セテ之ヲ課セヨ。若シ百姓粟ヲ輸シ稻ニ轉ズル者アラバ之ヲユルセ

○至公―辭源に遍亳も私なきの謂なり。又士を試るの所なりと。試者主の公無私なる故、自勵以當て其所處曰至公とあり。○堂―退食公文―詩經召南の公文なり。即ち退朝して私宅で食事をとることなり。○休徵―休兆に同じ、めでたいこと、全く聖唐詩訓に休徵天啓運必彰とある

## 文武ノ庶僚ヲ奬勵スルノ詔（續日本紀卷第八 養老五年正月）

至公無レ私、國土之常風。以レ忠事レ君、臣子之恒道焉。當下須各勤レ所レ職退レ食自レ公。康哉之歌不レ遠。隆平之基斯在。災異消レ上休徵叶レ下。宜下文武庶僚、自レ今以去、若有二風雨雷震之異一、各存中極言忠正之志上。

謹譯

至公ニシテ私ナキハ國土ノ常風ナリ。忠ヲ以テ君ニ事フルハ臣子ノ恒道ナリ。當ニ須ラク各職トスル所ヲ勤メ、退食公ヨリスベシ。康哉ノ歌遠カラズ。隆平ノ基斯ニ在リ。災異上ニ消エ、休徵下ニ叶ハン。宜ク文武ノ庶僚今ヨリ以去若シ風雨雷震ノ異アラバ、各極言忠正ノ志ヲ存スベシ。

○極諫―史記文帝記に賢良力能直言極諫者二とある、即ち强く諫めよとの御意。○紫宮―天皇の居所、こゝでは紫宸の意味。○黔首―人民は冠をかぶらないことから起つた言葉、秦の頃は黔首と云つたが周の頃は黎民と云つた。

## 極諫ヲ納ルルノ詔（續日本紀卷第八 養老五年二月）

朕德菲薄、導レ民不レ明。夙興以求、夜寢以思。身居二紫宮一、心在二黔首一。無レ委二卿等一、何化二天下一。國家之事、有レ益二萬機一、必可二奏聞一。如有レ不レ納、重爲二極諫一。汝無二面從一、退有二後言一。

謹譯

朕德菲薄ニシテ民ヲ導クコト明カナラズ。夙ニ起キテ以テ求メ、夜ハニ寢テ以テ思フ。身ハ紫宮ニ居レドモ心ハ黔首ニアリ。卿等ニ委ヌルコトナクンバ何ゾ天下ヲ化セン。國家ノコト萬機ニ益アラバ必ズ奏聞スベシ。モシ納レザルコトアラバ重ネテ極諫スベシ。汝面從シテ退イテ後言アルコト勿レ。

## 直言ヲ求メ給フノ詔（續日本紀卷第八 養老五年二月）

世諺云、歲在レ申年、常有二事故一。此如レ所レ言。去庚申年、咎徵屢見、水

旱並臻、平民流没、秋稼不レ登。國家騒然、萬姓苦勞。遂則朝庭儀表、藤原大臣奄焉薨逝。朕心哀慟。今亦去年灾異之餘、延及二今歳一、亦猶風雲氣色、有レ違二于常一。朕心恐懼、日夜不レ休。然聞二之舊典一、王者政令不レ便レ事、天地譴責以示二咎徵一。或有二不善一、則致二之異一乎。于今汝臣等位高任大。豈得レ不レ罄二忠情一乎。故有二政令不レ便レ事、悉陳无レ諱、直言盡レ意、无レ有レ所レ隱。朕將二親覽一。

○庚申―養老二年。○藤原大臣―續紀の卷第八、四年八月癸未の條下に、右大臣藤原朝臣不比等薨、帝深悼惜焉―とある。○答徵―天の譴によるしるし。

謹　譯

世ノ諺ニ云フ、歳申ニアルノ年ハ常ニ事故アリト。此レ言フ所ノ如シ。去ル庚申ノ年咎徵屢見レ、水旱並ビ臻リ、平民流没シテ、秋稼登ラズ、國家騒然トシテ萬姓苦勞セリ。遂ニ則チ朝庭ノ儀表藤原大臣奄焉トシテ薨逝シ、朕ガ心哀慟セリ。今亦去年ノ灾異ノ餘延イテ今歳ニ及ビ、亦猶風雲ノ氣色常ニ違フコトアリ、朕ガ心恐懼スルコト日夜ヤマズ。然シテ之ヲ舊典ニ聞クニ王者ノ政令事ニ便ナラザレバ天地譴責シテ以テ咎徵ヲ示スト。或ハ不善アリテ之ガ異ヲ致スカ。汝臣等位高ク任大ナリ。豈忠情ヲ罄サザルヲ得ンヤ。故ニ政令事ニ便ナラザルコトアラバ悉ク陳ベテ諱ムコトナク、眞言シテ意ヲ盡シテ隱ス所アルコト勿レ。朕將ニ親ラ覽ントス、

## 課役ヲ免ズルノ詔（續日本紀卷第八 養老五年三月七日）

朕君ニ臨四海一、撫二育百姓一、思二欲家之貯積一、人之安樂一。何期、頃者旱澇不レ調、農桑有レ損。遂使二衣食乏短一、致レ有二饑寒一。言念二于茲一、良增二惻隱一。今減二課役一、用助二産業一。其左右兩京、及畿内五國、並免二今歳之調一、自餘七道諸國亦停二當年之役一。

○旱澇―旱はひでり、澇は洪水。

謹　譯

朕四海ニ君臨シテ百姓ヲ撫育シ、家ノ貯積シ人ノ安樂ナランコトヲ欲ス。何ゾ期セン、頃者旱澇調ハズ、農桑損スルコトアリトハ。遂ニ衣食乏短ニシテ饑寒アルヲ致サシム。ココニコレヲ念ヒテ眞ニ惻隱ヲ增セリ。今課役ヲ減ジ

テ、用テ産業ヲ助ケン。其左右ノ兩京及ビ畿内ノ五國ハ並ニ今歳ノ調ヲ免ジ自餘ノ七道諸國モ亦當年ノ役ヲ停メヨ。

## 黎元ヲ安ンジ農蠶ヲ勸ムルノ詔

（續日本紀卷第九　養老七年一月）

乾坤持施、燾載之德以深、皇王至公、亭毒之仁斯廣。然則、居ニ南面一者、必代レ天而闢レ化、儀ニ北辰一者、亦順レ時以涵育。是以、朕巡ニ京城一、遙望ニ郊野一、芳春仲月、草木滋榮、東候始啓、丁壯就ニ隴畝之務一、時雨漸澍、蟄蟲有ニ浴灌之悅一。何不流ニ寛仁一、以安ニ黎元一、布ニ淳化一、而濟ニ萬物一乎。宜ニ給ニ戸頭百姓種子各二斛一、布一常、鍪一口一、令ニ農蠶之家永無レ失レ業、宦學之徒專忘レ私。

### 謹譯

乾坤持施シテ、燾載ノ德以テ深ク、皇王至公ニシテ亭毒ノ仁斯ニ廣シ。然レバ則チ南面ニ居ル者ハ、必ズ天ニ代ツテ化ヲ闢キ、北辰ニ儀ル者ハ、亦タ時ニ順ヒ以テ涵育スベシ。是ヲ以テ、朕京城ヲ巡リ、遙ニ郊野ヲ望ムニ、芳春ノ仲月、草木滋ク榮エ、東候始メテ啓ケ、丁壯隴畝ノ務ニ就キ、時雨漸ク澍ヒ、蟄蟲浴灌ノ悅ビアリ。何ゾ寛仁ヲ流キ、以テ黎元ヲ安ンジ、淳化ヲ布キテ萬物ヲ濟ハザランヤ。宜シク戸頭ノ百姓ニ種子各々二斛、布一常、鍪一口ヲ給シ、農蠶ノ家ヲシテ、永ク業ヲ失フコトナク、宦學ノ徒ヲシテ專ラ私ヲ忘レシムベシ。

○燾載―燾は幬に同じ普く覆ひ照らすを云ふ乾坤云々は中庸に「梓レ如下天地之無レ不二持載一、無レ不二覆幬一。」とある意に同じ。

○亭毒―老子に「亭レ之毒レ之」と注に毒は育なりとあり即ち育て養ふこと。

○蟄蟲浴灌の悅―長き間土中に蟄居せる虫が春雨に初めて甦生ひを得たる時の喜び。

## 聖武天皇

### 即位ノ宣命

（續日本紀卷第九　神龜元年二月四日）

現神大八洲所知倭根子天皇詔旨止勅大命乎。諸王、諸臣、百官人等、天下公民衆聞食宣。

高天原爾神留坐皇親神魯岐 神魯美命吾孫將レ知食國天下止與佐斯奉志麻爾麻爾、高天原爾事波自米而、四方食國天下乃政乎彌高

彌廣爾。天日嗣止高御座爾坐而、大八島國所ㇾ知倭根子天皇乃大命爾坐、詔久此食國天下者掛畏岐藤原宮爾天下所ㇾ知。美麻斯乃父止坐天皇乃美麻斯爾賜志天下之業止詔大命乎聞食恐美受賜懼理坐事乎衆聞食、宣。

可久賜時爾。美麻斯親王乃齡乃弱爾荷重波不ㇾ堪自加止所ㇾ念坐而、皇祖母坐志志掛畏岐我皇天皇爾授奉岐。依ㇾ是、而是平城大宮爾現御神止坐而大八島國所ㇾ知而、靈龜元年爾此乃天日嗣高御座之業、食國天下之政乎朕爾授賜讓賜而敎賜詔賜都良久、挂畏淡海大津宮御宇倭根子天皇乃萬世爾不ㇾ改常典止立賜敷賜閇留隨ㇾ法、後遂者我子爾佐太加爾牟倶佐加爾無ニ過事一授賜止負賜詔賜比志爾依豆今授賜牟止所ㇾ念坐間爾、去年九月、天地貺大瑞物顯來理。又、四方食國乃年實豐爾牟倶佐加爾得在止見賜而隨ㇾ神母所ㇾ念行爾于斯久母皇朕賀御世當、顯見留物爾者不ㇾ在、今將ニ嗣座御世名乎記而應來顯來留物爾在良志止所ㇾ念坐而、今神龜二字御世乃年名止定豆改ニ養老八年一爲ニ神龜元年一而天日嗣高御座食國天下之業乎吾子美麻斯王爾授賜讓賜止詔天皇大命乎、頂受賜恐美持而辭啓者、天皇大命恐被賜仕奉者、拙久劣而無ㇾ所ㇾ知。進母不ㇾ知退母不ㇾ知、天地之心母勞久重、百官之情母辱愧美奈母隨ㇾ神所ㇾ念坐。故、親王等始、而王臣、汝等、清支明支正支直支心以、皇朝乎穴比扶奉而、天下公民乎奏賜止、詔命衆聞食宣。

辭別詔久遠皇祖御世始而中今爾至麻豆、天日嗣止高御座爾坐而此食國天下乎撫賜慈賜波久。時時狀狀爾從而治賜慈賜來業止隨ㇾ神念行須。是以、宣天下乎慈賜治賜久、(大ニ赦天下一、內外文武職事、及五位已上爲ニ父後一者、授ニ勳一級。賜下高年百歲已上穀一石五斗、九十已上一石、八十已上并惸獨不ㇾ能ニ自存一者五斗。孝子、順孫、義夫節

婦咸表ニ門閭ニ終レ身勿レ事。天下兵士減ニ今年調半ニ京畿悉免レ之。又、官官仕奉韓人部一人二人爾。其貢而可ニ仕奉ニ姓名賜。又、百官官人及京下僧尼大御手物取賜治賜久止詔天皇御命衆聞食宣。

○聖武天皇神龜元年二月四日の詔。二月甲午受禪、即位於大極殿。大赦天下。詔日、倭根子天皇と申し聖武天皇を申し奉る。○神産靈神を高皇産靈神を申す。○神魯岐命神魯美命を申す。○神皇産靈神を申し奉る。○藤原の宮に文武天皇を申し奉る。○ミマシ聖武天皇に申された御言。

## 謹譯

現ツ御神ト、大八洲國知シメス倭根子天皇ガ詔旨ト勅リタマフ大命ヲ、親王タチ、諸臣タチ、百官ノ人等、天ノ下ノ公民モロモロ聞シ食サヘ、ト宣ル。

高天ノ原ニ神留リ坐ス皇ガ親神魯岐、神魯美命ノ吾ガ御孫ノ知ラサム食國天ノ下ノヨサシ奉リシマニマニ、高ノ天原ニ事ハジメテ、四方ノ食國天ノ下ノ政ヲ彌高ニ彌廣ニ天ツ日嗣ト高御座ニ坐シテ、大八島國知シメス倭根子天皇ノ大命ニ坐セ、詔リタマハク、コノ食國天ノ下ハ掛ケマクモ畏キ藤原ノ宮ニ天ノ下知シメシシ、ミマシノ父ト坐ス天皇ノミマシニ賜ヒシ天ノ下ノ業ト詔リタマフ大命ヲ聞シ食シ畏ミ受ケ賜ハリ懼リ坐スコトヲ、モロモロ聞シ食サヘ、ト宣ル。

○平城の大宮|元明天皇を奉る。和銅年藤原の宮から平城の宮に遷都なされ給ふ。

カク賜ヘル時ニ、ミマシ親王ノ齡ノ弱キニ荷重キハ堪ヘジカト念ホシ坐シテ皇祖母ト坐シシ掛ケマクモ畏キ我ガ皇天皇ニ授ケ奉リキ。コレニ依リテ、コノ平城ノ大宮ニ現ツ御神ト坐シテ大八島國知ロシメシテ、靈龜元年ニコノ天ツ日嗣高御座ノ業、食國天ノ下ノ政ヲ朕ニ授ケ賜ヒ讓リ賜ヒテ敎ヘ賜ヒ詔リ賜ヒツラク、掛ケマクモ畏キ淡海ノ大津ノ宮ニアメノシタシロシメシシ倭根子天皇ノ萬世ニ改ルマジキ常ノ典ト立テ賜ヒ敷キ賜ヘル法ノマニマニ、後遂ニハ我ガ子ニサダカニムクサカニ過ツコトナク授ケ賜ヘト負セ賜ヒ詔リ賜ヒシニ依リテ、今授ケ賜ハムト念ホシ坐ス間ニ、去年ノ九月、天地ノ貺ヘル大キ瑞ノ物顯レ來リ。マタ、四方ノ食國ノ年實豐カニムクサカニ得タリト見賜ヒテ神ナガラモ念ホシメスニ、ウツシクモ皇朕ガ御世ニ當リテ顯ルル物ニハアラジ、今嗣ギ坐サム御世ノ名ヲ記シテ應ヘ來リ顯レ來ル物ニアルラント念ホシ坐シテ、今神龜ノ二字ヲ御世ノ年名ト定メテ、養老八年ヲ改メテ神龜元年トシテ、天ツ日嗣高御座食國天ノ下ノ業ヲ吾ガ子ミマシ王ニ授ケ賜ヒ讓リ賜フト詔リタマフ天皇ガ大命ヲ、頂ニ受ケ賜ハリ恐ミ持チテ辭ビ啓サバ、天皇ガ

大命恐ミ受ケ賜ハリ仕ヘ奉ラバ、拙ク劣リテ知レルコトナシ。進ムモ知ラニ退クモ知ラニ、天地ノ心モ勞シク重シク、百ノ官ノ情モ辱ミ愧カシミナモ神ナガラ念ホシ坐ス。カレ、親王ヲ始メテ、王臣、汝等清キ明キ正シキ直キ心ヲモチテ、皇朝ヲアナナヒ扶ケ奉リテ、天ノ下ノ公民ヲ奏シ賜ヘ、ト詔リタマフ命ヲモロモロ聞シ食サヘ、ト宣ル。

○惸獨―惸も獨もひとりものゝ意。

○韓人部―三韓または漢などからの歸化人。

辭別キテ詔リタマハク、遠皇祖ノ御世ヲ始メテ中今ニ至ルマデ、天ツ日嗣ト高御座ニ坐シテ、コノ食國天ノ下ヲ撫デ賜ヒ慈ミ賜ハク、時々狀狀ニ從ヒテ治メ賜ヒ慈ミ賜ヒ來ル業ト神ナガラ念ホシメス。ココヲモテ、マヅ天ノ下ヲ慈ミ賜ヒ治メ賜ハリ、〔天下ニ大赦シ、內外文武職事、及ビ五位已上ノ父ノ後タル者ニ勳一級ヲ授ク。高年百歲已上ニ穀一石五斗、九十已上ニ一石、八十已上并ニ惸獨自存スル能ハザル者ニ五斗ヲ賜フ。孝子、順孫、義夫、節婦ハ咸ク門閭ニ表シ、身ヲ終ルマデ事フコト勿レ。天下ノ兵士ハ今年ノ調ノ半バヲ減ジ、京畿ハ悉ク之ヲ免ズ。〕マタ、官々ニ仕ヘ奉ル韓人部一人二人ニ、ソノ負ヒテ仕ヘ奉ルベキ姓名ヲ賜フ。マタ、百官ノ官人及ビ京下ノ僧尼ニ御手ツ物取ラシ賜ヒ治メ賜ハク、ト詔リタマフ。天皇ガ御命ヲモロモロ聞シ食サヘ、ト宣ル。

○幽冥云々―佛神のごく奥深いところの加護力を知らずの中ずに識らずのうちにうむるによるの意。

○穢臭―臭は臭の俗字、惡いひのするけがらはしきもの。

## 社寺ヲ清淨ニセヨノ詔（續日本紀卷第九 神龜二年七月）

除レ寃祈レ祥、必憑ニ幽冥一。敬レ神尊レ佛、清淨爲レ先。朕聞、諸國神祇社內、多有ニ穢臭一、及放ニ雜畜一。敬ニ神之禮、豈如レ是乎。宜下國ニ司長官一自執ニ幣帛一、愼致ニ清掃一、常爲歲事。又諸寺院限、勤加ニ掃淨一、仍令僧尼讀ニ金光明經一。若無ニ此經一者、便轉ニ最勝王經一。令ニ國家平安也

謹譯

寃ヲ除キ祥ヲ祈ルハ、必ズ幽冥ニ憑ル。神ヲ敬シ、佛ヲ尊ブハ、清淨ヲ先トナス。朕聞ク、諸國ノ神祇ノ社內、多ク穢臭アリ、及ビ雜畜ヲ放ツト。敬神ノ禮、豈是ノ如クナランヤ。宜シク國司長官、自ラ幣帛ヲ執リ、愼ンデ清掃ヲ致シ、常ニ歲事ヲ爲スベシ。又諸寺院ノ限リ、勤メテ掃淨ヲ加ヘ、仍リテ

僧尼ヲシテ、金光明經ヲ讀マシメヨ、若シ此ノ經ナクンバ、便チ最勝王經ヲ轉ジ、國家ヲシテ平安ナラシメヨ。

○幣帛―訓讀に「ミテグラ」と云ひ神祇に奉献する物の總稱なり。
○最勝王經―大乘方等部の撰屬にして先づ初めに四方四念處の善神の護持王論等の法正事を說けり即ち鎭護國家の妙典として尊ばる。

## 寛刑ノ詔（續日本紀卷第九 神龜二年十二月）

死者不ㇾ可ㇾ生、刑者不ㇾ可ㇾ息、此先典之所ㇾ重也、豈無ニ恒刑之禁。今所ㇾ奏在京及天下諸國見禁囚徒、死罪宜ニ降從ㇾ流、流罪宜ㇾ從ㇾ徒。徒以下並依ニ刑部奏。

謹譯

死者ハ生クベカラズ、刑者ハ息フベカラズト、此レ先典ノ重ズル所ナリ。豈ニ恒刑ノ禁ナランヤ。今奏スル所、在京及ビ天下諸國ノ見禁ノ囚徒ハ、死罪ハ宜シク降シテ流ニ從フベク、流罪ハ宜シク徒ニ從フベシ。徒以下並ハ刑部ノ奏ニ依レ。

○恒刑―永久の刑。
○不變の刑―流は流刑で文武天皇の大寶律によると近、遠の三刑に分れてゐる。
○徒以下並―徒は一年から三年までの五等に分れてゐる。刑杖以下を並は答刑を指す。

## 醫藥ヲ施スノ詔（續日本紀卷第九 神龜三年十二月）

夫百姓或染ニ沈痼病、經ㇾ年未ㇾ愈。或亦得ニ重病、晝夜辛苦。朕爲ニ父母。何不ニ憐愍。宜遣ニ醫藥左右京、四畿及六道諸國、救ニ療此類。咸得ニ安寧、依ニ病輕重、賜ㇾ穀賑恤。所司存ㇾ懷、勉稱ニ朕心ㇾ焉。

謹譯

夫レ百姓或ハ痼病ニ染沈シ、年ヲ經テ未ダ愈エズ。或ハ亦重病ヲ得テ、晝夜辛苦ス。朕ハ父母タリ。何ゾ憐愍セザランヤ。宜シク醫藥ヲ左右京、四畿及ビ六道ノ諸國ニ遣シテ此類ヲ救療シテ、咸ナ安寧ヲ得シメ、病ノ輕重ニ依リテ、穀ヲ賜ヒテ賑恤スベシ。所司懷ヲ存シ、勉メテ朕ガ心ニ稱ヘヨ。

○痼病―ながくなほらぬ病氣。
○賑恤―にぎはしめぐむこと。

## 民ノ疾苦ヲ問フノ詔（續日本紀卷第十二 天平六年四月）

比日天地之災、有ㇾ異ニ於常。思朕撫育之化、於ニ汝百姓ニ有ㇾ所ニ闕失ㇾ歟。今故發ニ遣使者ニ問ニ其疾苦。宜知ニ朕意ㇾ焉。

謹譯

聖武天皇

○比日天地云々―天平六年四月七日大地震あり天下の百姓苦しむ天皇即ち使を遣し京及び畿内にてその狀を問はしめ給ふの詔なり。

比日天地ノ災ヒ、常ニ異ナルコト有リ。思フニ朕ガ撫育ノ化、汝百姓ニ闕失スル所アラン歟。今故ニ使者ヲ發遣シテ其疾苦ヲ問ハシム。宜シク朕ガ意ヲ知ルベシ。

## 國司ヲ戒シムルノ詔

（續日本紀卷第十二　天平七年十一月）

朕選ニ卿等ヲ任爲ニ國司ニ、奉ニ遵條章ニ、僅有ニ一兩人ニ。而或人以ニ虛事ヲ求ニ聲譽ニ、或人背ニ公家ニ向ニ私業ニ。因レ此、比年國內弊損、百姓困乏理不レ合レ然。自レ今以後、勤恪奉レ法者褒ニ賞之ニ、懈怠無レ狀者貶ニ黜之ニ。宜ニ知ニ斯意ニ各自努力。

○條章―箇條
○勤恪―よくつとむること

謹　譯

朕卿等ヲ選ビテ、任ジテ國司ト爲ス、條章ヲ奉遵スルモノ僅ニ一兩人アルノミ。而シテ或人ハ虛事ヲ以テ聲譽ヲ求メ、或人ハ公家ニ背キテ私業ニ向フ。此ニ因テ比年國內弊損シテ、百姓困乏ス。理然ルベカラズ。今ヨリ以後、勤恪ニシテ法ヲ奉ズル者ハ之ヲ褒賞シ、懈怠ニシテ無狀ナル者ハ之ヲ貶黜セン。宜シク斯ノ意ヲ知ツテ各自ラ努力スベシ。

○貶黜―官位をさげしりぞけること。

## 大赦ノ詔

（續日本紀卷第十三　天平十二年六月）

朕君臨八荒、奄有萬姓、履レ薄馭レ朽、情深覆育、求レ衣忘レ寢、思切納隍。恒念、何答ニ上玄、人民有ニ休平之樂。能稱ニ明命ニ、國家致ニ寧泰之榮者。信是被ニ於寬仁、挂網之徒、保ニ身命ニ而得レ壽。布ニ於鴻恩、窮乏之類、脫ニ乞微ニ而有レ息。宜レ大ニ赦天下ニ。

○八荒―全國
○納隍―水なき池に納るゝの意。

謹　譯

朕八荒ニ君臨シテ、萬姓ヲ奄有ス、薄ヲ履ミ朽ヲ馭シ、情覆育ニ深シ、衣ヲ求メテ寢ヲ忘レ、思ヒ納隍ヨリ切ナリ。恒ニ念フ、何ニシテ上玄ニ答ヘ、人民休平ノ樂アリ。能ク明命ニ稱ヒテ、國家寧泰ノ榮ヲ致サンモノゾト。信ニ是レ寬仁ヲ被ルトキハ、挂網ノ徒、身命ヲ保チテ壽ヲ得、鴻恩ヲ布クトキハ、

窺乏ノ類、乞微ヲ脱シテ息フコトアラン。宜シク天下ニ大赦スベシ。

## 造塔寫經ノ詔

（續日本紀卷第十四　天平十三年三月二十四日）

朕以薄德、忝承重任、未弘政化、寤寢多慚。古之明主、皆能光業、國泰人樂。災除福至、修何政化、能臻此道。頃者年穀不豐、疫癘頻至、慙懼交々集。唯勞罪己。是以廣爲蒼生、遍求景福。故前年馳驛、增飾天下神宮、去歲、普令天下造釋迦牟尼佛尊全像高一丈六尺者各一鋪、并寫大般若經各一部。自今春已來、至于秋稼。風雨順序、五穀豐穰。此乃徵誠啓願、靈貺如答。載惶載恐、無以自寧。案經云、有國土講宣讀誦、恭敬供養、流通此經王者、我等四王、常來擁護、一切災障、皆使消殄。憂愁疾疫、亦令除差、所願遂心、恒生歡喜者。宜令天下諸國各敬造七重塔一區、并寫金光明最勝王經。妙法蓮華經各一部。朕又別擬寫金字金光明最勝王經、每塔各令置一部。所冀、聖法之盛與天地而永流、擁護之恩、被幽明而恒滿。其造塔之寺、兼爲國華、必擇好處、實可長久。近人則不欲薰堯所及、遠人則不欲勞衆歸集。國司等各宜務存嚴飾、兼盡潔淸。近感諸天、幾臨護。布告遐邇、令知朕意。

### 謹譯

朕薄德ヲ以テ、忝ク重任ヲ承ク、未ダ政化ヲ弘メズ、寤寐多ク慚ヅ。古ノ明主ハ皆能ク業ヲ光ニシ、國泰ク人樂ミ、災除キ福至ル、何ノ政化ヲ修メテ、能ク此道ヲ臻サン。頃者年穀豐カナラズ、疫癘頻リニ至リ、慙懼交々集リ、唯リ勞シテ己ヲ罪ス。是ヲ以テ廣ク蒼生ノ爲メニ、遍ク景福ヲ求ム。故ニ前ノ年ニ驛ヲ馳セ、天下ノ神宮ヲ增飾シ、去歲、普ク天下ヲシテ釋迦牟尼佛尊ノ全像高一丈六尺ナル者各一鋪ヲ造リ、並ニ大般若經各一部ヲ寫サシム。今春

ヨリ已來、秋稼ニ至リ、風雨順序ニシテ、五穀豐穰ナリ。此レ乃チ誠ヲ徵シ願ヲ啓クコト、靈貺答フルガ如シ。載チ惶ミ載チ恐レ、以テ自ラ寧ンズルナシ。經ヲ案ズルニ云ク、若シ國土ニ講宣讀誦シ、恭敬供養シテ、此經王ヲ流通スル者アラバ、我等四王、常ニ來リ擁護シテ、一切ノ災障皆消殄セシメ、憂愁疾疫モ、亦除差セシメ、所願心ニ遂ゲ恒ニ歡喜ヲ生ゼントイヘリ。宜シク天下ノ諸國ヲシテ各々敬シテ七重ノ塔一區ヲ造リ、並ニ金光明最勝王經、妙法蓮華經各一部ヲ寫サシムベシ。朕又別ニ金字金光明最勝王經ヲ擬寫シ、塔每ニ各一部ヲ置カシム。冀フ所ハ聖法ノ盛ナル、天地ト與ニ永ク流キ、擁護ノ恩、幽明ニ被ビテ恒ニ滿タンコトヲ。其ノ造塔ノ寺ハ、兼テ國華ト爲シ必ズ好處ヲ擇ビ、實ニ長久ナラシムベシ。近人ハ則チ薰脩ノ及ブ所ヲ欲セズ遠人ハ則チ衆ヲ勞シ歸集スルヲ欲セズ。國司等各宜シク務メテ嚴飾ヲ存シ兼テ潔清ヲ盡スベシ。近ク諸天ニ感ジ、庶幾ハクバ臨ミ護ラシメンコトヲ、遐邇ニ布告シ、朕ガ意ヲ知ラシメヨ。

○靈貺―天の惠み。

○遐邇―遠近

## 造佛ノ詔

（續日本紀卷第十五　天平十五年冬十月）

朕以薄德、忝承天位、志存兼濟、勤撫人物、雖率土之濱已霑仁恕、而普天之下未浴法恩。誠欲賴三寶之威靈、乾坤相泰、修萬代之福業、動植咸榮。粤以天平十五年歲次癸未十月十五日、發菩薩大願、奉造盧舍那佛金銅像一軀、盡國銅而鎔像、削大山以構堂、廣及法界、爲朕知識、遂使同蒙利益、共致菩提。夫有天下之富者朕也、有天下之勢者朕也、以此富勢造此尊像、事之易成、心之難至。但徒有勞人、無能感聖、或生誹謗、反墮罪辜。是故預知識者、懇發至誠、各々招介福、宜每日三拜盧舍那佛、自當存念各々造盧舍那佛也。如更有人情願持一枝草一把土助造像者、恣聽之。國郡司等莫因此事

侵二擾百姓一強令中収斂上。布二告遐邇一、知二朕意一矣。

○兼濟―すべてを救ふこと

○罪辜―つみ

謹譯

朕薄德ヲ以テ、忝シク天位ヲ承ク、志兼濟ニ存シ、勤メテ人物ヲ撫ヅ、率土ノ濱已ニ仁恕ニ霑フト雖モ、而モ普天ノ下未ダ法恩ニ浴セズ。誠ニ三寶ノ威靈ニ賴リ、乾坤相泰ク、萬代ノ福業ヲ修メ、動植咸ナ榮エンコトヲ欲ス。粤ニ天平十五年、歲次癸未、十月十五日ヲ以テ、菩薩ノ大願ヲ發シ、盧舍那佛ノ金銅像一軀ヲ造リ奉リ、國銅ヲ盡シテ像ヲ鎔シ、大山ヲ削リ以テ堂ヲ構ヘ、廣ク法界ニ及ビテ、朕ガ知識ト爲シ、遂ニ同ジク利益ヲ蒙リテ、共ニ菩提ヲ致サシメン、夫天下ノ富ヲ有スル者ハ朕ナリ、天下ノ勢ヲ有スル者モ亦朕ナリ。此富ト勢トヲ以テ、此尊像ヲ造ル、事ノ成リ易ク、心ノ至リ難シ。但恐ル、徒ニ人ヲ勞スルアリテ、能ク聖ヲ感ズルコトナク、或ハ誹謗ヲ生ジ、反リテ罪辜ニ墮ンコトヲ。是故ニ知識ニ預カルモノハ、懇ニ至誠ヲ發シ、各々介福ヲ招キテ、宜シク每日盧舍那佛ヲ三拜シ、自ラ當ニ存念シテ各々盧舍那佛ヲ造ルベキナリ。如シ更ニ人ノ、一枝ノ草一把ノ土ヲ持チテ、造像ヲ助クルヲ情願スル者有ラバ、恣ニ之ヲ聽セ。國郡司等、此ノ事ニ因リテ、百姓ヲ侵擾シ、強テ收斂セシムルコト勿レ。遐邇ニ布告シ、朕ガ意ヲ知ラシメヨ。

○收斂―むさぼり收める。

## 金光明寺法華寺ノ造營ヲ國司ニ督促スルノ詔

（續日本紀卷第十七　天平十九年十一月）

朕以二去天平十三年二月十四日一、至心發願。欲レ使二國家永固、聖法恒修一、遍詔二天下諸國一、國別令下造二金光明寺一、法華寺一、其金光明寺各々造二七重塔一區一、幷寫二金字金光明經一部一、安中置塔裏上而諸國司等、怠緩不レ行。或處レ寺不レ便、或猶未レ開レ基。以爲、天地災異一二顯來、蓋由レ茲乎。朕之股肱、豈合レ如レ此。

謹譯

朕去ル天平十三年二月十四日ヲ以テ、至心發願シ、國家ヲシテ永ヘニ固ク、

聖法ヲシテ恒ニ修マラシメント欲シテ、遍ク天下ノ諸國ニ詔シテ、國別ニ金明寺、法華寺ヲ造リ、其金光明寺ハ各七重ノ塔一區ヲ造リ、幷ニ金字金光明經一部ヲ寫シテ、塔裏ニ安置セシム。然ルニ諸國司等、怠緩ニシテ行ハズ。或ハ寺ヲ處クコト便ナラズ。或ハ猶ホ未ダ基ヲ開カズ。オモフニ天地ノ災異一ニ顯ハレ來ル、蓋シ茲ニ由ルカ。朕ノ股肱ニシテ、豈此ノ如クナルベケンヤ。

## 孝謙天皇

### 即位ノ宣命

（續日本紀卷第十七　天平感寶元年七月二日）

現神止御宇倭根子天皇可御命良麻止宣御命乎衆聞食、宣。高天原神積坐皇親神魯伎　神魯美命以、吾孫乃命乃將知食國天下止言依奉乃隨遠皇祖御世始而天皇御世御世聞看來食國天川日嗣高御座乃業止奈、母隨神所念行佐久、止勅天皇我御命乎衆聞食、勅。平城乃宮爾御宇之天皇乃詔之久、挂畏近江大津乃宮爾御宇之天皇乃不改自岐常典等初賜比定賜部流法隨、斯天日嗣高御座乃業者御命爾坐世、伊夜嗣爾奈賀御命聞看止勅夫御命乎畏自物受賜理坐天、食國天下乎惠賜比治賜布間爾萬機密久志天、御身不敢賜有禮法隨天日嗣高御座乃業者朕子王爾授賜止、勅天皇御命乎、親王等、王臣等、百官人等、天下乃公民衆聞食、宣。又天皇御命良未止勅命乎衆聞食、宣。挂畏我皇天皇、斯天日嗣高御座乃業乎受賜氐仕奉止負賜閇頂爾受賜理恐未理、進毛不知退毛不知爾恐美坐久止、宣天皇御命乎衆聞食、勅。故、是以、御命坐、勅久、朕者拙劣雖在、親王等乎始而王等、臣等諸天朝庭立賜閇留食國乃政乎戴持、而明淨心以誤落言無助仕奉爾依弖、天下者平久安久治賜比惠賜布閇支物爾有止奈毛神隨所念坐久止、勅天皇御命乎衆聞食、宣。

### 謹譯

○孝謙天皇天平勝寶元年七月二日の詔―「秋七月甲午。皇太子受禪卽位於大極殿詔曰」とある。皇太子は阿部内親王で卽ち孝謙天皇を申し奉る。この詔は聖武天皇の御讓位と孝謙天皇の御卽位とを併せ述べたもので初めの方が聖武天皇の詔。

○平城の宮―元正天皇を申し奉る。

○朕が御子王―孝謙天皇を申し奉る。

現ツ御神トアメノシタシロシメス倭根子天皇ガ御命ラマト宣リタマフ御命モロモロ聞シ食サヘ、ト宣ル。

高天ノ原ニ神積リ坐ス皇ガ親神魯伎、神魯美命モチテ、吾ガ孫命ノ知ラサム食國天ノ下ト言依サシ奉リノマニマニ遠ツ皇祖ノ御世ヲ始メテ天皇ガ御世御世聞シ看シ來ル食國天ツ日繼高御座ノ業トナモ、神ナガラ念ホシメサクト、勅リタマフ天皇ガ御命ヲモロモロ聞シ食サヘ、ト宣ル。

平城ノ宮ニアメノシタシロシメシシ天皇ノ詔リタマヒシク、挂ケマクモ畏キ近江ノ大津ノ宮ニアメノシタシロシメシシ天皇ノ改ルマジキ常ノ典ト初メ賜ヒ定メ賜ヘル法ノマニマニ、コノ天ツ日嗣ノ高御座ノ業ハ御命ニ坐セ、イヤ嗣ギニナガ御命聞シ坐セト勅リタマフ御命ヲ畏ジモノ受ケ賜ハリ坐シテ、食國天ノ下ヲ惠ミ賜ヒ治メ賜フ間ニ萬ノ機密クシテ、御身敢ヘ賜ハズアレ、法ノマニマニ天ツ日嗣ノ高御座ノ業ハ朕ガ御子王ニ授ケ賜フ、ト勅リタマフ天皇ガ御命ヲ、親王等、王臣等、百ノ官ノ人等、天ノ下ノ公民モロモロ聞シ食サヘ、ト宣ル。

○また天皇が―以下は孝謙天皇の詔。

○我が皇天皇―聖武天皇を申し奉る。

マタ天皇ガ御命ラマト勅リタマフ命ヲモロモロ聞シ食サヘ、ト宣ル。

挂ケマクモ畏キ我ガ皇天皇、コノ天ツ日嗣ノ高御座ノ業ヲ受ケ賜ハリテ仕ヘ奉レト負セ賜ヘ、頂ニ受ケ賜ハリ恐マリ、進ムモ知ラニ退クモ知ラニ、恐ミ坐サクト、宣リタマフ天皇ガ御命ヲモロモロ聞シ食サヘ、ト勅ル。

カレ、ココヲモテ、御命ニ坐セ、勅リタマハク、朕ハ拙ク劣クアレドモ、親王等ヲ始メテ王等、臣等モロモロ天皇ガ朝廷ノ立テ賜ヘル食國ノ政ヲ戴キモチテ、明キ淨キ心ヲモチテ誤チ落スコトナク助ケ仕ヘ奉ルニ依リテ、天ノ下ハ平ラケク安ク治メ賜ヒ、惠ミ賜フベキモノニアリトナモ神ナガラ念ホシ坐サク、ト勅リタマフ天皇ガ御命ヲモロモロ聞シ食サヘ、ト宣ル。

## 殺生禁斷並ニ鰥寡、孤獨、貧窮、老疾ヲ賑恤スルノ詔

（續日本紀卷第十八　天平勝寶四年正月三日）

禁斷始レ從ニ正月三日一迄ニ于十二月晦日一天下殺生。但緣レ海百姓、以レ漁爲レ業不レ得ニ生存者、隨ニ其人數一日別給ニ粮二升一。又鰥寡、

孤獨貧窮老疾不能自存者量加賑恤

○鰥寡孤獨―鰥は矜なり即ちあはれむべきの意。孟子梁惠王に「老而無妻曰鰥、老而無夫曰寡、……此天下之窮民而無告者」とある。即ち獨身者の並稱なり。

謹譯

正月三日ヨリ始メテ十二月晦日ニ迄ルマデ天下ノ殺生ヲ禁斷ス。但シ緣海ノ百姓ニシテ、漁ヲ以テ業ト爲シ、生存スルコトヲ得ザル者ハ、其人數ニ隨ツテ、日毎ニ粃二升ヲ給セヨ。鰥寡、孤獨、貧窮、老疾ニシテ、自存スルコト能ハザル者ハ、量リテ賑恤ヲ加ヘヨ。

天下ヲシテ家ゴトニ孝經一本ヲ藏セシムルノ詔

（續日本紀卷第二十　天平寶字元年四月）

古者治民安國、必以孝理、百行之本莫先於茲。宜令天下、家藏孝經一本、精勤誦習、倍加教授。百姓間有孝行通人、鄉閭欣仰者、宜令所由長官具以名薦。其有不孝不恭不友不順者、宜配陸奥國桃生、出羽國小勝、以清風俗、亦捍邊防。

○陸奥國桃生―宮城縣桃生郡。○出羽國小勝―秋田縣雄勝郡。

謹譯

古ヘヨリ民ヲ治メ國ヲ安ンズルコトハ必ズ孝ヲ以テ理ム、百行ノ本、茲ヨリ先ナルハ莫シ。宜シク天下ヲシテ家ゴトニ孝經一本ヲ藏シテ、精勤誦習シ、倍々教授ヲ加ヘシムベシ。百姓ニシテ間々孝行人ニ通ジ、鄉閭欽仰スル者アラバ由ル所ノ長官ヲシテ具ニ名ヲ以テ薦メシムベシ。其ノ不孝、不恭、不友、不順ナル者アラバ、宜シク陸奥國ノ桃生、出羽國ノ小勝ニ配シ、以テ風俗ヲ清ウシ、亦タ邊防ヲ捍グベシ。

六衞ニ射騎田ヲ置ク。毎年季冬ニ宜シク優劣ヲ試ミ以テ越群ニ給シテ武藝ヲ興サシムベシ。其レ中衞府ハ三十町、衞門府、左右衞士府、左右兵衞府ハ各十町ニセヨ。

行旅ノ病人ヲ恤養スルノ勅

（續日本紀卷第二十　天平寶字元年十月）

如聞、諸國庸調脚夫、事畢歸鄉、路遠粮絶。又行旅病人無親恤養、欲免飢死、餬口假生、並辛苦途中、遂致横斃。朕念乎此、深增

憫矜。宜仰京國官司、量給粮食醫藥、勤加檢校、令達本鄕。若有官人怠緩不行者、科違勅罪。

謹譯

聞クナラク、諸國ノ庸調ノ脚夫、事畢リテ鄕ニ歸ルニ路遠クシテ粮絶ユト。又行旅ノ病人親シク恤ミ養フモノナク、飢死ヲ免レント欲シテ口ヲ餬シ生ヲ假ル、並ニ途中ニ辛苦シテ、遂ニ横斃ヲ致スト。朕此ヲ念ヒテ、深ク憫矜ヲ增ス。宜シク京國ノ官司ニ仰セテ、糧食醫藥ヲ量給シ、勤メテ檢校ヲ加ヘ、本鄕ニ達セシムベシ。若シ官人怠緩シテ行ハザル者アラバ、違勅ノ罪ニ科セヨ。

墾田ヲ山階寺ノ施藥院ニ施スノ勅　（續日本紀卷第二十　天平寶字元年十二月）

普爲救養疾病、及貧乏之徒、以越前國墾田一百町、永施山階寺施藥院。伏願、因此善業、朕與衆生、三檀福田、窮於來際、十身藥樹、蔭於塵區、永滅病苦之憂、共保延壽之樂、契眞妙之深理、自證圓滿之妙身。

謹譯

普ク疾病、及貧乏ノ徒ヲ救養センガ爲メニ、越前ノ國ノ墾田一百町ヲ以テ、永ク山階寺ノ施藥院ニ施ス。伏シテ願クバ、此ノ善業ニ因リ、朕ト衆生ト、三檀ノ福田、來際ヲ窮メ、十身ノ藥樹、塵區ヲ蔭ヒ、永ク病苦ノ憂ヲ減ジ、共ニ延壽ノ樂ヲ保チ、遂ニ眞妙ノ深理ニ契ヒ、自ラ圓滿ノ妙身ヲ證セン。

使ヲ八道ニ遣シ仁慈ヲ施スノ詔　（續日本紀卷第二十　天平寶字二年正月）

朕聞、則天施化、聖主遺章、順月宣風、先王嘉令。故能二儀無愆、四時和協、休氣布於率土、仁壽致於群生。今者三陽既建、萬物初萌、和景惟新、人宜納慶。是以別使八道、巡問民苦、務恤貧病、矜救飢寒。所冀撫字之道、將神合仁、亭育之慈、與天

通レ事。疾疫咸却、年穀必成、家無二寒窶之憂一、國有二來蘇之樂一。所二司宜一知差二清平使一、勉加二賑恤一。稱二朕意一焉。

謹　譯

朕聞ク、天ニ則リ化ヲ施スハ、聖主ノ遺章、月ニ順ヒ、風ヲ宣ブルハ、先王ノ嘉令ナリ、故ニ能ク二儀愆フコトナク、四時和協シ、休氣率土ニ布キ、仁壽群生ニ致スト。今三陽既ニ建チ、萬物初メテ萠エ、和景惟レ新ニシテ、人宜シク慶ヲ納ルベシ。是ヲ以テ使ヲ八道ニ別チ、民苦ヲ巡問シ、務メテ貧病ヲ恤ミ、飢寒ヲ矜救セシム、冀ハクバ撫字ノ道、神ト仁ヲ合セ、亭育ノ慈、天ト事ヲ通ジ、疾疫咸ナ卻キテ、年穀必ズ成リ、家ニ寒窶ノ憂ナク、國ニ來蘇ノ樂アランコトヲ。所司宜シク知リテ清平ノ使ヲ差シ、勉メテ賑恤ヲ加ヘ朕ガ意ニ稱フベシ。

○二儀―陰陽を云ふ。○三陽―正月のこと。○撫字之道―字は慈愛すること。即ち愛育の道の意。

# 淳仁天皇

## 即位ノ宣命

（續日本紀卷第二十一　天平寶字二年八月一日）

明神大八洲所知天皇詔旨良麻止宣勅親王、諸王、諸臣、百官人等天下公民衆聞食、宣。

掛畏現神坐倭根子天皇、我皇此天日嗣御座之業乎、拙劣朕爾被賜豆仕奉止仰賜比授賜閇頂爾受賜利恐美受賜利懼、進母不知爾、退母不知爾恐美坐久止宣天皇勅衆聞食宣。

然皇坐豆天下治賜君者、賢人乃能臣乎得「、天下乎婆平久治物爾在良之止奈母聞行須。故是以大命坐宣久朕雖拙弱、親王始豆王臣等乃相穴奈比奉利相扶奉牟事依豆之此之仰賜比授賜夫食國天下之政者、平久安久仕奉倍之止奈母所念行須。是以無諂欺之心、以忠赤之誠、食國天下之政者衆

○天平寶字二年八月一日是日皇太子受禪即天皇位極殿に即位す。

○我が皇―孝謙天皇を申し奉る。

助仕奉止宣天皇勅衆聞宣。

辭別豆宣久、仕奉人等中爾。自何仕奉狀隨豆一人二人等冠位上賜比治賜夫。百官職事己上及大神宮乎始豆諸社禰宜祝爾大御物賜夫。僧綱始豆諸寺師位僧尼等爾物布施賜夫。又百官司乃人等諸國兵士鎭兵傳兵傳驛戸等。今年田租免賜久止。

## 謹譯

明ツ御神ト大八洲知シメス天皇ガ詔旨ラマト宣リタマフ勅ヲ親王タチ・諸王タチ・諸臣タチ・百官ノ人等天ノ下ノ公民モロモロ聞シ食サヘ、ト宣ル。

掛ケマクモ畏キ現ツ御神ト坐ス倭根子天皇我ガ皇、コノ天ツ日嗣高御座ノ業ヲ拙ク劣キ朕ニ賜ハリテ仕ヘ奉レト仰セ賜ヒ、授ケ賜ヘ、頂ニウケ賜ハリ畏ミ、受ケ賜ハリ懼ヂ、進ムモ知ラニ受ケ退クモ知ラニ、恐ミ坐サク、ト宣リタマフ天皇ガ勅ヲモロモロ聞シ食サヘト宣ル。

サテ皇ト坐シテ天ノ下治メ賜フ君ハ、賢キ人ノヨキ臣ヲ得テシ、天ノ下ヲバ平ラケク安ク治ムルモノニアルラシトナモ聞シメス。カレ、ココヲモテ大命ニ坐セ宣リタマハク、朕ハ拙ク弱クアレドモ、親王タチヲ始メテ王タチ、臣タチノ相アナナイ奉リ、相扶ケ奉ラン事ニ依リテシ、コノ仰セ賜ヒ、授ケ賜フ食國天ノ下ノ政ハ平ラケク安ク仕ヘ奉ルベシトナモ念ホシメス。ココヲモテ諂ヒ欺ク心ナク、忠ニ赤キ誠ヲモチテ、食國天ノ下ノ政ヲバモロモロ助ケ仕ヘ奉レ、ト宣リタトフ天皇ガ勅ヲモロモロ聞シ食サヘ、ト宣ル。

辭別キテ宣リタマハク、仕ヘ奉ル人等ノ中ニ、シガ仕ヘ奉ル狀ニ隨ヒテ、一人二人ノ人ドモ冠位上ゲ賜ヒ、治メ賜フ。百ノ官ノ職事ヨリ上ツカタ及ビ大神ノ宮ヲハジメテ、諸社ノ禰宜、祝ニ大御物賜フ。僧綱ヲ始メテ諸寺ノ師位ノ僧・尼等ニ物布施シ賜フ。マタ百官ノ司人等諸國ノ兵士、鎭兵、傳兵、傳驛戸ドモ今年ノ田租免シ賜ハク、ト宣リタマフ天皇ガ勅ヲモロモロ聞シ食サヘト宣ル。

○師位―法師位、大法師位を云ふ。

## 直言ヲ求ムルノ勅

（續日本紀卷第二十二　天平寶字三年五月）

淳仁天皇

朕以、煢昧、欽承聖烈、母臨六合、子育兆民。見一物之或違、恨堯心之未洽。聞萬方之有罪、想湯責而多愧。而今大亂已平、逆臣遠竄。然猶天災屢見、水異頻臻。竊恐。聽易隔於黎元、人含冤枉、鑒難周於宇宙、家懷鬱憂。庶欲博採嘉言、傍詢妙略、憑衆智而益國、據群明以利人。宜令百官五位已上、緇徒師位已上、悉書意見、密封奉表、直言正對。勿有隱諱。朕與宰相、審簡可否。不須詐稱聖德、苟媚取容、面弗肯陳、退遣後毀。普告退邇、知朕意焉。

○煢昧―昧心。昧心善。即ち善の意。○惡の判斷にも、御乏しいと、御謙遜なされた御言葉。

## 謹譯

朕煢昧ヲ以テ、欽ンデ聖烈ヲ受ケ、六合ニ母臨シ、兆民ヲ子育ス。一物ノ違フアルヲ見レバ、堯心ノ未ダ洽カラザルヲ恨ム。萬方ノ罪アルヲ聞ケバ、湯責ヲ想ウテ愧多シ。而シテ今大亂已ニ平ギ、逆臣遠ク竄ス。然レドモ猶ホ天災屢見レ、水異頻リニ臻ル。竊ニ恐ル。聽クコト黎元ニ隔リ易ク、人々冤枉ヲ含ミ、鑒ルコト宇宙ニ周カリ難シ、家々鬱憂ヲ懷カンコトヲ。庶クハ博ク嘉言ヲ採リ、傍ラ妙略ヲ詢ヒ、衆智ニ憑リテ國ヲ益シ、群明ニ據リテ以テ人ヲ利セント欲ス。宜シク百官ノ五位已上、緇徒師位已上ヲシテ、悉ク意見ヲ書シ、密封シテ表ヲ奉リ、直言正對シテ、隱諱アルコトナカラムベシ。朕宰相ト與ニ審ニ可否ヲ簡バン。詐ツテ聖德ヲ稱シ、苟モ媚ビテ容レラルヽヲ取リ、面ノアタリ肯陳セズ。退イテ後毀ヲ遺スベカラズ。普ク退邇ニ告ゲテ、朕ガ意ヲ知ラシメヨ。

○堯心。湯責。―堯王湯王共に支那古代の聖天子。○緇徒師位―僧侶で師位已上の位以上の者の。○退邇―書經に若陟退必自邇とある如く遠近の意よりて轉じて町村の意に通ず。

## 内外ノ官人ヲ教誡スルノ勅

（續日本紀卷第二十二　天平寶字三年六月）

如聞、治國之要不如簡人。簡人任能民安國富。竊見内外官人景迹、會無廉耻、志在貪盜。是宰相訓導之怠。非爲人皆稟愚性。宜加誘誨各立令名。其維城典訓者。叙爲政之規模、著修身之撿括。律令格式者、錄當今之要務、具庶官之紀綱。

並是窮安上治民之道、盡濟世弼化之宜。其濫不殺生、能矜貧苦爲仁。斷諸邪惡修諸善行爲義。事上盡忠撫下有慈爲禮。遍知庶事斷決是非爲智。與物不妄觸事皆正爲信。非分希福不義欲物爲貪。心無辨了强逼惱人爲嗔。事不合理好是自愚爲癡。不愛己妻喜犯他女爲婬。人所不與公取竊取爲盜。父兄不誠、斯何以導子弟。官吏不行、此何以敎士民。若有修習仁、義、禮、智、信、之善、戒慎貪、嗔、癡、淫、盜、之惡、兼讀前二色書者。舉而察之、隨品昇進。自今以後、除此色外、不得任用。史生已上、庶令懲惡勸善重名輕物。普告天下、知朕意焉。

## 謹譯

聞クナラク、國ヲ治ムルノ要ハ、人ヲ簡ブニ如カズ、人ヲ簡ビ能ニ任ズレバ民安ク國富ムト。竊ニ內外官人ノ景迹ヲ見ルニ、曾テ廉耻ナク、志貪盜ニアリ。是レ宰相訓導ノ怠ナリ。人皆愚性ヲ稟クルモノタルニアラズ。宜シク誘誨ヲ加ヘ、各令名ヲ立テシムベシ。其レ維城典訓ハ、政ヲ爲スノ規模ヲ叙シ、修身ノ撿括ヲ著ス。律令格式ハ、當今ノ要務ヲ錄シ、庶官ノ紀綱ヲ具フ。並ニ是レ上ヲ安ンジ、民ヲ治ムルノ道ヲ窮メテ、世ヲ濟ヒ化ヲ弼クルノ宜シキヲ盡ス。其ノ濫ニ殺生セズ、能ク貧苦ヲ矜ムヲ仁ト爲ス。諸ノ邪惡ヲ斷チ諸ノ善行ヲ修ムルヲ義ト爲ス。上ニ事ヘテ忠ヲ盡シ下ヲ撫デ、慈アルヲ禮ト爲ス。遍ク庶事ヲ知リ是非ヲ斷決スルヲ智ト爲ス。物ニ與リテ妄ナラズ事ニ觸レテ皆正シキヲ信ト爲ス。分ニアラズシテ福ヲ希ヒ不義ニシテ物ヲ欲スルヲ貪ト爲ス。心ニ辨了ナク强ヒテ人ニ逼リ惱マスヲ嗔ト爲ス。事理ニ合ハザルニ、好ンデ自ラ愚ナルヲ是トスルヲ癡トナス。己ガ妻ヲ愛セズ他ノ女ヲ犯スヲ喜ブヲ婬トナス。人ノ與ヘザル所ヲ公ニ取リ竊ニ取ルヲ盜トナス。父兄誠ナラズンバ、斯ニ何ヲ以テカ子弟ヲ導カン。官吏行ハズンバ、此ニ何ヲ以テカ士民ヲ敎ヘン。若シ仁、義、禮、智、信、ノ善ヲ修習シ貪、嗔、癡、婬、

○景迹―行跡に同じ。
○維城典訓―詩經に「宗子維城」以城喩宗子、言其爲國家藩離也。と。典訓は謂先生之書也。とある即ち此處では烈聖の敎への意。

○心無辨了―心に辨力のなきを云ふ。

盗、ノ悪ヲ戒慎シ、兼ネテ前ノ二色ノ書ヲ讀ム者アラバ、擧ゲテ之ヲ察シ品ニ隨ヒテ昇進セン。今ヨリ以後、此色ヲ除ク外任用スルヲ得ザレ。史庄已上庶クハ悪ヲ懲シ善ヲ勸メ名ヲ重ンジ物ヲ輕ンゼシメンコトヲ。普ク天下ニ告ゲ朕ガ意ヲ知ラシメヨ。

## 國郡司ヲ敎誡スルノ勅

（續日本紀卷第二十三　天平寶字五年八月）

頃見七道巡察使奏狀、曾無一國守領政合公平。竊思貪濁人多、清白吏少。朕聞、授非賢哲、萬事咸邪、任得其才、千務悉理。止如國司一色親管百姓籍、其擘導風俗、字撫黎民、特須精簡、必合稱職。其居家無孝、在國無忠。見利行非、臨財忘恥、上交違禮、下接多諂、施政不仁、爲民苦酷。差遣邊要、詐稱病重、任使勢官、競欲自拜。匪聞教義、靡率典章、措意屬心、唯利是視、巧弄憲法。漸汚皇化。如此之流、傷風亂俗。雖有周公之才、朕固不足觀也。自今已後、更亦莫任、還却田園、令勸耕作。若有悔過自新、必加褒賞。迷塗不返、永須貶黜。普告遐邇、敎諭衆諸。

○巡察使ハ「メグリミル」ツカヒ」と訓む。即ち諸國を巡行して國郡司の處置民情等を調べる臨時の官。持統天皇八年七月に起原す。

## 謹譯

頃ゴロ七道ノ巡察使ノ奏狀ヲ見ルニ、曾テ一國ノ守ノ政ヲ領シテ公平ニ合フ事ナシト。竊ニ思フニ、貪濁ノ人多ク、清白ノ吏少シ。朕聞ク、授クルコト賢哲ニ非ズンバ、萬事咸邪ニ、任ズルコト其才ヲ得テ、千務悉ク理ルト。止ダ國司ノ如キ一色親シク百姓ノ籍ヲ管リ、其風俗ヲ奬導シ、黎民ヲ字撫スル、特ニ須ラク精簡ニシ、必ズ職ニ稱フベシ。其ノ家ニ居テ孝ナク、國ニ在ツテ忠ナキハ、利ヲ見テ非ヲ行ヒ、財ニ臨ンデ恥ヲ忘レ、上ニ交リテ禮ニ違ヒ、下ニ接シテ諂ヒ多ク、政ヲ施シテ仁ナラズ、民ノ苦酷ヲ爲ス。邊要ニ差遣スレバ、詐ツテ病重シト稱シ、勢官ニ任使スレバ、競ウテ自ラ拜セント欲ス。敎義ヲ聞カズ、典章ニ率フコトナク、意ヲ措キ心ヲ屬クル、唯利ヲ是レ視、

○周公―周公旦のこと、周の文王の子、武王の弟、武王の後、成王を相け、子の周公業を興すにあつた大功のある太守。

巧ニ憲法ヲ弄ビテ、漸ク皇化ヲ汚ス。此ノ如キ流ハ風ヲ傷ヒ俗ヲ亂ル、周公ノ才アリト雖モ、固ヨリ觀ルニ足ラザルナリ。今ヨリ以後、更ニ亦タ任ズルコト莫ク、田園ニ還却シ、耕作ヲ勤メシメヨ。若シ過ヲ悔イ自ラ新ニスルモノアラバ、必ズ褒賞ヲ加ヘヨ。塗ニ迷ウテ返ラズンバ、永ク須ク貶黜スベシ。普ク退邇ニ告ゲテ、衆諸ニ敎諭セヨ。

## 稱德天皇

### 農桑ヲ勸課スルノ勅

（續日本紀卷第二十八　神護景雲元年四月）

夫農者天下之本也　吏者民之父母也　勸課農桑、令有常制。比來諸國頻年不登。匪唯天道乖宜、抑亦人事怠慢。宜令天下勸事農桑。仍擇差國司恪勤尤異者一人、並郡司及民中良謹有誠者、郡別一人、專當其事、錄名申上。先以肅敬禱祀境內有驗神祇、次以存心勸課部下百姓產業。若其所祈有應、所催見益、則專當之人、別加褒賞。

謹譯

夫レ農ハ天下ノ本ナリ。吏ハ民ノ父母ナリ。農桑ヲ勸課シテ、常制アラシメヨ。此來諸國頻年登ラズ。唯天道ノ宜シキニ乖フノミニアラズ。抑モ亦タ人事ノ怠慢スレバナリ。宜シク天下ヲシテ勸メテ農桑ヲ事トセシムベシ。仍テ國司ノ恪勤ニシテ尤異ナル者一人、並ニ郡司及ビ民中ノ良謹ニシテ誠アル者郡別ニ一人ヲ擇差シ、專ラ其ノ事ニ當ラシメ、名ヲ錄シ申上セヨ。先ヅ肅敬ヲ以テ境內ノ驗アル神祇ヲ禱祀シ、次ニ以テ心ヲ存シテ部下百姓ノ產業ヲ勸課セヨ。若シ其ノ祈ル所應アリ、催ス所益ヲ見バ、則チ專當ノ人ハ、別ニ褒賞ヲ加ヘヨ。

### 和氣淸麿ヲシテ八幡神命ヲ聽シムルノ勅

（續日本紀卷第三十　神護景雲三年九月）

○尼法均―清麿の姉廣蟲の出家名。

○八幡大神―豐前國宇佐郡宇佐宮。即ち宇佐神宮に鎭座する廣幡八幡大神。

朕昨夜夢、八幡神使來云、大神爲令奏事、請尼法均宜汝清麻呂相代而往、聽彼神命。

謹譯

朕昨夜夢ミルニ、八幡ノ神使來リテ云フ、大神事ヲ奏セシメン爲メニ、尼法均ヲ請フト、汝宜シク清麿相代リ往イテ、彼ノ神ノ命ヲ聽クベシト。

## 八幡大神ノ託宣　（續日本紀卷第三十　神護景雲三年九月）

我國家開闢以來、君臣定矣。以臣爲君、未之有也。天之日嗣必立皇緒。無道之人、宜早掃除。

謹譯

我ガ國家ハ開闢以來、君臣定マリヌ。臣ヲ以テ君トナスコト、未ダ之レ有ラザルナリ。天之日嗣ハ必ズ皇緒ヲ立テヨ。無道ノ人ハ、宜シク早ク掃ヒ除クベシト。

## 窺窬ヲ絶シ忠誠ヲ勸ムル宣命　（續日本紀卷第三十　神護景雲三年十月）

天皇我御命良麻止詔久、掛麻久毛畏岐新城乃大宮爾。天下治給之中都天皇能、臣等乎召天後乃御命仁勅之久、汝等乎召都留事方、朝庭爾奉侍良狀敎詔牟止曾召都留於太比爾侍豆諸聞食。

貞久明爾淨伎心乎以天、朕子天皇仁奉侍利護助麻都禮、繼天方是太子乎助奉侍禮。

朕我敎給布御命爾不順之天、王等波己我得麻之帝乃尊岐寶位乎望求米人乎伊射奈比、惡久穢心乎以天、逆爾在謀乎起、臣等方己我比伎婢企是爾託、彼爾依都、頑爾無禮伎心乎念豆横乃謀乎構。如是在牟人等乎波、朕必天翔給天見行之、退給比、捨給比岐良比給牟物曾。天地乃福毛不蒙自。是狀知天、明仁淨伎心乎以天奉侍牟人乎波慈給比愍給天治給牟物曾。

復天乃福毛蒙利、永世爾門不絕奉侍利昌牟。許己知天謹麻利淨心乎以天奉侍止將命止奈毛召都流止、勅比於保世給布御命乎衆諸聞食止宣。

復詔久掛毛畏伎朕我天乃御門帝皇我御命以天勅之久。朕爾奉侍牟諸臣等、朕乎君止念牟人方。大皇后仁能奉侍禮。朕乎念天在我如久、異奈念曾。繼天方朕子太子爾明仁淨久二心無之天奉侍禮。朕方子二利止云言波無、唯此太子一人乃味曾朕我子波在。此心　天諸護助奉侍禮

然朕波御身都可良之久於保麻之麻須爾依天、太子爾天都日嗣高御座乃繼天方授麻都流止命天、朕爾勅之久。天下乃政事波慈乎以天治與。復上波三寶乃御法乎隆之米、出家道人乎治麻都利。次波諸天神、地祇乃祭禮乎不絕、下波天下乃諸人民乎愍給弊。

復勅之久。此帝乃位止云物波、天乃授不給奴人爾授天方保已止毛不得。亦變天身毛滅奴流物曾。朕我立天在人止云止毛汝我心爾不能止知、目爾見天牟人乎波改天立牟事方心乃麻爾麻世與止命伎

復勅之久。朕我東人爾授刀天侍之牟留事波、汝乃近護止之天護近與之念天奈毛在。是東人波、常爾云久、

額爾方箭波立止毛背波箭方不立止云天。君乎一心乎以天護物曾。此心知天、汝都可弊止勅比之御命乎不忘、此狀悟天、諸東國乃人等謹之麻利奉侍禮。

然掛毛畏岐二所乃天皇我御命乎朕我頂爾受賜天、晝毛夜毛念持天在止毛由無之旦人爾云聞之牟留事不得、猶在伎。此爾依天、諸乃人爾令聞止奈毛召都留。故是以、今朕我汝等乎教給牟御命乎衆諸聞食止宣。

夫君乃位波、願求乎以天得事方甚難止云言乎波、皆知天在止毛、先乃人波謀乎遲奈之我方能久都與久謀天、必得天牟止念天、種種爾願禱止毛、猶諸聖、天神、地祇御靈乃不免給、不授給物爾在波自然爾人毛申顯、己我口乎以天毛云都都變天身乎滅、災乎蒙天、終爾罪乎己毛人毛同久致都。因玆天　天地乎

恨、君臣乎毛怨奴、猶心乎改天、直久淨久在波、天地毛憎多麻波受君毛捨ハ、給之天福乎蒙、身毛安家卒。生天方官位乎賜利昌、死豆波善名乎遠世爾流傳天卒。是故、先乃賢人云天在久、『體方灰止共爾地仁埋利奴禮止、名波烟止共爾天爾昇』止云利。又云久『過乎知天方必改與、能乎得天方莫忘』布止伊。然物乎口爾我方淨之止云天、心仁穢乎波天乃不覆。地乃不載奴所止成奴。此乎持伊波稱乎致之、捨伊波謗招都、猶朕我尊備拜美讃誦之奉留最勝王經乃王法正論品爾命久。『若造善悪業今於現在中諸天共護持示其善悪報。國人造悪業王者不禁制。此非順正理。治擯當如法』止。命天在。是乎以天汝等乎教導久。今世爾波世間乃福乎蒙利、忠淨名乎顯之、後世爾方人天乃勝樂乎受天、終爾佛爾成止所念天奈毛諸爾是事乎教給布止。詔布御命乎衆諸聞食止宣。

復詔久、此賜布帶乎多麻波利豆。汝等乃心乎等々能倍直之。朕我教事爾不違之天束爾治卒表止奈毛。此帶乎賜久止。詔布御命乎衆諸聞食止、宣。

○掛麻久毛―言に掛けて申すも恐れ多い。○良麻止―附の意。○附いて―天皇の御辭令、確かにひと聞かせ命ではあるが、意を添へたもの。○新城大宮―大和國添下郡の地名。こゝでは天武紀五年將レ都二新城一とある。○新城―と同じで平城宮を云つたもの。○中都―天皇―の意。○元正天皇―太比爾―の意。○隱―朕が天皇―の意。○聖武―天皇―の子。○孝謙―天皇―の太子。○朕必―天翔―と現人神―身隱れし―の世に往來することを指してゐる。○朕我天乃御門―聖武帝皇―

## 謹譯

天皇ガ御命ラマト詔リタマハク、掛マクモ畏キ新城ノ大宮ニ天ノ下治メ給ヒシ中ツ天皇ノ、臣等ヲ召シテ後ノ御命ニ勅タマヒシク、汝等ヲ召シツルコトハ朝廷ニ侍ヘ奉ラム狀教ヘタマハムトゾ召シツル。オダヒニ侍リテ諸聞食セ。

貞シク明カニ淨キ心ヲ以チテ、朕ガ子天皇ニ侍ヘ奉リ、護リ助ケマツレ。繼テハコノ太子ヲ助ケ侍ヘ奉リ。

朕ガ教ヘ給フ御命ニ順ハズシテ、王等ハ己ガ得マジキ帝ノ尊キ寶位ヲ望ミ求メ、人ヲイザナヒ、惡シク穢キ心ヲ以チテ逆ニアル謀ヲ起テ、臣等ハ己ガヒキビキ、是ニ託キ彼ニ依リツ、頑ニ禮無キ心ヲ念ヒテ横ノ謀ヲ構フ。如是アラム人等ヲバ、朕必ズ天翔リ給ヒテ見行シ、退ケ給ヒ、捨テ給ヒ、キラヒ給ハム物ゾ。天地ノ福モ蒙ラジ。是ノ狀知リチ、明カニ淨キ心ヲ以チテ侍ヘ奉ラム人ヲバ慈ミ給ヒ、愍ミ給ヒテ治メ給ハム物ゾ。

復天ノ福ヲ蒙リ、永キ世ニ門絶ヘズ侍ヘ奉リ昌ヘム。コ、知リテ、謹マリ淨

○天皇　○大皇后―光明皇后　○太子―孝謙　○天皇　○都可良之久―疲勞し病みて給ふてゐることを指してゐる。大僕である。大意である。○變天―却て　○と同じ。○朕我立天在人―ひろく詔給へる御言と同時に聖武帝の御遺詔に以ニ祖王ニ爲ニ皇太子一とあるのを含んでゐる。

キ心ヲ以チテ侍ヘ奉レト將命ハムトナモ召シツル、ト勅リタマヒ仰セ給フ御命ヲ衆諸聞食サヘト宣ル。

復詔リタマハク、掛モ畏キ、朕ガ天ノ御門帝皇ガ御命モチテ勅タマヒシク。朕ニ侍ヘ奉ラム諸ノ臣等、朕ヲ君ト念ハム人ハ、大皇后ニ能ク侍ヘ奉レ。朕ヲ念ジテアルガ如ク、異ニナ念ヒソ。繼テハ朕ガ子太子ニ、明カニ淨ク二心無クシテ侍ヘ奉レ。朕ハ子二リト云フ言ナシ。唯コノ太子一人ノミゾ、朕ガ子ハアル。此ノ心知リテ、諸護リ助ケ侍ヘ奉レ。

然テ、朕ハ御身ヅカラシクオホマシマスニ依リテ、太子ニ天ツ日嗣高御座ノ繼テハ授ケマツルト命リタマヒテ、朕ニ勅リタマヒシク。天下ノ政事ハ慈ミヲ以チテ治メヨ。復、上ツカタハ三寶ノ御法ヲ隆ヘシメ、出家道人ヲ治メマツリ、次ハ諸天神地祇ノ祭禮ヲ絶タズ、下ハ天ノ下ノ諸人民ヲ愍ミ給ヘ。

復勅リタマヒシク、此ノ帝ノ位ト云フ物ハ、天ノ授ケ給ハヌ人ニ授ケテハ保ツコトモ得ズ。亦變リテ身モ滅ビヌル物ゾ。朕ガ立テヽアル人ト云フトモ、汝ガ心ニ能カラズト知リ、目ニ見テム人ヲバ改ヘテ立テムコトハ心ノマニマ

○授刀天―慶雲四年始置ニ舎人寮一授刀ある通り授刀と云ふ役名　○汝云ふ。○都可幣―使へと同義。○と皇が聖武天皇が仰しゃること。○不忘―孝謙天皇の御自身の事。○元正天皇と○所の天皇と○聖武天皇之人波謀云々―皇位を求めやうと謀つた人の得

セヨ、ト命タマヒキ。

復勅リタマヒシク。朕ガ東人ニ刀ヲ授ケテ侍ハシムルコトハ、汝ノ近キ護トシテ護シメヨト念ヒテナモアル。此ノ東人ハ、常ニ云ハク、『額ニハ箭ハ立ツトモ背ハ箭ハ立タジ。』ト云ヒテ、君ヲ一ツ心ヲ以チテ護ルモノゾ。此ノ心知リテ、汝ツカヘト勅リタマヒシ御命ヲ忘レズ。此ノ狀悟リテ、諸東國ノ人等謹マリ侍ヘ奉レ。

然テ掛マクモ畏キ二所ノ天皇ガ大命ヲ朕ガ頂ニ受ケ賜ハリテ、晝モ夜モ念ホシ持チテ在レドモ、由無クシテ人ニ云ヒ聞シムルコト得ズ猶アリキ。此ニ依リテ諸ノ人ニ聞シメムトナモ召シツル。故是ヲ以テ、今朕ガ汝等ヲ教ヘ給ハム御命ヲ衆諸聞食サヘト宣リタマフ。

夫レ君ノ位ハ、願ヒ求ムルヲ以チテ得ルコトハイト難シト云フコトヲバ、皆知リテアレドモ、先ノ人ハ謀ヲヂナシ、我ハヨクツヨク謀リテ必ズ得テムト念ヒテ種々ニ願ヒ祈レドモ、猶ホ諸聖、天ツ神地ツ祇ノ御靈ノ免シ給ハズ、授ケ給ハヌ物ニアレバ、自然ニ人モ申シ顯ハシ、己ガ口ヲ以チテモ云ヒツヽ

ることの出來なかつたわけを以下は仰せになつてゐる。

○巳我國平以都。

○天毛云詞のはぼえずうやうになる

○毛云ひ山にすこと。

○君臣乎毛臣は其罪を議として刑をとる。

○王法正論品—最勝王經の第二十品。

纔リテ身ヲ滅シ、災ヲ蒙リテ、終ニ罪ヲ己モ他モ同ジク致シツ。茲ニ因リテ天地ヲ恨ミ、君臣ヲモ恨ミヌ。猶ホ心ヲ改メテ、直ク淨クアラバ、天地モ憎ミタマハズ、君モ捨テ給ハズシテ、福ヲ蒙リ身モ安ケム。生テハ官位ヲ賜リ昌エ、死テハ善キ名ヲ遠キ世ニ流傳ヒテム。是ノ故ニ、先ノ賢キ人云ヒテアラク、『體ハ灰ト共ニ地ニ埋モリヌレドモ、名ハ烟ト共ニ天ニ昇ル』ト云ヘリ又云ハク、『過ヲ知リテハ必ズ改メヨ、能キヲ得テハ忘ルナ』ト云フ。然ルモノヲ口ニ我ハ淨シト云ヒテ、心ニ穢ナキヲバ、天ノ覆ハズ、地ノ載セヌ所トナリヌ。此ヲ保ツイハ稱ヲ致シ、捨ツルハ謗ヲ招キツ。猶ホ朕ガ尊ビ拜ミ讀誦シ奉ル最勝王經ノ王法正論品ニ命リタマハク、『若シ善惡ノ業ヲ造ラバ、今現在ノ中ニ於テハ諸天共ニ護持シテ、其ノ善惡ノ報ヲ示サム。國人惡業ヲ造ラムニ王者禁制セズ。此レ順正ノ理ニ非ズ。治メ擯ビクコト當ニ法ノ如クスベシ』トノ命タマヒテアリ。是ヲ以テ汝等ヲ教ヘ導ク、今世ニハ世間ノ榮福ヲ蒙リ、忠シク淨キ名ヲ顯ハシ、後ノ世ニハ人天ノ勝樂ヲ受ケテ、終ニ佛ト成レト所念テナモ、諸ニ是ノ事ヲ教ヘ給フト詔リタマフ御命ヲ衆諸聞サヘト宣ル。

復詔タマハク、此ノ賜フ帶ヲタマハリテ、汝等ノ心ヲトヽノヘ直シ、朕ガ教ヘ事ニ違ハズシテ束ネ治メム表トナモ、此ノ帶ヲ賜ハク、ト詔リタマフ御命ヲ衆諸聞食ヘ、ト宣ル。

## 光仁天皇

### 即位ノ宣命

（續日本紀卷第三十二　寶龜元年十月一日）

天皇我詔旨勅命乎。親王、諸王、諸臣、百官人等、天下公民衆聞食宣。掛母恐伎奈良宮御宇、倭根子天皇去八月爾此食國天下之業乎拙劣朕爾被賜。而仕奉止負賜。授賜。天皇詔旨乎頂爾受被賜恐美、受被賜懼、進母不知爾、退不知爾恐美坐久、勅命乎衆聞食宣。然、此乃天日嗣高御座之業者、天坐神、地坐祇乃相宇豆奈比奉、相扶奉事爾

依氐。此座者平安坐豆、天下者所知物爾在良之止奈母所念行須。又、皇坐而天下治賜君者、賢臣能人乎得而志天下乎波平、安治物爾在良志止奈母聞看行須。故、是以大命坐、勅久、朕雖拙弱、親王始而王臣等乃相穴奈比奉、相扶奉牟事爾依而志、此之負賜、授賜食國天下之政者平安仕奉倍之止奈母、所念行須。故、是以衆淨明心、正直言以而食國政奏比、天下公民乎惠治倍之止奈母所念行須止、勅天皇命衆聞食、宣。辭別詔、今年八月五日肥後國葦北郡人日奉部廣主賣獻白龜。又、同月十七日同國益城郡人山稻主獻白龜。此則並合大瑞。故、天地賜大瑞者受被賜歡、受被賜可貴物爾在。是以改神護景雲四年爲寶亀元年。又、仕奉人等中爾。志何仕奉狀隨爾一人二人等冠位上賜比、治賜布。又、大赦天下。又、天下六位已下有位人等給位一階。大神宮始豆諸社之禰宜等給位一階。又僧綱始豆諸寺師位僧尼等爾御物布施賜布。又、高年

○光仁天皇寶亀元年十月朔日の詔―冬十月己丑朔。即天皇位於大極殿。改元寶亀。詔曰―とある。即ち光仁天皇の御即位並びに改元の詔である。○奈良の宮―稱德天皇を申し奉る。

人等養賜。又、困乏人等惠賜布。又、孝義有人等其事免賜。又、今年天下田租免賜久、止宣天皇勅衆聞食、宣。

謹譯

天皇ガ詔旨ラマト勅リタマウ命ヲ、親王タチ、諸王タチ、諸臣タチ、百官ノ人等、天ノ下ノ公民モロモロ聞シ食サヘ、ト宣ル。

掛ケマクモ恐キ奈良ノ宮ニアメノシタシロシメシシ、倭根子天皇ノ去ニシ八月ニコノ食國天ノ下ノ業ヲ拙ク劣キ朕ニ賜ハリテ、仕ヘ奉レト負セ賜ヒ、授ケ賜ヒキト勅リタマフ。

天皇ガ詔旨ヲ頂ニ受ケ賜ハリ恐ミ、受ケ賜ハリ懼デ、進ムモ知ラニ、退クモ知ラニ恐ミ坐サク、ト勅リタマウ命ヲモロモロ聞シ食サヘ、ト宣ル。

サテ、コノ天ツ日嗣高御座ノ業ハ、天ニ坐ス神、地ニ坐ス祇ノ相ウヅナヒ奉リ、相扶ケ奉ルコトニ依リテシ、コノ位ハ平ラケク安ク御坐シマシテ、天ノ下ハ知シメスモノニアルラシトナモ念ホシメス。マタ、皇ト坐シテ天ノ下治

メ賜フ君ハ、賢キ臣ノヨキ人ヲ得テシ、天ノ下ヲバ平ラケク、安ク治ムルモノニアルラシトナモ聞シメス。

カレ、ココヲモテ大命ニ坐セ、勅リタマハク、朕ハ拙ク弱クアレドモ、親王タチヲ始メテ王臣タチノ相アナナヒ奉リ、相扶ケ奉ラムコトニ依リテシ、コノオ負セ賜ヒ、授ケ賜フ食國天ノ下ノ政ハ平ラケク安ク仕ヘ奉ルベシトナモ念ホシメス。カレ、ココヲモテモロモロ淨キ明キ心、正シキ直キ言ヲモチテ食國ノ政奏サヒ、天ノ下ノ公民ヲ惠ミ治ムベシトナモ念ホシメス、ト勅リタマフ天皇ガ命ヲモモロモロ聞シ食サヘ、ト宣ル。

辭別キテ詔リタマハク、今年八月ノ五日肥後ノ國ノ葦北郡ノ人日奉部廣主賣白キ龜ヲ献リキ。マタ同ジ月ノ十七日同ジ國ノ益城郡ノ人山稻主白キ龜ヲ献リキ。コハ則チ並ニ大瑞ニ合ヘリ。カレ、天地ノ貺ヘル大瑞ハ受ケ賜ハリ歡ビ受ケ賜ハリ貴ブベキ物ニアリ。ココヲモテ神護景雲四年ヲ改メテ寶龜元年トス。マタ、仕ヘ奉ル人等ノ中ニ、シガ仕ヘ奉ル狀ノマニマニ一人二人等冠位上ゲ賜ヒ、治メ賜フ。マタ、天ノ下大ク赦シタマフ。マタ、天ノ下ノ六位ヨリ下ツカタ位アル人等ニ位一階ヲ給フ、大神ノ宮ヲ始メテ諸社ノ禰宜等ニ位一階ヲ給フ。マタ僧綱ヲ始メテ諸寺ノ師位ノ僧尼等ニ御物布施シ賜フ。マタ、年高キ人等養ヒ賜フ。マタ困乏シキ人等惠ミ賜フ。マタ孝義アル人等ソノ事免シタマフ。マタ今年天ノ下ノ田租免シ賜ハク、ト宣リタマウ天皇ガ勅ヲモロモロ聞シ食サヘト宣ル。

○天長節―天皇の御誕辰を祝賀する節會を云ふ。我國にては此時唐制に倣ひ始

## 天長節ヲ定ムルノ勅（續日本紀卷第三十三　寶龜六年九月）

十月十三日、是朕生日。毎至此辰、感慶兼集。宜令諸寺僧尼、毎年是日轉經行道。海内諸國、並宜斷屠。内外百官、賜酺宴一日、仍名此日爲天長節。庶使廻斯功德、虔奉先慈、以此慶情、普被天下。

### 謹譯

十月十三日ハ、是レ朕ガ生日ナリ。此ノ辰ニ至ル毎ニ、感慶兼ネ集ル。宜ク

めて此の節會の制定ありしものなり。○酺宴―天朝より酒食の宴を賜ふこと。

諸寺ノ僧尼ヲシテ、毎年是日ニ轉經行道セシムベシ。海内ノ諸國、並ニ屠ヲ斷ツベシ。内外ノ百官ニ、酺宴ヲ賜フコト一日、仍リテ此日ヲ名ヅケテ天長節トナス。庶クバ斯ノ功德ヲ廻ラシテ、先慈ニ虔奉シ、此ノ慶情ヲ以テ、普ク天下ニ被ラシメン。

## 敬神ノ勅（續日本紀卷第三十四　寶龜七年四月）

祭祀神祇、國之大典。若不誠敬、何以致福。如聞、諸社不修、人畜損穢、春秋之祀、亦多怠慢。因茲嘉祥弗降、災異荐臻。言念於斯、情深慙惕。宜仰諸國、莫令更然。

### 謹譯

神祇ヲ祭祀スルハ、國ノ大典ナリ。若シ誠敬ナラズンバ。何ヲ以テカ福ヲ致サン。聞クナラク、諸社修メズ。人畜損穢シ、春秋ノ祀モ、亦タ多ク怠慢ナリト。茲ニ因ッテ嘉祥降ラズ、災異荐ニ臻ル。言ニ斯レヲ念ヒテ、情深ク慙惕ス。宜シク諸國ニ仰セテ、更ニ然ラシムルコト莫カルベシ。

## 桓武天皇

### 即位ノ宣命（續日本紀卷第三十六　天應元年四月十五日）

明神止　八洲所知天皇詔旨良麻止宣勅親王、諸王、諸臣、百官人等天下公民衆聞食宣。掛畏現神坐倭根子天皇我皇此天日嗣高座之業乎掛畏近江大津乃宮爾御宇之天皇乃初賜比定賜部流法隨爾被賜豆仕奉止仰賜比。授賜閉婆頂爾受賜利恐美、受賜利懼、進母不知爾退母不知爾恐美坐久止宣天皇勅。衆聞食宣。然、皇坐豆天下治賜君者賢人乃能臣乎得豆之天下乎平久安久治物爾在良之止奈母聞行須。故、是以大命坐宣久朕雖拙劣、親王始豆王臣等乃相穴奈比奉利相扶奉牟事依豆之此之仰賜比授賜夫食國天下之政者平久、安久仕奉倍之止奈母所念行。是以無諂欺之心、以忠明之誠天皇朝廷乃立賜部流食國天下之政者衆助仕奉

止、宣天皇勅衆聞食、宣。辭別宣久。朕一人乃未也慶之岐貴岐御命受賜牟。凡人子乃蒙福麻久欲爲流事波、於夜乃多米爾止奈母聞行須。故、是以朕親母高野夫人乎稱皇太夫人豆冠位上奉、治奉流。又、仕奉人等中爾、自何仕奉狀隨豆。一人二人等冠位上賜比治賜夫。又、大神宮乎始豆諸社禰宜、祝等爾給位一階。又、僧綱乎始豆。諸寺智行人、及年八十已上僧尼等爾物布施賜夫。又、高年、窮乏、孝義人等治賜、養賜夫。又、天下今年田租免賜久止。宣天皇勅衆聞食、宣。

○桓武天皇天應元年四月十五日の詔―「癸卯。天皇御大極殿。詔曰」とある。

○現つ御神―現人神の意にして即ち光仁天皇を申し奉る。

謹　譯

明ツ御神ト大八洲知シメス天皇ガ詔旨ラマト宣リタマフ勅ヲ親王タチ、諸王タチ、諸臣タチ百官ノ人等、天ノ下ノ公民モロモロ聞シ食サヘ、ト宣ル。

掛ケマクモ畏キ現ツ御神ト坐ス倭根子天皇我ガ皇コノ天ツ日嗣高座ノ業ヲ掛ケマクモ畏キ近江ノ大津ノ宮ニアメノシタシロシメシシ天皇ノ初メ賜ヒ定メ賜ヘル法ノマニマニ被ケ賜ハリテ仕ヘ奉レト仰セ賜ヒ、授ケ賜ヘバ、頂ニ受ケ賜ハリ恐ミ受ケ賜ハリ懼デ、進ムモ知ラニ、退クモ知ラニ恐ミ坐サク、ト宣リタマフ天皇ガ勅ヲ、モロモロ聞シ食サヘ、ト宣ル。

サテ、皇ト坐シテ天ノ下治メ賜フ君ハ賢キ人ノヨキ臣ヲ得テシ、天ノ下ヲバ平ラケク安ク治ムルモノニアルラシトナモ聞シメス。カレ、ココヲモテ大命ニ坐セ宣リタマハク、朕ハ拙ク劣クアレドモ、親王タチヲ始メテ王タチ臣タチノ相アナナヒ奉リ、相扶ケ奉ラムコトニ依リテシ、コノ仰セ賜ヒ、授ケ賜フ食國天ノ下ノ政ハ平ラケク、安ク仕ヘ奉ルベシトナモ念ホシメス。ココヲモテ諂ヒ欺ク心ナク、忠ニ明キ誠ヲモチテ、天皇ガ朝廷ノ立テ賜ヘル食國天ノ下ノ政ハモロモロ助ヘ奉レト、宣リタマフ天皇ガ勅ヲモロモロ聞シ食サヘト宣ル。

辭別キテ宣リタマハク、朕一人ノミヤ慶ボシキ、貴キ御命ヲ受ケ賜ハム。オホカタ人ノ子ノ福ヲ蒙ラマク欲リスルコトハ、オヤノタメニトナモ聞シメス。カレココヲモテ朕ガ高野夫人ヲ皇太夫人ト稱シテ冠位上ゲ奉リ、治メ奉ル。マタ、仕ヘ奉ル人等ノ中ニ、シガ仕ヘ奉ル狀ニ隨ヒテ、一人二人ドモ冠位上

○高野夫人―桓武帝の御生母、藤原乙繼の女。

ゲ賜ヒ治メ賜フ。マタ、大神ノ宮ヲ始メテ諸社ノ禰宜祝等ニ位一階賜フ。マタ、僧綱ヲ始メテ諸寺ノ智行ノ人、及ビ年八十ヨリ上ツカタノ僧尼等ニ物布施シ賜フ。マタ年高キ人、窮乏シキ人、孝義アル人等治メ賜ヒ、養ヒ賜フ。マタ天ノ下ノ今年ノ田租免シ賜マハク、ト宣リタマフ天皇ガ勅ヲモロモロ聞シ食サヘト宣ル。

○員外―員外官のこと、即ち「寶令の制に規定せる以外の臨時の官」。○以二十年一更成二九牧一を。九牧は九州の牧民官の意、十年は三載考績、三考黜二陟幽明一と

## 官紀振肅ノ詔（續日本紀卷第三十六　天應元年六月）

惟王之置二百官一也、量二材授一能、職員有二限一。自二茲厥後一、事務稍繁、即量二劇官一、仍置二員外一。近古因二脩其流蓋廣一。譬以二十年一更成二九牧一。民之受二弊一、寔爲二此焉一。朕肇膺二寶曆一、君二臨區夏一、言念二生民一、情深撫二育一。思欲下除二其殘一害惠中之仁壽上。宜二内外文武官員外之任一、皆解却。但郡司軍毅不二在此限一。又其任外國司、多乖二朝委一、或未二知欠倉一、且用二公廨一、不二畏憲綱一、肆漁二百姓一。故今擇二其奸濫尤著者一、秩雖二未滿一、隨二事貶一降。自二今以後一、内外官人、立二身清一謹、處一事公一正者一、所二司審一訪、授以顯官一。其在二職貪賤一、狀迹濁一濫者一、宜下遣二巡一察一、採一訪黜降上。庶使下激二濁揚一清、變二澆一俗於當年一、憂二國撫一民、追中淳風於往古上。普告二遐一邇一、知二朕意一焉。

○寶曆―書經にある「宋史」に寶曆綿長にあるか。とある如く寶祚の連綿として永くつゞいてたえぬさまを云ふ。即ち此處にては寶祚を嗣いでの意。

○區夏―經書康誥に永建乃家用肇造二我區夏一とある。即ち區は區域、中夏は華夏、華夏は華大國の意。即ち此處では日本國全體を指す。

○郡司―國司に下に屬して郡内の政務を行ふ者。

○軍毅―當時諸國に配置した軍團には大少一毅の將官が居つた。その將官を云ふ。延曆十一年に國司軍毅等を兵士に使役し、徒に公費を耗する

## 謹譯

惟ミルニ王ノ百官ヲ置クヤ、材ヲ量テ能ヲ授ク、職員ニ限リ有リ。茲レヨリ厥ノ後、事務稍ヤ繁ク、則チ劇官ヲ量リ、仍チ員外ヲ置ク。近古ノ因脩、其ノ流レ蓋シ廣シ。譬ヘバ十年ヲ以テ更ニ九牧ヲナスガ如シ。民ノ弊ヲ受クルコト、寔ニ此レガ爲メナリ。朕肇メテ寶曆ニ膺リ、區夏ニ君臨シ、言ニ生民ヲ念ヒテ、情撫育ニ深シ、其ノ殘害ヲ除キ之ニ仁壽ヲ惠マムト欲ス。宜シクラズ、又其在外ノ國司多ク朝委ニ乖キ、或ハ未ダ欠倉ヲ知ラズ、且ツ公廨ヲ用ヒ、或ハ憲綱ヲ畏レズ、肆ニ百姓ヲ漁ス。故ニ今其ノ奸濫ノ尤モ著シキ者

の弊を生ぜしかば悉く諸國の軍團を廢す。「廨」は署、即ち官廳を云ふ。

一秩と云ふ。十年を一秩と云ふ。

○澆俗―澆季。

○風俗習慣。北史周武帝紀に運當二澆季一、思レ復二古始一。とあるを思ふべし。

○緇徒―黑衣のともがらの意にて僧侶をいふ。

○褒顯―稱譽しあらはすこと。



ヲ擇ビテ、秩未ダ滿ズト雖モ、事ニ隨テ貶降セシム。今ヨリ以後、內外ノ官人、身ヲ立ツルコト淸謹ニシテ、事ヲ處スルコト公正ナル者ハ、所司審カニ訪ウテ、授クルニ顯官ヲ以テセヨ。其ノ職ニ在リテ貪賤ニシテ、狀迹濁濫ナル者ハ、宜シク巡察ヲ使シテ採訪黜降スベシ。庶クバ使濁ヲ激ギリ淸ヲ揚ゲテ、澆俗ヲ當年ニ變ジ、國ヲ憂ヒ民ヲ撫シテ、淳風ヲ往古ニ追ハシメンコトヲ、普ク遐邇ニ告ゲテ、朕カ意ヲ知ラシメヨ。

## 緇徒ノ德行ヲ擇ブノ勅　（續日本紀卷第三十八　延曆四年七月）

釋敎深遠、傳二其道一者、緇徒是也。天下安寧、蓋亦由二其神力一矣。然則惟僧惟尼、有レ德有レ行、自レ非二褒顯一、何以弘道。宜レ仰二所司一、擇二其修レ行傳レ燈、無二厭倦一者、景迹齒名、具注申送。

### 謹譯

釋敎ハ深遠ニシテ、其ノ道ヲ傳フルモノハ、緇徒是レナリ。天下ノ安寧蓋シ亦タ其神力ニ由ル。然ラバ則チ惟僧惟尼、德アリ行アルモノヲ、褒顯スルニアラザルヨリハ、何ヲ以テカ道ヲ弘メム。宜シク所司ニ仰セテ其ノ行ヲ修メ燈ヲ傳ヘテ、厭倦スルコトナキ者ヲ擇ビ、景迹齒名ヲバ具サニ注シテ申シ送ラシムベシ。

○景迹―行跡と云ふに同じ。

○齒名―年名

## 養老ノ詔　（續日本紀卷第三十九　延曆六年三月甲辰）

養レ老之義著レ自二前修一。歷代皇王率由二斯道一。方今時屬二東作一、人赴二南畝一。廼睠二生民一情深矜恤。其左右京五畿內七道諸國百歲已上各賜二穀二斛一。九十已上一斛、八十已上五斗。鰥寡孤獨及癈疾徒者量二其老幼一三斗已下一斗已上。仍令二本國長官一親見二鄉邑一存レ情賑贍

### 謹譯

老ヲ養フノ義ハ前修ヨリ著カナリ。歷代ノ皇王率ネ斯道ニ由レリ。方今時東作ニ屬シ人南畝ニ赴ク。廼チ生民ヲ睠ミテ情深ク矜恤シヌ。其レ左右京五畿

○前修―古の君子人。

○東作―春は「東方より」と云ふ支那の五行說による。即ち春は農事の始まる時の意より轉じて農事、農作のこと。東作の語を用ひられるようになつた

○賑贍―後漢書朗顗傳に「賑贍孤寡」とあり。即ち財物を給してにぎはし足すこと。

○丕顯―大にあらはるゝこと。○履氷―詩經小雅小旻に戰戰兢々、如臨深淵、如履薄氷とある語にして危懼に堪へざるを云ふ。○懷乎―敬み畏れるまさ。○御朽且つ大―甚だ難く事なはせらるの意。

内七道ノ諸國百歳已上ニ各々穀二斛ヲ賜フ。九十已上ニハ一斛、八十已上ニハ五斗、鰥寡孤獨及ビ癈疾ノ徒ハ其老幼ヲ量リテ三斗已下一斗已上。仍リテ本國ノ長官ヲシテ親ラ鄕邑ニ至リテ情ヲ存シ賑贍セシム。

## 田租ヲ免ズルノ詔（類聚國史八十三　延曆十八年六月）

惟王經ノ國、德政爲ル先。惟帝養ル民、嘉穀爲ル本。朕以ニ寡薄一忝承ニ洪基一、懼甚履ル氷、懍乎御ル朽。味旦丕顯、日昃聽ル朝、思ル弘ニ政治一冀ル宣ニ風化一。而時雍未ル洽、陰陽失ル和、去年不ル登、稼穡被ル害。眷ニ言其弊一、有ル憫ニ干懷一。宜ク敷ニ寛恩一答ニ彼咎祥一。其被ル損尤甚之處、美作、備前、備後、南海道諸國、肥前、豐後等十一國、去年田租、特全免ル之。

### 謹譯

惟レ王ノ國ヲ經スルハ、德政ヲ先ト爲ス。惟レ帝ノ民ヲ養フハ、嘉穀ヲ本ト爲ス。朕寡薄ヲ以テ、恭クモ洪基ヲ受ケ、懼ル、コト氷ヲ履ヨリ甚シク、懍乎トシテ朽ヲ御ス。昧旦ヨリ丕顯シ、日昃クマデ朝ヲ聽キ、政治ヲ弘メンコトヲ思ヒ、風化ヲ宣ブルヲ冀フ。而ルニ時雍コト未ダ洽カラズ、陰陽和ヲ失ヒ去年登ラズ、稼穡ノ害ヲ被ル。其ノ弊ヲ眷言シテ、懷ニ憫ムアリ。宜シク寛恩ヲ敷キ、彼ノ咎祥ニ答フベシ。其ノ損ヲ被ムルコト尤モ甚シキ所ノ、美作、備前、備後、南海道ノ諸國、肥前、豐後等ノ十一國ハ、去年ノ田租ヲ、特ニ之ヲ免ゼヨ。

○時雍―書經堯典に黎民於變時雍。とあるによる。即ち民やはらぎ平和を樂しむこと。○咎祥―災難の兆。

## 貧富均濟ノ勅（類聚國史八十四　延曆二十二年六月）

去年不ル登、民業絶乏。富贍之輩、唯有ニ餘儲一、糴則要以ニ貴價一、借則責ニ之大利一。因ル茲貧民彌貧、富家逾富、均濟之道、良不ル須ル然。宜ク遣ニ使大和國一、割ニ折有餘之貯一、假ニ貸不足之徒一、收納之時、先俾ル報ル之。若遭ニ凶年一、有ニ未納者一、賜以ニ正稅一、後徵ニ負人一。

### 謹譯

○富贍―ゆたかなること。○糴―糴は米を買ひ入れる方、糶は賣り出す方に用ひらる。

去年登ラズ、民業絶乏セリ。富贍ノ輩ノミ、唯餘儲アリテ、糶スレバ則チ要ムルニ貴價ヲ以テシ、借レバ則チ之ニ大利ヲ責ムル。茲ニ因テ貧民ハ彌貧シク、富家ハ逾富ム、均濟ノ道、良ニ然ルベカラズ。宜シク使ヲ大和ノ國ニ遣シテ、有餘ノ貯ヘヲ割折シ、不足ノ徒ニ假貸シ、收納ノ時、先ツ之ニ報イシムベシ。若シ凶年ニ遭ヒ、未納ノ者アラバ、賜フニ正稅ヲ以テシ、後チ負ヘル人ニ徵セヨ。

## 平城天皇

水難ニ遭ヘル窮民ヲ救助シ給フ詔　日本後紀十四　大同元年八月

朕以ニ眇眇一、嗣ニ奉丕基一、負ニ天下之重任一、當ニ海内之深責一、常以履レ氷疚レ懷。惟溝ニ軫慮一、勵レ精克レ己、計レ永ニ至治一、而誠未レ動レ天　卑聽罔レ照、陰陽僭レ度霖雨爲レ災。靜言ニ厥咎一、在ニ予一人一。或由ニ政道不レ洽一、仁風未レ靡。何用招ニ此漂損一、害及ニ黎元一。夫股肱之任、燮理斯存。公卿宜扶ニ輔朕躬一、匡ニ其不逮一。共除ニ妖祥一、庶答ニ靈心一。其百姓因レ水流ニ失資産一者、量加ニ支給一。所レ須事條、具レ狀奏聞。普告ニ遐邇一、知ニ朕意一焉。

○眇眇―前漢昭帝の詔に朕以ニ眇身一護ニ保宗廟一とあるに同じく天子の御謙遜の御辭なり。○軫慮―聖慮宸慮などと同義にして、天子の御懷を痛ませられることなり。○卑聽―悼聽　○聽聽等の反、即ち天子御政聽のことに就ての御謙遜の御辭なり。○燮理―周官燮ニ理陰陽一とあり。即ち和平に天下を治めること。

### 謹譯

朕眇眇ヲ以テ丕基ヲ嗣奉シテ、天下ノ重任ヲ負ヒ、海内ノ深責ニ當ル、常ニ以テ氷ヲ履ムガゴトク、懷ヲ疚マシム。惟軫慮ヲ溝ギ、精ヲ勵マシ、己ニ克チ、至治ヲ永クスルヲ計ル、而ルニ誠未ダ天ヲ動サズ卑聽照ヲ罔ヒ、陰陽度ヲ僭ヘ、霖雨災ヲ爲ス。靜ニ厥咎ヲ言ヘバ、予一人ニ在リ。或ハ政道洽カラズ、仁風未ダ靡カザルニ由ラン。何ヲ用ツテカ此ノ漂損ヲ招キ、害黎元ニ及ベル。夫レ股肱ノ任、燮理斯レ存ス。公卿宜シク　朕ガ躬ヲ扶輔シ、其ノ逮バザルヲ匡スベシ。共ニ妖祥ヲ除キ、庶ハクハ靈心ニ答ヘン。其百姓ノ水ニ因リテ資産ヲ流失シタル者ハ、量リテ支給ヲ加ヘヨ。須フル所ノ事條ハ、狀ヲ具シテ奏聞セヨ。普ク遐邇ニ告ゲテ、朕ガ意ヲ知シメヨ。

## 飢疫賑恤ノ詔

（日本後紀十七　大同二年五月）

朕以寡昧、虔嗣丕基、履薄如傷、黔首之隱是恤。馭奔若厲、紫宸之尊非寧。尅己思治、勵精施政。而仁無被物、誠未感天。自從君臨、咎徵斯應。頃者天下諸國、飢餒繁興、疫癘相尋、多致夭折。朕之不德、眚及黎元。撫事責躬、怒焉疚首。或恐政刑乖越、上爽靈心、漫汗煩苛、下胎人瘼。此皆朕之過也。兆庶何辜。靜言念之、無忘監寐。詩不云乎、民亦勞止、汔可小康。其畿内七道言上飢疫諸國者、今年之調、宜減免除。仍國司親巡鄉邑、醫藥營救、兼令國分二寺轉讀大乘一七箇日。左右京亦宜遣使普加賑贍。庶幾爲善有効、濟困窮於畝糧、脩德不虛、返遊魂於岱錄。務崇寬惠、副朕意焉。

○怒焉―詩經周南に怒如調飢―とあり即ち朝食も召しあがりたまはずして憂ひ給ふの意。○漫汗煩苛―はるかにひろくして煩雜でこまこまやかましいこと。○瘼―說文に病なりとあり

○賑贍―大に財的援助をせよの意。

### 謹譯

朕寡味ヲ以テ、虔シンデ丕基ヲ嗣ギ、薄ヲ履ミ傷ムガ如ク、黔首ノ隱ヲ是レ恤フ。奔ヲ馭シ厲キガ若ク、紫宸ノ尊モ寧キニ非ズ。己ニ尅チ治ヲ思ヒ、精ヲ勵マシテ政ヲ施ス。而ルニ仁、物ニ被ルコトナク、誠未ダ天ニ感ゼズ。君臨シテヨリ、咎徵斯レ應ズ。頃者天下ノ諸國、飢餒繁ク興リ、疫癘相尋ギ、多ク夭折ヲ致ス。朕ノ不德、眚黎元ニ及ベリ。事ヲ撫シ、躬ヲ責メ、怒焉トシテ首ヲ疚マシム。或ハ政刑乖越シテ、上、靈心ニ爽ヒ、漫汗煩苛ニシテ、下人瘼ヲ貽サンコトヲ恐ル。此レ皆朕ノ過ナリ。兆庶何ノ辜カアル。靜ニ言之ヲ念ヘバ、監寐ニ忘ルヽナシ。詩ニ云ハズヤ「民亦タ勞ス、汔ンド、小康ス可シト。」其ノ畿内七道ノ飢疫ヲ言上スル諸國ハ今年ノ調、宜シク咸ナ免除スベシ。仍テ、國司、親ラ鄉邑ヲ巡リテ醫藥營救シ、兼テ國分二寺ヲシテ大乘ヲ轉讀セシムルコト一七箇日。左右京、亦宜シク使ヲ遣シテ、普ク賑贍ヲ加フベシ、庶幾ハクハ、善ヲ爲シテ效アリ、困窮ヲ畝糧ニ濟ヒ、德ヲ修メテ虛シカラズ、遊魂ヲ岱錄ニ返サン。務メテ寬惠ヲ崇ビ、朕ガ意ニ副ヘヨ。

## 嵯峨天皇

### 小年魚ヲ捕フルコトヲ禁ジ給フ詔（類聚國史七十九　弘仁五年二月）

水陸之利、公私所ㇾ俱、捕ㇾ之不ㇾ時、物無ニ繁育一。如今百姓好捕ニ小年魚一、雖ニ所ㇾ獲多一、於ㇾ物無ㇾ用。宜下仰ニ山城、大和、河内、摂津、近江等諸國一、令ㇾ加ニ禁斷一。唯四月以後、不ㇾ在ニ禁限一。

**謹譯**

水陸ノ利ハ、公私倶ニスル所、之ヲ捕フル、時ナラザレバ、物繁育スルコト無シ。如今百姓好ンデ小年魚ヲ捕フ、獲ル所多シト雖モ、物ニ於テ用無シ。宜シク山城、大和、河内、摂津、近江等ノ諸國ニ仰セテ、禁斷ヲ加ヘシムベシ。唯四月以後ハ、禁ズル限リニ在ラズ。

### 興文隆學ノ勅（日本後紀　弘仁三年五月）

○大同之初―日本後紀大同元年六月の條下にある大學に入らしむるの勅を指す。

○拾芥磨玉の彥―彥は男子の美稱。即ち衆人に傑出せる士ノ意。○環林―文苑又は文壇の意に用ひられる。○翰林―同じ。○呑鳥雕蟲の髦―文章を彫琢する末。○霧集―雲合霧集と熟字して雲集と同義

經ㇾ國治ㇾ家莫ㇾ善ニ於文一、立ㇾ身揚ㇾ名莫ㇾ尚ニ於學一。是以大同之初、令下諸王及五位已上子孫十歳已上皆入ニ大學一、分ㇾ業教習上。庶使下拾芥磨玉之彥、霧ニ集於環林一。呑鳥雕蟲之髦、風中馳乎壁沼上。而朽木難ㇾ琢愚心不ㇾ移。徒積ニ多年一、未ㇾ成ニ一業一。自ㇾ今以後、宜下改ニ前勅一、任ニ其所ㇾ好稍合中物情上。

**謹譯**

國ヲ經メ家ヲ治ムルハ文ヨリ善キハナク、身ヲ立テ名ヲ揚グルハ學ヨリ尚キハナシ。是ヲ以テ大同ノ初、諸王及ビ五位已上ノ子孫十歳已上ハ皆大學ニ入ラシメ、業ヲ分チテ教習ス。庶クハ拾芥磨玉ノ彥、環林ニ霧集シ呑鳥雕蟲ノ髦壁沼ニ風馳セシメンコトヲ。而モ朽木琢シ難ク愚心移ラズ。徒ニ多年ヲ積ミテ未ダ一業ヲ成サズ。今ヨリ以後、宜シク前勅ヲ改メ其ノ好ム所ニ任セ稍物情ニ合スベシ。

○國宰―宰は治なり主なりとある如く、王を佐けて邦國を治むる國老のことなり

神祇ニ奉幣シテ嘉穀ヲ禱ラシメ給フ詔　（類聚國史十一　弘仁七年七月）

風雨不レ時田園被レ害、此則國宰不レ恭ニ祭祀一之所レ致也。今聞今茲青苗滋茂。宜下敬ニ神道一大致中豐稔上。庶俾ニ嘉穀盈レ畝黎元殷富一、宜下仰ニ畿内七道諸國一、其官長清慎齋戒、奉ニ幣名神一、禱レ止ニ風雨一莫下致ニ漏失一。

謹譯

風雨時ナラズ田園害ヲ被ル、此レ則チ國宰祭祀ヲ恭マザルノ致ス所ナリ。今聞ク、今茲青苗滋茂セリト。宜シク神道ヲ敬シ大ニ豐稔ヲ致スベシ。庶ハクハ嘉穀ヲシテ畝ニ盈チ黎元ヲシテ殷富ナラシメン。宜シク畿内七道ノ諸國ニ仰セ、其ノ官長清慎齋戒シテ、名神ニ奉幣シ、風雨ヲ止メンコトヲ禱リ漏失ヲ致スコト莫カラシムベシ。

## 淳和天皇

凶年ニ因リテ直言ヲ求メ且ツ朝賀ノ禮服着用ヲ停ムル詔　（類聚國史七十一　弘仁十四年十二月）

古之王者、受レ命膺レ籙、文質相變、損益不レ同。興レ風致レ治、垂ニ範彝訓一、通ニ之古今一、其揆一也。頃者陰陽錯謬、旱疫更侵、年穀不レ登、黎甿殘耗。朕運鐘ニ寶曆一、嗣奉ニ洪基一、永思ニ善政一、已忘ニ寢食一、昔卑宮創構、只爲ニ三等之階一、露臺將レ營、猶愛ニ十家之産一。興言遠想、載懷ニ景行一。夫濟レ世之道、不レ可レ守レ株、隨ニ時之宜一。豈合ニ膠柱一。今欲下要救ニ流俗一、勤恤中民隱上。公卿宜下各陳レ所レ思、以匡レ不レ逮、靡下有ニ隱諱一、其時世澆鑿、邦國顚瘁、禮服難レ辨、多闕ニ朝賀一、凶年之間、欲レ停ニ着用一。亦宜ニ議定奏一之。

○彝―尋常と同じ。

○膠柱―變化あるものを杓子定規に扱ふこと。○辟―隱くして云はぬこと。○澆鑿―輕薄で勿盡にして義理に合ねてふこともしないこと。○顚瘁―疲れ衰へてゐること。

## 謹譯

古ノ王者、命ヲ受ケ籙ニ膺リ、文質相變ジ、損益同ジカラズ。風ヲ興シ治ヲ致シ、範ヲ彝訓ニ垂ル。之ヲ古今ニ通ズルニ其ノ揆一ナリ。頃者、陰陽錯謬シ、旱疫更々侵シテ、年穀登ラズ、黎甿殘耗ス。朕運寶曆ニ鍾リ、嗣ギテ洪基ヲ奉ジ、永ク善政ヲ思ヒ、已ニ寢食ヲ忘ル、昔卑宮ノ創構ハ、只三等ノ階タリ、露臺將ニ營マントシテ、猶十家ノ產ヲ愛メリ。興言遠ク想ヒテ、載チ景行ヲ懷フ。夫レ世ヲ濟フノ道ハ株ヲ守ル可カラズ、時ノ宜シキニ隨フ。豈ニ膠柱スベケンヤ。今、頃ズ流俗ヲ救ヒ、勤メテ民ノ隱ヲ恤マント欲ス。公卿宜シク各々思フ所ヲ陳ベ、以テ逮バザルヲ匡シ、隱諱アルコトナカルベシ。其レ時世澆鑿、邦國ヲ顚瘁シテ、禮服辨ジ難ク、多ク朝賀ヲ闕ク、凶年ノ間着用ヲ停メント欲ス。亦宜シク議定シテ之ヲ奏セヨ。

## 震災賑恤ノ詔（類聚國史百七十二　天長七年四月）

朕以ニ菲昧一、祇膺ニ瑤圖一、夤畏三靈一、憂ニ勤四海一、景化未ニ孚一。皇猷尙鬱、咎徵之嘖、不レ招而臻。如レ聞、出羽國、地震爲レ災、山河致レ變、城宇頹毀、人物損傷、百姓无レ辜、奄遭ニ非命一。誠以ニ政道有レ虧一、降ニ斯靈譴一。朕之寡德、慙ニ乎天下一。靜念ニ厥咎一、甚倍ニ納隍一。夫漢朝山崩、據レ修レ德以禳レ災、周郊地震、感ニ善言一而弭レ患。然則尅レ己濟レ民之道、何能不レ師レ古哉。所レ以特降ニ使臣一。就加存撫。其百姓居業、震陷者使等、與ニ所在官吏一議量、脫ニ當年租調一、並不レ論ニ民夷一、開ニ倉廩一賑、助ニ修居宇一、勿レ使レ失レ職、壓亡之倫、早從ニ葬埋一。務施ニ寬恩一、式稱ニ朕意一。

○膺ニ瑤圖一―美しい國土を受け。○三靈―日、月、星。○皇猷―天皇の道。

## 謹譯

朕菲昧ヲ以テ祇ミテ瑤圖ニ膺リ、三靈ヲ夤ミ畏レ、四海ヲ憂勤スレドモ、景化未ダ孚ナラズ。皇猷尙鬱タリ、咎徵ノ嘖、招カズシテ臻ル。如聞、出羽國地震ヒテ、災ヲ爲シ、山河變ヲ致シ、城宇頹毀シ、人物損傷シ、百姓辜ナク

シテ、奄チ非命ニ遭フト。誠ニ政道虧クルコトアルヲ以テ、斯ノ靈譴ヲ降セリ。朕ノ寡德ナル天下ニ慙ヅ。靜ニ厥ノ咎ヲ念ヘバ、甚ダ納隍ヲ倍ス。夫レ漢朝山崩レシトキ、德ヲ修ムルニ據リテ以テ災ヲ禳ヒ、周郊地震ヒシトキ善言ニ感ジテ患ヲ弭メタリ。然ラバ則チ、己ニ尅チ民ヲ濟クフノ道、何ゾ能ク古ヲ師トセザランヤ。特ニ使臣ヲ降シテ、就キテ存撫ヲ加フル所以ナリ。其ノ百姓ノ居業震陷セシモノハ、使等、所在ノ官吏ト議シ量リテ、當年ノ租調ヲ脫セヨ。並ニ民夷ヲ論セズ、倉廩ヲ開キテ、賑ハシ、居宇ヲ助修シテ、職ヲ失ハシムル勿レ、壓亡ノ倫ハ、早ク葬埋ニ從ヘ、務メテ寬恩ヲ施シ、式テ朕ガ意ニ稱ヘヨ。

## 仁明天皇

### 借稻ヲ返給セシムル勅

（續日本後紀一　天長十年五月）

夫富豪所レ貯、是貧窶之資也。如聞、先來所レ行、吏非二其人一、只事二借用一、無レ意二返給一。如レ斯所二以貧富俱弊一。周レ急憐絕、宜二至二秋收一、特遣二使者一、悉令二返給一。

謹譯

夫レ富豪ノ貯フル所ハ、是レ貧窶ノ資ナリ。如聞、先來行フ所、吏其ノ人ニ非ズ、只借用ヲ事トシテ、返給ニ意ナシ。斯ノ如キハ貧富俱ニ弊ル、所以ナリ急ヲ周ヒ絕ヲ憐ミ、宜シク秋收ニ至リ、特ニ使者ヲ遣シテ、悉ク返給セシムベシ。

### 農耕ヲ勸ムルノ勅

（續日本後紀九　承和七年二月）

國家隆泰、要在レ富レ民。倉廩充實、良由レ有レ年。故耕耘時、必致二京坻之蓄一。稼穡候還、招二飢饉之憂一。農之爲レ道、豈不レ勗歟。去年災旱作レ灾、嘉穀凋萎、百姓阻レ飢、國用闕乏。雖二災異之臻一、則是天道一、而庶民之愚、恐有二倦惰一。方今靑陽入レ序、俶載二南畝一。勸課之事、適在二此

時。宜告五畿内諸國、戒以農事、隨時催勤、莫致懈怠。

○京垣之蕃―うづたかく積まれる形容。

○青陽―春の異名。

謹譯

國家ノ隆泰ハ、要民ヲ富スニ在リ。倉廩ノ充實ハ、良ニ年アルニ由ル。故ニ耕耘時ナレバ、必ズ京垣ノ蕃ニ致シ、稼穡候還ツテ飢饉ノ憂ヲ招ク。農ノ道タル、豈ニ勗メザランヤ。去年災旱災ヲ作シ、嘉穀凋委シテ百姓飢ニ阻ミ國用闕乏セリ。災異ノ臻ルハ、則チ是レ天道ナリト雖モ、而モ庶民ノ愚、恐ラクハ倦惰アラン。方今青陽序ニ入リ、假メテ南畝ニ載アリ。勸課ノ事、適ニ此ノ時ニ在リ。宜シク五畿内諸國ニ告ゲ、戒シムルニ農業ヲ以テシ、時ニ隨ヒテ催勤シ、懈怠ヲ致スコトナカラシムベシ。

## 敬神愛民ノ詔

（續日本後紀九承和七年四月）

敬神如在、視民如子、國宰能事、古今通規。是以、屢施條章、觀彼治道。而吏乖公平、民苦疾疫、年穀不登、飢饉荐臻。論之政迹、理合懲肅。失事天之則、懈治人之情也。宜更下知五畿内七道諸國、改既往之怠、成方來之勤、巡行諸部、修造神社。禰宜祝等、若有怠者、解却決罰。

○成方來之勤―爾後は勤めはげむで。

謹譯

神ヲ敬フコト在スガ如クシ、民ヲ視ルコト子ノ如キハ、國宰ノ能事、古今ノ通規ナリ。是ヲ以テ、屢々條章ヲ施キテ、彼ノ治道ヲ觀セリ。而ルニ吏公平ニ乖キ、民疾疫ニ苦シミ、年穀登ラズシテ、飢饉荐ニ臻ル。之ガ政迹ヲ論ズレバ、理マサニ懲肅スベシ。天ニ事フルノ則ヲ失ヒ、人ヲ治ムルノ情ヲ懈レバナリ。宜シク更ニ五畿内七道諸國ニ下知シテ、既往ノ怠ヲ改メテ、方來ノ勤ヲ成シ、所部ヲ巡行シ、神社ヲ修造セシムベシ。禰宜祝等、若シ怠ル者アラバ、解却決罰セヨ。

## 文德天皇

### 水災ヲ賑恤スルノ詔（文德實錄三　仁壽元年八月）

朕聞、佐二下民一者天也、相二上帝一者君也。君道得、則天賜二純嘏一民心苦、則國式挺レ災。朕以二寡昧一、嗣守二鴻基一、憂二負レ重而春氷一、顧二馭レ朽以秋駕一。只願返二淳源於既遠一、舒二景煦於方今一、家詠二京坻之豐一、人誇二鐘鼓之聲一。而誠難二感徹一、道謝二潛通一、行神失レ和、坎德爲レ沴。去夏人民或坐爲レ魚、今秋廬宅乍成二涌川一。朕之不德、百姓何辜、憂心悠々、將何以寄。其使二左右京及五畿內一、無二出一今年調一。被レ災尤甚、不レ能二自存一者、有司量加二賑恤一、俾二安一其居務一、班二恩惠一。稱二朕意一焉。

謹譯

朕聞ク、下民ヲ佐クル者ハ天ナリ、上帝ヲ相クル者ハ君ナリ、君道得レバ、則チ天純嘏ヲ賜ヒ、民心苦メバ、則チ國式ツテ災ヲ挺ク。朕寡昧ヲ以テ、嗣ギテ鴻基ヲ守リ、重キヲ負ウテ春氷ヲ憂ヘ、朽ヲ馭シテ以テ秋駕ヲ顧ミル。只願クハ淳源ヲ既ニ遠キニ返シ、景煦ヲ方今ニ舒ベ、家ゴトニ京坻ノ豐ナルヲ詠ヒ、人ゴトニ鐘鼓ノ聲ニ誇ランコトヲ。而ニ誠感徹シ難ク、道潛通ヲ謝シ、行神和ヲ失ヒ、坎德沴ヲナス。去夏人民、或ハ坐シテ魚ト爲リ、今秋廬宅乍チ涌川ト成レリ。朕ノ不德、百姓何ノ辜カアル。憂心悠々トシテ、將タ何ニ以テ寄セン。其レ左右京及五畿內ヲシテ、今年ノ調ヲ出スコト無ラシメヨ。災ヲ被ルコト尤モ甚シク、自存シ能ハザル者ハ、有司量テ賑恤ヲ加ヘ、其居務ニ安ジ、恩惠ヲ班チ、朕ガ意ヲ稱セシメヨ。

### 疾病ノ流行ヲ憂念シ給フ詔（文德實錄五　仁壽三年四月）

皇王建レ極布レ政、貴二其順一時。聖哲凝レ規宣レ風、欲二其應一節。故能裁二成庶物一、覆燾之德克隆、光二宅八埏一、全濟之功斯遠。朕以二寡德一、忝

○景煦を云々―現時に大なる恩を開くこと。
○坎德沴をなす―不德がわざはひをして
○廬宅―粗屋

統ニ鴻基一、旰日勿レ休、乙夜忘レ寢。非レ貪ニ四海之富一、非レ念ニ九重之尊一、只欲レ導ニ仁壽一以寘ニ群生一、息ニ勞役一以安ニ萬姓一。而誠款未レ申、咎徵斯應、皰瘡之疫流行、札瘥之嗟競起、當ニ春夏陽和之時一、草木皆有ニ以芽一。而吾百姓、愁病之人、或阽ニ於死亡一、朕之不德、撫育乖レ方、憂惕之誠、罔レ知レ攸レ濟。

○覆燾之德―つまびらかに昭すの德。○八埏―くにのかぎり。○旰日―旰は日と同じで、且朝早くからの意。○乙夜―午後十時で、夜遲くまでの意。○誠款―まこと。○札瘥之嗟―札は大疫で死ぬこと。瘥は小疫で死ぬこと。

## 謹譯

皇王極ヲ建テ政ヲ布ク、其ノ時ニ順フヲ貴ブ。聖哲規ヲ凝シ、風ヲ宣ブ、其ノ節ニ應ゼンコトヲ欲ス。故ニ、能ク庶物ヲ裁成シテ、覆燾ノ德克ク隆ニ、八埏ニ光宅シテ、全濟ノ功斯ニ遠シ。朕寡德ヲ以テ、忝ク鴻基ヲ統ベ、旰日休ムコトナク、乙夜寢ヌルコトヲ忘ル。四海ノ富ヲ貪ルニ非ズ、九重ノ尊キヲ念フニ非ズ、只仁壽ニ導キテ、以テ群生ヲ寘キ、勞役ヲ休メテ、以テ萬姓ヲ安ンゼンコトヲ欲ス。而ルニ誠款未ダ申ベズ、咎徵斯レ應ジ、皰瘡ノ疫流行シ、札瘥ノ嗟競ヒ起ル、春夏陽和ノ時ニ當リ、草木皆以テ芽グムアリ。而ルニ吾ガ百姓愁病ノ人、或ハ死亡ニ阽ツ、朕ガ不德撫育方ニ乖キ、憂惕ノ誠濟ス所ヲ知ルコトナシ。

## 清和天皇

### 御註孝經ヲ行フノ詔（三代實錄四 貞觀二年十月）

哲王之訓、以レ孝爲レ基。夫子之言、窮レ性盡レ理。即知、一卷孝經、十八篇章、六籍之根源、百王之模範也。然此間學令、孔鄭二註爲ニ教授正業一、厥其學徒相沿、盛行ニ於世一者、安國之註、劉炫之義也。今案、大唐玄宗開元十年、撰ニ御註孝經一、作ニ新疏三卷一、以爲ニ世傳一。鄭註比ニ其所一註錄、義理專非。又稽ニ之鄭志一、康成不レ註ニ孝經一、安國之本、梁亂而亡。今之所レ傳、出レ自ニ劉炫一、事義紛薈、誦習尤艱、靡レ厭ニ衆止一、更招ニ疑義一。故玄宗廣酌ニ儒流一、深廻ニ睿想一、爲ニ之訓註一、冀闡ニ微言一、即

勅學士儒官、僉議可否。於是、當時有識、碩德名儒、咸集廟堂、恭尋聖義、妙理甚深、常情難測、同共嗟服、伏請頒傳。侍中安陽縣乾曜等奏曰、天文昭爛、洞合幽微。望即施行、佇光來葉。制曰可。然則孔鄭之註、並廢於時、御註之經、獨行於世。而唯傳彼註、未讀件經、假之通論、未爲允愜、鄭孔二註、即謂非眞、御註一本、理當遵行。宜自今以後、立於學官、教授此經、以充試業。庶革前儒必固之失、遵先王至尊之源。但去聖久遠、學不厭博、若猶敦孔註、有心講誦、兼聽試用、莫令失望。

○六籍―經書、易經、書經、詩經、禮記、春秋、樂記を云ふ。

## 謹譯

哲王ノ訓ハ、孝ヲ以テ基ト爲ス。夫子ノ言ハ、性ヲ窮メ理ヲ盡ス。即チ知ル一卷ノ孝經、十八ノ篇章ハ、六籍ノ根源、百王ノ模範ナリ。然ルニ此ノ間、學令、孔鄭二註ヲ教授ノ正業ト爲セバ厭ノ學徒相沿ヒ、盛ンニ世ニ行ハル、モノハ、安國ノ註、劉炫ノ義ナリ。今案ズルニ、大唐玄宗ノ開元十年御註孝經ヲ撰ビ、新疏三卷ヲ作リ、以テ世ニ傳フルコトヲ爲セリ。鄭註ハ其ノ註錄スル所ニ比スレバ、義理專ラ非ナリ。又タ之ヲ鄭志ニ稽フルニ、康成ハ孝經ニ註セズ、安國ノ本ハ梁ノ亂ニシテ亡ビタリ。今ノ傳フル所ハ、劉炫ヨリ出デ、事義紛糅シテ、誦習尤モ艱ミ、衆心ヲ厭カシムルコト靡ク、更ニ疑義ヲ招ク。故ニ玄宗廣ク儒流ヲ酌ミ、深ク睿想ヲ廻ラシ、之ガ訓註ヲ爲リ、冀ハクハ微言ヲ闡カント、即チ學士儒官ニ勅シ、可否ヲ僉議セシム。是ニ於テ、當時ノ有識、碩德名儒、咸ナ廟堂ニ集マリ、恭シク聖義ヲ尋ヌルニ、妙理甚ダ深ク、常情測リ難シ、同ク共ニ嗟服シテ頌傳ヲ伏請ス。侍中安陽縣乾曜等奏シテ曰ク、天文昭爛、幽微ニ洞合ス、望ムラクハ即チ施行シテ、光ヲ來葉ニ佇タント。制シテ曰ク可ナリト。然レバ則チ孔鄭ノ註並ビニ時ニ廢レ、御註ノ經、獨リ世ニ行ハル。而ルニ唯ダ彼ノ註ヲ傳ヘ、未ダ件ノ經ヲ讀マズ、之ヲ通論ニ假ルニ、未ダ允ニ愜ナリト爲サズ。鄭孔ノ二註ハ、即チ謂ヘラク眞ニ非ズ、御註ノ一本ハ理當ニ遵行スベシ。宜シク今ヨリ以後、學官ヲ立テ、

○安國之註―漢の孔安國之撰、宋本、古文孝經一卷を指してゐる。○孔鄭二註―孔安國と鄭康成の註を指してゐる。東漢の人で、康成は此の他に毛詩箋、周禮、禮記等の註がある。

○劉炫之義―隋の劉炫の河間の人のした解釋のこと。○衆心―衆心止―大學と同じ。於止善の在止も同じ。

此經ヲ教授シ、以テ試業ニ充ツベシ。庶ハクハ前儒必固ノ失ヲ革メ、先王至要ノ源ニ遵ハン。但ダ聖ヲ去ル久遠學博ヲ厭ハズ、若シ猶ホ孔註ニ敦ク、講誦ニ心アラバ、兼テ試用ヲ聽シ、望ヲ失ハシムルコト莫レ。

## 經用缺乏ニ因リテ言ヲ求ムルノ詔（三代實錄六 貞觀四年四月）

朕聞、自レ古聖明之君、以二堯舜一爲レ稱レ首。然猶諫鼓謗木、設二之於朝一、又俾二太禹皐陶盡其謨訓一。蓋以萬機之盛、非二廣詢一難二以興レ功、四海之尊、非二下問一無二以成レ化也。朕以二童丱一、嗣二守鴻基一。器謝二徇齊一、業慙二迪哲一。實賴二賢輔之保佐一、將二以拱レ己而仰レ成。然運接二百代之叔末一、時遇二萬邦之凋殘一。即位以還、五二年于茲一。徒聞、府帑空竭、經用不レ支。貢賦逋懸、吏人嗟レ毒。未レ得二所一以救レ之要術一。昔神農氏世衰、天下倒懸。黃帝代以脩レ德、即隆二垂衣之化一。殷暴辛政亂、百姓塗炭。周興成康之時、至二刑厝而不レ用。是以古不二常淳一、今不二常薄一。唯在二君臣善惡、政教得失一而已、若能群臣大小、勠レ力傾レ心、務求二政美一、匡二拂朝家一、訓二導黎庶一、則國富刑清。時和歲阜、醨變爲レ樸、僞反爲レ眞。即東戸季子之代。遂何遠之有矣。宜二參議已上各論一時政之是非一、詳二世俗之得失一、傷レ化害レ人不レ便二於時一者、節レ用謹レ度、當レ利二於國一者、並盡二昌言一、以沃二朕心一。勿レ爲二華飾一、勿レ有二隱諱一。

○太禹皐陶―支那古代の夏商時代の名帝。○謨訓―おしへ。○童丱―丱は幼童。あげまき。童と同じ。○徇齊―徇齊機敏であること。○叔末―澆季のこと。○府帑―官廳の財政。○逋懸―課稅が負目になつてゐること。

### 謹譯

朕聞ク、古ヨリ聖明ノ君ハ、堯舜ヲ以テ稱首トナス。然レドモ猶、諫鼓謗木、之ヲ朝ニ設ケ、又大禹皐陶ヲシテ、其ノ謨訓ヲ盡サシム。蓋シ以ラク、萬機ノ盛ナルモ、廣ク詢フニ非ザレバ以テ功ヲ興シ難シ、四海ノ尊キモ下問ニアラザレバ以テ化ヲ成スコト無キナリト。朕童丱ヲ以テ鴻基ヲ嗣守ス。器ハ徇齊ニ謝シ、業ハ迪哲ニ慙ヅ。實ニ賢輔ノ保佐ニ賴リ、將ニ以テ己ヲ拱シテ成ヲ仰ガントス。然ルニ、運ハ百代ノ叔末ニ接シ、時ハ萬邦ノ凋殘ニ遇フ。即位以還、茲ニ五年。徒ラニ聞ク、府帑空シク竭キテ、經用支ヘズ。貢賦逋懸

○嗟毒―なげきくるしむ。

シテ、吏人嗟毒スト。未ダ之ヲ救フ所以ノ要術ヲ得ズ。昔、神農氏ノ世衰ヘテ、天下倒懸ス。黄帝代ツテ以テ徳ヲ脩メ、卽チ垂衣ノ化ヲ隆ニス。殷ノ暴辛政亂レテ、百姓塗炭ス。周興リテ成康ノ時、刑厝キテ用ヒザルニ至ル。是ヲ以テ古モ常ニ淳ナラズ、今モ常ニ薄ナラズ。唯ダ君臣ノ善惡、政教ノ得失ニ在ルノミ。若シ能ク群臣大小、力ヲ勠セ心ヲ傾ケ、務メテ政ノ美ヲ求メ、朝家ヲ匡拂シ、黎庶ヲ訓導セバ、則チ國富ミ刑清シ。時和シ歲阜ニシテ、醻モ變ジテ樸トナリ、僞モ反ツテ眞トナラン。卽チ東戸季子ノ代、遂ニ何ノ遠キコトカ之レ有ラン。宜シク參議已上、各々時政ノ是非ヲ論ジ、世俗ノ得失ヲ詳ニシ、化ヲ傷リ人ヲ害シ、時ニ便ナラザル者、用ヲ節シ度ヲ謹ミ、當ニ國ヲ利スベキモノハ、並ニ昌言ヲ盡シ、以テ朕ガ心ニ沃グベシ。華飾ヲナスコト勿レ、隱諱アルコト勿レ。

## 服御常膳ヲ減ジテ庶民ヲ賑恤シ給フ勅

（代實錄十六　貞觀十一年六月）

朕聞。上天不レ能ニ獨理一、故立レ君以司レ物。君道無レ忒則玉燭均調。時政失レ宜、則陰陽乖隔。遠稽ニ帝典一、遙計ニ皇猷一、重レ規疊レ矩、未レ有ニ違レ之者一。朕以ニ菲虚一、嗣ニ守鴻業一。德慙ニ垂露一、勤切ニ宵衣一。常願令レ世同ニ於東戸一、堯犬得レ吐ニ菽粟一。而今旱雲涉レ旬、農民失レ望。班レ幣以遍ニ群神一、屈レ僧以祈ニ三寶一。雖レ然冥感未レ通、嘉應難レ至。朕之不德、百姓何辜。責レ躬寅畏、未レ知レ攸レ濟。其朕服御、常膳等物、並宜ニ減撤一。左右馬寮秣穀、一切權絕。令下左右京職、收ニ葬道墣一、掩レ骼埋レ胔。又恐固犴之中、如有ニ寃結一。宜遣ニ使者一、勤加申理。天安二年以往、調庸米未進在ニ民身一者、皆從ニ蠲除一。方冀精誠感應、遍ニ鴻霈於崇朝一、穀稼豐登、欣ニ京坻於急景一。布ニ告遐邇一、俾レ知ニ朕意一。

○玉燭均調―氣候が相調ふこと。
○皇猷―天皇の道。
○三寶―佛の意。佛法僧を

### 謹譯

朕聞ク。上天獨リ理ムルコト能ハズ、故ニ君ヲ立テ、以テ物ヲ司ラシム。君道忒フコト無ケレバ、則チ玉燭均シク調ヒ、時政宜シキヲ失ヘバ、則チ陰陽

○三寶と云ふ。○菲虚―菲薄と同じ。○東戸―人名か。○彘犬―豚や犬。○宵衣―朝早く。○吐菽―菽粟を吐くこと。○櫛絶―櫛の輕重を計つて止めること。○殍―飢死。○狂―狂の中―牢屋の中。○加理―理にをゆる。○意味―意味やかに。○除鋤―除鋤も。○免―免れやく。○鴻霈―鴻霈の意。○崇朝―崇朝から朝食頃まで。○曉―曉の意。○景―景洲。○坻―坻小高き場。○欣―欣皇所。○於―於急。○をさす―をさす。

乖キ隔タルト。遠ク帝典ヲ稽ヘ、遙ニ皇猷ヲ計ルニ、規ヲ重ネ矩ヲ疊ネ、未ダ之ニ違フモノ有ラズ。朕菲虚ヲ以テ、鴻業ヲ嗣守ス。德垂露ニ慙デ、勤宵衣ニ切ナリ。常ニ願フ、世ヲシテ東戸ト同ジクシ、彘犬ヲシテ菽粟ヲ吐クヲ得シメント。而ルニ今旱雲旬ニ渉リ、農民望ヲ失フ。幣ヲ班チ以テ群神ニ遍クシ、僧ヲ屈シテ以テ三寶ニ祈ル。然リト雖モ冥感未ダ通ゼズ、嘉應至リ難シ。朕ノ不德、百姓何ノ辜カアル。躬ヲ責メテ寅ミ畏レ、未タ濟ス攸ヲ知ラズ。其レ朕ガ服御、常膳等ノ物、並ニ宜シク撤スベシ。左右馬寮ノ秣穀、一切權絶セヨ。左右京職ヲシテ道殣ヲ收メ葬リ、骼ヲ掩ヒ胔ヲ埋メシメヨ。又恐ラクハ圄犴之中、如クハ寃結アラン。宜シク使者ヲ遣ハシ勤メテ申理ヲ加フベシ。天安二年以往、調庸米未進ノ民ノ身ニ在ル者ハ、皆蠲除ニ從ヘ。冀ハクバ精誠感應シテ、鴻霈ヲ崇朝ニ遍クシ、穀稼豐ニ登リテ京坻ヲ急景ニ欣バシメンコトヲ。遐邇ニ布告シテ、朕ガ意ヲ知ラシメヨ。

## 朝臣ノ姓ヲ皇子ニ賜ヒテ源氏トナスノ勅

（三代實錄二十三　貞觀十五年四月）

朕以ニ涼德一、辱ニ此守文一。待レ化未レ孚ニ於豚魚一、用レ心徒形ニ於拮据一。唯深ニ蒼生爲レ子之德一、不レ慊ニ蠡斯則一百之福一。而今心事固養、男女繁昌。當ニ分ニ茅土之重一、多致ニ帑藏之費一。寤寐頻愁、心魂罔レ措、若ニ涉ニ洪水一、而無ニ舟檝一。但弘仁以降、載ニ代代遺蹤一、或作ニ親王一、或爲ニ朝臣一。尤是損レ上益レ下之大義、屈レ躬利レ物之通規。朕之不德、仰慚ニ前良一。因願ニ頗變ニ舊章一、惣爲ニ源氏一。然而事當レ師レ古、義貴レ宜レ今、故其不レ獲レ已者、擇レ之以爲ニ親王一。唯須ニ其後一世、早停ニ王號一、即賜ニ朝臣一。以節ニ國家之輕用一、頗加ニ公謙之篤情一。又其號ニ親王一者、同母後產、並同畫一、尸鳩之深惠、欲レ一ニ恩施一。司牧之至公、猶從ニ義割一。但冀枝分ニ若木一、高下共レ春、派出ニ天潢一、淺深同潤。普告ニ遐邇一、令レ知ニ朕意一。

○涼德―涼は薄と同じで德の薄いこと。

### 謹譯

朕涼德ヲ以テ、此ノ守文ヲ辱ウス。化ヲ待ツコト未ダ豚魚ニ孚ナラズ、心ヲ

用フルコト徒ニ拮据ニ形ル。唯蒼生ヲ子ト爲スノ德ヲ深クシテ、蠡斯百ニ則トルノ福ニ慊ラズ。而レドモ今心事固養、男女繁昌セリ。當ニ茅土ノ重ヲ分ツテ、多ク帑藏ノ費ヲ致スベシ。寤寐頻リニ愁ヘ、心魂措クナク、洪水ヲ涉ルニ舟檝ナキガ若シ。但シ弘仁以降、代々ノ遺蹤ヲ載スルニ或ハ親王ト作シ或ハ朝臣ト爲ス。尤モ是レ上ヲ損シテ下ヲ益スルノ義、躬ラ屈シ物ヲ利スルノ通規ナリ。朕ノ不德仰イデ前良ニ愧ヅ。因ツテ頗ル舊章ヲ變ジ、總テ源氏ト爲スヲ願フ。然リ而シテ事ハ當ニ古ヲ師トスベク、義ハ今ニ宜シキヲ貴ブ、故ニ其ノ已ムヲエザル者ハ之ヲ擇ンデ以テ親王ト爲ス。唯須ク其ノ後ノ一世ハ、早ク王號ヲ停メテ、卽チ朝臣ヲ賜フベシ。以テ國家ノ輕用ヲ節シ、頗ル公謙ノ篤情ヲ加ヘン。又其ノ親王ト號スル者ハ、同母後產、並ニ同ジク畫一ニス、尸鳩ノ深惠、恩施ヲ一ニスルヲ欲ス。司牧ノ至公ハ猶ホ義割ニ從フ。但枝ハ若木ヲ分チ、高下春ヲ共ニシ、派天潢ニ出デ、淺深同ジク潤フヲ冀フ。普ク遐邇ニ告ゲテ、朕ガ意ヲ知ラシメヨ。

○守文―國家太平で先帝の文治守つて位にゞじてゐること。
○未だ豚魚云々―物の感じが鈍い、魚や豚に迄信が及ばない。
○拮据―はたらくこと。
○蠡斯云々―一回に九十九子を生むことを指して云ふ。
○司牧―地方の長官。
○至公―きはめて公平なる。
○潢―天の星

# 光孝天皇

## 服御ヲ省減シ給フ勅（三代實錄四十七 仁和元年四月）

朕以ニ眇身一、猥承ニ鴻緒一、膺ニ登用之業一、有レ若レ馭レ奔。受ニ光啓之符一、无レ忘レ履レ薄。朕綜ニ覈前王一、搜ニ羅曩制一、唯思下宵衣是遵、旰食是勉上、躬行ニ慈儉一、人臻ニ富庶一。而運承ニ澆季一、風頹俗弊、帑藏虛耗、經用殷繁、鄉士、群吏、受ニ祿料一者既衆、親王、源氏、預ニ時服一者亦多。計會征入、未レ供ニ其費一、商ニ折見用一、殆過ニ其制一。夫域中大寶、天下至公。克レ己惕レ懷、未レ知レ攸レ濟。豈有下百官闕ニ其祿賜一、而一人保ニ其羨溢一者上乎。宜下朕之服御絹綿二色、暫從ニ省減一、並依舊例。庶權ニ損上之誠一、用存ニ經邦之化一。布ニ告遐邇一、俾レ知ニ朕意一。

謹譯

光孝天皇

○光啓之符―前王の立派な御偉蹟を受けての意。
○綜覈―前王のなされた蹟を色々しらべての意。
○時服に預る―その時その時の服を貰ふ者
○計會征入―征は税を云ふ。入は納むること。税のあがると高だけでは
の意。

朕眇タル身ヲ以テ、猥ニ鴻緒ヲ承ケ、登用ノ業ニ膺ル、奔ル(あたし)ヲ馭スルガ如キコトアリ。光啓ノ符ヲ受ケテ、薄キヲ履ムヲ忘ルヽコト旡シ。朕前王ヲ綜覈(そうかく)シ、曩制ヲ捜羅(そうら)シテ、唯宵衣是レ遵ヒ、旰食是レ勉メ、躬慈儉ヲ行ヒ、人富庶ニ臻ルヲ思フ。而ルニ渾澆(げんぎょう)季ヲ承ケ、風頽レ俗弊(つひ)エ、帑藏虚耗シ、經用殷繁ニ、卿士、群吏祿料ヲ受クルモノ既ニ衆(おほ)ク、親王源氏、時服ニ預ルモノ亦タ多シ。計會征入(けいくわいせいにふ)未ダ其費ニ供セズ、見用ヲ商折スルニ、殆ンド其制ニ過グ夫レ域中ハ大寶ニシテ、天下ハ至公ナリ、己ニ克チ懷ニ惕レ、未ダ濟ス攸(ところ)ヲ知ラズ。豈ニ百官其祿賜ヲ闕キテ、而シテ一人其羨溢(せんいつ)ヲ保ツモノアランヤ。宜シク朕ノ服御絹綿二色ハ、暫ク省減ニ從ヒ、並ニ舊例ニ依ルベシ。庶クハ損上ノ誠ヲ權シ、用テ經邦ノ化ヲ存セン。遐邇ニ布告シテ、朕ガ意ヲ知ラシメヨ。

## 群臣封祿ヲ省約センコトヲ請ヘルニ報ズルノ勅

（三代實錄四十七　仁和元年六月）

公卿去月八日論奏。以爲。節有陰陽。時無水旱。減撤服御事非舊章。雖非舊章。下以從上。群臣封祿。宜暫折留。嗟乎。正朔修環。朕新按馳騖之轡。車倉懸磬朕已執璽舂之權。彼焦思之傷也。熱於爛石千里。沉憂之爲苦也。深於懷山九年。此而愁。亦復何事。至于天吏修良。地融齊整。皆是諸大夫之燮理。非予一人之施爲。何故割祿俸。賜於有功。彌重朕過。補不足於旡德。更失人心者乎。卿等能保微祿之叉手。朕獨將安菲衣之裹身。今之所請。拒而不聽。

○馳騖―馳せまわること。

謹　譯

公卿去月八日論奏ス。以爲(おもへらく)ク。節陰陽有レバ、時水旱無シ。服御ヲ減撤スルハ、事舊章ニ非ズ。舊章ニ非ズト雖モ、下以テ上ニ從フ。群臣ノ封祿ハ、宜ク暫ク折留スベシト。嗟乎、正朔環ヲ修シテ、朕新ニ馳騖(ちぶ)ノ轡ヲ按ズ。車倉懸磬シテ、朕已ニ璽舂ノ權ヲ執ル。彼ノ思ヲ焦スノ傷ヲ爲スヤ、千里ニ爛石

スルヨリモ熱シ。憂ニ沈ノ苦ヲ爲スヤ、九年ニ懷山スルヨリモ深シ。此ニシテ而シテ愁ヘズンバ、亦復タ何事ゾ。天吏良ヲ修シ、地融齊整スルニ至ル。皆是諸大夫ノ燮理。都テ予一人ノ施爲ニ非ズ。何故祿俸ヲ割キテ、有功ニ賜ヒ彌々朕ガ過ヲ重ネ、不足ヲ無德ニ補ヒ、更ニ人心ヲ失セン乎。卿等能ク微祿ノ叉手ヲ保セヨ。朕獨リ將ニ菲衣ノ裏身ニ安ンゼントス。今ノ請フ所、拒デ而シテ聽サズ。

○燮理―やはらぐ。

## 宇多天皇

### 服御ヲ減ジ年料ヲ省クノ勅（本朝文粹 寛平八年十月）

朕去仁和五年二月二十日、服御常膳、務從省約。所司准舊、四分減一服。心不兼心、慮無再慮。願擧塵露之積、將成禮節之和。豈圖水旱兵疫、年頻有災。諸國自闕調庸、百官隨無俸祿。不怨天不尤人、不嫌鬼不責神。朕之無道、獨自取之。今重減服御三分之一、新省年雜物之半。其餘用度、中分以折。百姓單寒、朕不忍見。既無謀於富國。唯合體於貧民。而已。布告內外、知朕意焉。主者施行。

○服御常膳―膳服と同じ。御は凡て天子に進奉すること。
○所司―役人のこと。
○心心をかねず云々。―自分に氣兼したり、考へ直したりしないで。
○禮節之和―ひたすらに。禮節がとゝのふこと。
○單寒―運命の單薄なること。

謹譯

朕去ル仁和五年二月二十日、服御常膳、務メテ省約ニ從ヘリ。所司舊ニ准ジテ、四分トシテ一服ヲ減ゼリ。心心ヲ兼ネズ、慮再慮無シ。願クハ塵露ノ積ヲ擧ゲテ、將ニ禮節ノ和ヲ成サントス。豈ニ圖ランヤ、水旱兵疫、年頻リニ災アリ。諸國自ラ調庸ヲ闕キ、百官隨ツテ俸祿ナシ。天ヲモ怨ミズ、人ヲ尤メズ、鬼ヲ嫌ハズ、神ヲ責メズ。朕ガ無道獨リ自ラ之ヲ取ルノミ。今重ネテ服御ノ三分ノ一ヲ減ジ、新ニ年ノ雜物ノ半ヲ省ク。其ノ餘ノ用度ハ、中分シテ以テ折ス。百姓ノ單寒、朕見ルニ忍ビズ。既ニ國ヲ富マスニ謀ナシ。唯ダ貧民ニ合體スルノミ。內外ニ布告シテ、朕ガ意ヲ知ラシム。主者施行セヨ。

## 醍醐天皇

丙午ノ冬、至ニ當リ天下ニ大赦シ給フ詔（政治要略 延喜十七年十一月）

先王制レ禮、候二星辰一而擧二萬機一。上帝施レ功、分二寒暑一、而理二群物一。是以致二均平一、則無レ僭二居諸一。運行之節、協二序陰陽一者、則不レ違二啓閉推步期一。朕以二虚一、忝承二洪業一。臨レ深履レ薄、勤二勞股肱一。常恐レ失二月令於急務一、迷二時若之風雨一。廼者、有司奏言。今年十一月朔旦冬至、得二天紀一、終而後始。誠是王者延レ祚祥也。眇々身、豈敢鍾レ之。思二天下共一此休祥一。自二延喜十七年十一月十七日昧爽一以前、徒罪以下、不レ論二輕重一、咸從二原免一。但八虐、故殺人、謀殺人、强竊二盜、私鑄錢、常赦所レ不レ免者、及欠二負官物一類、不レ在二赦限一。若以二赦前事一、相告言者、以二其罪一罪レ之。其功臣末葉、及才効著聞者、特加二榮賞一、以穆二朝章一。又内外文武官主典以上、爵叙二一級一。左京正六位上諸吏、及史生以下、直丁以上、并天下高年者、宜二量賜一。庶遍二惠澤於四海一、答二靈貺於九天一。布二告遐邇一、俾レ知二朕意一。主者施行。

○萬機―政治を云ふ。機は樞機の機である。
○施功―功は機巧で、たくみをなすこと
○月令―十二箇月の時節に應じて令を布くこと。
○時若―若は助詞。
○休祥―祥は福の先づ見はる者で、吉兆のこと。

### 謹譯

先王ノ禮ヲ制シテ、星辰ヲ候ヒテ萬機ヲ擧グ。上帝功ヲ施シテ、寒暑ヲ分チ而シテ群物ヲ理ム。是ヲ以テ、教均シク平カナルトキハ、卽チ居諸僭無シ。運行ノ節、陰陽序ニ協バ、則チ啓閉推步ノ期ヲ違ヘズ。朕菲虛ヲ以テ、忝ク洪業ヲ承ク。深ニ臨ミ薄ヲ履ミ、股肱ヲ勤勞ス。常ニ月令ヲ急務ニ失ハンコトヲ恐レテ、時若ノ風雨ニ迷フ。廼者有司奏言ス。今年十一月朔旦冬至、天ノ紀ヲ得。終テ而シテ復始ム。誠ニ是レ王者祚ヲ延ブルノ祥ナリト。眇々ノ身、豈ニ敢テ之ニ鍾ランヤ。天下ト此ノ休祥ヲ共ニセンコトヲ思フ。延喜十七年十一月十七日ノ昧爽ヨリ以前、徒罪以下、輕重ヲ論ゼズ、咸ク原免ニ從フ。但シ八虐、故殺人、謀殺人、强竊二盜、私鑄錢、常赦ノ免サザル所ノ者

及ビ官物ヲ欠負セルノ類ハ赦ノ限リニアラズ。若シ赦前ノ事ヲ以テ、相告スル者ハ、其ノ罪ヲ以テ罪ス。其ノ功臣ノ末葉、及ビ才効著聞ナル者ハ、特ニ榮賞ヲ加ヘ、以テ朝章ヲ穆ニセヨ。又内外文武官、主典以上ハ、爵一級ヲ敍シ、在京ノ正六位上ノ諸吏、及ビ史生以下、直丁以上、並ニ天下高年ノ者ニハ、宜シク量リテ物ヲ賜フベシ。庶クバ惠澤ヲ四海ニ遍クシ、靈貺ヲ九天ニ答ヘム。遐邇ニ布告シテ、朕ガ意ヲ知ラシメヨ。主者施行セヨ。

○主典―大寶令に制定してゐる等官の一つ。佐官とも書く。○直丁―壯年の男を云ふ。年齢によつて正丁、次丁の別がある。

## 釋空海大師ノ號ヲ贈リ給フ勅

（扶桑略記二十四　延喜二十一年十月）

琴絃既絶、遺音更清、蘭蕤雖レ凋、餘香猶播。故贈大僧正法印大和尚位空海、消弃煩惱、抛却驕貪、全三十七尊之修行、斷九十六種之邪見。受密語者、滿於山林、敎眞珠者、成於淵藪。況太上法皇、既久味其道、追念其人。誠雖レ浮夫之波濤、何忘積石之源本。宜加崇飾之謚、號弘法大師。

○蘭蕤―蘭の叢のこと。○三十七尊之修行―三十七尊金剛界曼荼羅の羯磨會諸尊を云ふ。大日、阿閦、阿彌陀、寶生、不空成就の五佛、金剛、寶、羯磨、法の四波羅蜜菩薩、愛、王等の十六菩薩、内外の四供養、四攝の四菩薩、上は三十七尊以下の修行を指す。○九十六種之邪見―佛出生前の印度外道の總數。○密語―密敎のことを云ふ。

## 謹譯

琴絃既ニ絶ツモ、遺音更ニ清ク、蘭蕤凋ミタリト雖モ、餘香播シ。故ノ贈大僧正法印和尚位空海、煩惱ヲ消弃シ、驕貪ヲ抛却シ、三十七尊ノ修行ヲ全クシ、九十六種ノ邪見ヲ斷ツ。密語ヲ受ケシ者、山林ニ滿チ、眞珠ヲ敎ヘシ者、淵藪ヲ成ス。況ンヤ太上法皇既ニ久シク其ノ道ヲ味ヒ、其ノ人ヲ追念スルヲヤ。誠ニ夫ノ波濤ニ浮ブト雖モ、何ゾ積石ノ源本ヲ忘レンヤ。宜シク崇飾ノ謚ヲ加ヘ、弘法大師ト號スベシ。

## 村上天皇

## 服御常膳ヲ減ジ恩赦ヲ施シ給フ詔

（本朝文粹　天曆十年七月）

儉者德之本也、明王能致。惠者仁之源也、聖主必施。朕以寡薄、誤守洪基。居黃屋而不驕。役丹符而自約。而化非春風、澤殊時

雨。慎日之空積、有年之年難逢。況頃者、甘澍不降、苦旱久盛、園圃不見青草之色、壠陌多含赤地之愁。夫德政防邪、善言招福。殷宗雊鼎之雉、昇平之妖、自消。宋景退舍之星、守心之非變異。其朕服御物、並常膳等、宜重省減。左右馬寮秣穀、一切擁絶。諸作役非要者、量事且停。又狷固之中、恐有冤者。速命所司、申慮放出。加之天下諸國有水處、任令百姓灌漑、先貧後富。高年鰥寡孤獨、不能自在者、量加賑贍。又免除五畿内七道諸國、去天暦五年以往、調庸未進在民身者。但東海、東山、山陽三道、驛戸田租、限三箇年、殊從原免。若丹誠有感、蒼穹無欺、則降霈澤於不日、望穀稼於如雲。普告遐邇、俾知朕意。主者施行。

## 謹譯

儉ハ德ノ本ナリ、明王能ク致ス。惠ハ仁ノ源ナリ、聖主必ズ施ス。朕寡薄ヲ

○洪基―皇位　○黄屋―天子　○車―の　○丹符―天子たるべき　○應符―有年の年―豐年。○甘澍―よき雨。○壠陌―田畑　○赤地―生産・物の全滅すること。○殷宗云々―殷の高宗の時雉鼎に登りて鳴きしも妖をなすに至らず　○宋景―宋の景公の時熒惑の星心星を犯し、他に徙りも異をなさず　○擁絶―擁は雍に通ず。廢止すること。○狷固―牢獄　○鰥寡―老いて妻なきを鰥、夫なきを寡　○賑贍―施與　○原免―免除　○霈澤―雨の潤。

以テ、誤テ洪基ヲ守ル。黄屋ニ居テ、而シテ驕ラズ。丹符ヲ役シテ、而シテ自ラ約ニス。而モ化ハ春風ニアラズ、澤ハ時雨ヲ殊ニス。慎日ノ空シク積リ、有年ノ年逢ヒ難シ。況ヤ頃者、甘澍降ラズ、旱ニ苦ムコト久ク盛ニシテ園圃ニ青草ノ色ヲ見ズ、壠陌多ク赤地ノ愁ヲ含ム。夫レ德政ハ邪ヲ防ギ、善言ハ福ヲ招ク。殷宗ガ鼎ニ雊クノ雉、昇平ノ妖、自ラ消エ、宋景ガ舍ヲ退クノ星、心ヲ守ルノ變異ニ非ズ。其レ朕ガ服御ノ物、並ニ常膳等、宜シク重ネテ省減スベシ。左右馬寮ノ秣穀ハ一切擁絶セヨ。諸ノ作役ノ要ナラザルモノハ事ヲ量リテ且ク停メヨ。又狷固ノ中、恐クハ冤者アラン。速ニ所司ニ命ジテ、慮ヲ申ベテ放出セヨ。加之、天下諸國ノ水有ル處ハ、任ニ百姓ヲシテ灌漑セシメ、貧ヲ先ニシテ富ヲ後ニセヨ。高年鰥寡孤獨ニシテ、自存シ能ハザル者ニハ、量リテ賑贍ヲ加ヘヨ。又五畿内七道諸國、去ル天暦五年以往、調庸未進ノ民ノ身ニ在ル者ヲ免除セヨ。但東海、東山、山陽ノ三道ノ驛戸ノ田租ハ、三箇年ヲ限リ、殊ニ原免ニ從ヘ。若シ丹誠感ズルコトアリ、蒼穹欺クコト無クバ、則チ霈澤ヲ不日ニ降シ、穀稼ヲ如雲ニ望マン。普ク遐邇ニ告ゲ

テ、朕ガ意ヲ知ラシム。主者施行セヨ。

## 華山天皇

### 直言ヲ求ムルノ詔（本朝文粹 永觀二年十二月）

一人之耳、不能盡聽天下。一人之目、不得廣視域中。是以古之王者、或問謗譽於途、有邪必正。或採曠言於市、有善則行。朕在東圍十餘年、猶當少日、臨北闕四五月、既親萬機。朕粗聞前事、彌圖後治。頃年、蒼蒼屢降水旱之災、元元動勞土木之役、倉廩已竭、田園自荒。遊手浮食者多、好儉處約者少。書曰、木從繩則正、后從諫則聖。夫人主者、以納敢諫爲先。人臣者、以進謹言爲任。彼廣德之戒樓船、終就其安。朱雲之折殿檻、永令無理。且夫國之將興也、上下聚脣、國之將廢也、道路以自破家爲





國、至如面折尸諫者、是朕之願也。於戲、莫道澆季之俗、試忘身而扶之。莫言疲極之民、强戮力而濟之。人和天且和。民足君可足。晉平公問叔向曰、國之患孰爲大。對曰。大臣重祿不諫。小臣畏罪不言。下情不上通、此患之大者也。靖而思之、誠哉斯言。宜令公卿大夫、及京官外國五位以上、職居官長、秀才明經、課試及第、名爲儒士者、各上封事、匡朕不逮。卿等自慮中心。廣詢衆庶、不失寡婦忘緯之說、莫遺匹夫炙背之談。凡厥國之利害、政之得失、盡露其膽、以沃朕心。既容不諱之詞、欲聞無隱之議。主者施行。

### 謹譯

一人ノ耳、盡ク天下ニ聽クコト能ハズ。一人ノ目、廣ク域中ヲ視ルコトヲ得ズ。是ヲ以テ古ノ王者ハ或ハ謗譽ヲ途ニ問ヒ、邪有レバ必ズ正セリ。或ハ曠

○東園―東宮　○北闕―禁裏　○蒼々―天。　○元々―人民　○后―君主。

言ヲ市ニ採リ、善有レバ則チ行ヘリ。朕東園ニ在ルコト十餘年、猶少日ニ當リ、北闕ニ臨ムコト四五月、既ニ萬機ヲ親ラス。朕粗前事ヲ聞キテ、彌後治ヲ圖ル。頃年、蒼蒼屢水旱ノ災ヲ降シ、元元動モスレバ土木ノ役ニ勞シ、倉廩已ニ竭テテ、田園自ラ荒ル。遊手浮食ノ者多ク、儉ヲ好ミ約ニ處ル者ハ少シ。書ニ曰ク、木繩ニ從ヘバ、則チ正シ、后諫ニ從ヘバ、則チ聖ナリト。夫レ人主ハ、敢諫ヲ納ルヲ以テ先ト爲シ、人臣ハ、謹言ヲ進ムルヲ以テ任ト爲ス。彼ノ廣德ノ樓船ヲ戒ムル、終ニ其ノ安キニ就ク。朱雲ノ殿檻ヲ折ル、永ク理ルコト無カラシメタリ。且夫レ國ノ將ニ興ラントスルヤ、上下ノ脣ヲ聚メ、國ノ將ニ廢レントスルヤ、道路自ラ以テス。家ヲ破リテ國ノ爲ニシ、面折尸諫スルガ如キニ至ルハ、是レ朕ノ願ナリ。於戲、澆季ノ俗ト道フコトナカレ、試ニ身ヲ忘レテ而シテ之ヲ扶ケヨ。疲極ノ民ト言フコト莫カレ、强ヒテ力ヲ戮セテ而シテ之ヲ濟ヘ。人和スレバ天且ツ和ス。民足レバ君足ルベシ晉ノ平公叔向ニ問ウテ曰ク、國ノ患ハ孰ヲ大ナリト爲スト。對ヘテ曰ク、大臣祿ヲ重ンジテ諫メズ、小臣罪ヲ畏レテ言ハズ。下情上ニ通ゼズ、此レ患ノ

○廣德―漢の薛德天子の樓船に乘らんと欲するを諫めて橋の安きに就かしむ。○朱雲―漢の朱雲直言して天子の怒りに觸れ殿上より引下されし時、屋檻を攀ぢて之を折り修めんとす。後之を易へ之を以て直言をなす。時天子の旌せり。○尸諫―死後迄も諫むること。

○京官―在京の諸司。○外國―地方官。○課試―試驗。○封事―己の意見認め密封して上る上書。○寡忘緯―左傳昭公二十餘年に「蓋不レ恤二其緯一而憂二宗周之隕一」。○炙背―文選の與二山巨源一絶レ交書に「野人有レ日快炙レ背而美二芹子一者上欲レ獻二之至尊一」。○不諱の詞―遠慮する所なき詞。

大ナル者ナリト。靖ニシテ之ヲ思フニ、誠ナルカナ斯ノ言、宜シク公卿大夫及ビ京官外國ノ五位以上、職官長ニ居ルモノ、秀才明經、課試及第、名、儒士タル者ヲシテ、各封事ヲ上リテ、朕ガ不逮ヲ匡サシムベシ。卿等自ラ中心ヲ慮カリ、廣ク衆庶ニ詢テ、寡婦忘緯ノ說ヲ失ハズ、匹夫炙背ノ談ヲ遺ルルコトナカレ。凡ソ厥レ國ノ利害、政ノ得失ハ、盡ク其ノ膽ヲ露シ、以テ朕ガ心ニ沃ゲヨ。既ニ不諱ノ詞ヲ容ル、無隱ノ議ヲ聞カント欲ス。主者施行セヨ。

## 後一條天皇

### 服御常膳ヲ減ズルノ詔（小右記寛仁元年十二月）

節儉者上德富レ國之表儀也。損益者前賢安レ民之治要也。寔是皇道之彝訓、寧非二史册之明文一。故南面雖レ尊、唐葛之衣膚冷、中心是約。漢蒲之膳味疎。況淳風隔レ時、澆波臨レ世。四海已謝二有截之日一、